

ダムの底に、

地下壕の闇に、

第5回

全国交流集会

フィールドワーク ● 長野市松代町大本営地下壕
交流集会 ● 長野県勤労者福祉センター

1994.7.30~31



葬られたままの真実を、
新しい気持ちで
掘り起こすために —



「慰安所」の跡に、

朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える

主催 ● 第5回 朝鮮人・中国人
強制連行・強制労働を考える
全国交流集会実行委員会

目 次

よびかけ	1
集会日程	5
全体会会場案内図	6
宿泊先までの案内図	8
善行寺宿坊鳥瞰図	9
フィールドワーク資料	10
全体集会資料	
松代からの特別報告／青木孝寿さん	13
記念講演／井出孫六さん	14
詩と歌による構成 「あなた朝鮮の十字架よ」	15
分科会資料	
①入門講座：これから調査を始める人たちのために	18
②強制連行・強制労働をどう教えるか（教育の場で）	20
③女性と戦争（「慰安婦」問題を中心として）	24
④強制連行・強制労働とマスコミ	29
⑤調査・研究の新たな展開（連携へ向けて）	31
⑥史跡保存のあるべき姿（行政・観光）	34
⑦戦争責任・戦後責任を検証する（国家・企業・民衆）	36
⑧強制連行・強制労働と在日（21世紀へ向けて）	37
⑨「戦後50年」からの出発	38
賛同団体・個人紹介	41
B5フリーアピール	46
第5回交流集会 紹介記事	75
長野市街地図と電車時刻表	76

よびかけ

日本の近代化はアジアへの侵略・植民地支配と表裏一体で進められ、特にアジア・太平洋戦争では多くの人々の命を奪いました。日本軍により「強制従軍慰安婦」にされた女性たちや、強制連行・強制労働の犠牲となった人々から次々と補償要求の声が上がリ、日本の戦争責任を問う動きが、堰を切ったように噴出してきました。これは、戦後半世紀の月日が決して免罪符にはならないことを意味しています。

名古屋市で第1回の「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」が開催されて5年になります。ほおかむりを決め込んできた日本政府も、市民の手で明らかにされた事実を認めざるを得ない状況に追い込まれました。これは、各地で地道に調査活動が続けてきた個人・グループの力の蓄積があつてのことです。これまで4回の全国交流集会は、こうした成果を交換しあい、結集する貴重な機会となってきました。

第5回の全国交流集会は、松代大本営のある長野市で7月30～31日に開かれることになりました。多数の朝鮮人労働者を酷使し、本土決戦の最後の「砦」として作られた松代大本営は、まさに日本の行った強制連行・強制労働の象徴的存在です。

大本営地下壕着工からちょうど50年目に当たる今年、この地で全国交流集会を開催できることは、私たち実行委員会にとっても大きな喜びです。各地の1年間の成果を持ち寄って学びあい、それぞれの調査・研究を一層発展させる足掛かりとなる2日間にしたいと思います。もちろん、大本営地下壕のフィールドワークも予定しています。

日本の戦争責任・戦後補償をめぐる問題がようやく浮上してきたとはいえ、まだまだ未解決のものばかりです。地下壕の闇に、ダムの中に、「慰安所」跡に葬られたままの真実を、新しい気持ちで掘り起こすためにも、一人でも多くの方の参加を呼びかけます。

1994年 6月

第5回 朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える
全国交流集会実行委員会

제5회
조선인, 중국인
강제연행·강제노동을
생각하는
전국교류집회

일본의 근대화는 아시아에로의 침략, 식민지 지배와 포 리일체로 진행되어 특히 아시아, 태평양전쟁에서는 많은 사람들의 생명을 빼앗아갔습니다. 일본군의 「위안부」로 강요당한 여성들과 강제연행, 강제노동의 희생이 된 사람들의 잇달은 보상요구에 의하여 일본의 전쟁책임을 추구하는 움직임이 앞을 다투면서 분출하고 있습니다. 이것은 전후 반세기의 세월이 결코 면죄부가 되지 않았음을 의미하고 있습니다.

名古屋市에서 제1회 「조선인, 중국인 강제연행, 강제노동을 생각하는 전국교류집회」가 개최된지 5년이 됩니다. 사실을 부정하여 온 일본정부도 시민들에 의하여 밝혀진 사실들을 인정하지 않을 수 없는 상황에 이르렀습니다.

이것은 각지에서 꾸준히 조사활동을 계속해온 개인그룹의 힘의 축적이 있었기 때문입니다. 지금까지 4번에 걸쳐 진행된 전국교류집회는 이러한 성과를 서로 교환, 집결하는 귀중한 기회로 되어왔습니다.

제5회 전국교류집회는 松代大本營이 있는 長野市에서 7월30, 31일에 개최되게 되었습니다. 다수의 조선인 노동자를 혹사하고 본토결전의 최후의 보루로써 만들어진 松本大本營는 실로 일본이 감행한 강제연행, 강제노동의 상징적인 존재입니다.

大本營지하호 착공으로부터 마침 50년에 해당하는 올해, 이 땅에서 전국교류집회를 개최할 수 있게 된것을 저희들 집행위원회 일동 매우 기쁘게 생각합니다.

각지의 1년간의 성과를 서로 교환하면서 서로의 조사, 연구를 한층 발전시키는 계기가 되는 이틀간이 되리라 생각합니다.

일본의 전쟁책임, 전후보상을 둘러싼 문제가 겨우 부각되었기는 하나 아직 미해결문제들이 스테 많습니다. 지하호의 어둠속에, 댐의 바닥에, 「위안소」 밑에 묻혀진 채로 되어있는 진실을 새로운 마음으로 다시 밝히기위해 한분이라도 많은 분들이 참가해주시기를 부탁드립니다.

제5회 조선인, 중국인 강제연행, 강제노동을
생각하는 전국교류집회실행위원회

呼吁参加第五次 思考朝鲜人
中国人被强制押送和强制劳动的
全国交流集会

日本的现代化，是把向亚洲发动侵略及其殖民地统治并驾齐驱推进的，特别是，在亚洲·太平洋战争中，剥夺了大量的人身性命。被迫为日本军“慰安妇”的女性们以及牺牲于强制连行，强制劳动的人们要求赔偿的呼声日益强烈。向日本追究战争责任的运动，像冲破闸门的洪水一样爆发出来。从而表明，战后半个世纪的日月，冲不是免罪卡。

五年前，曾在名古屋市首次召开了“朝鲜人、中国人强制连行，强制劳动思考全国交流集会”。由此，迫使一贯佯装一无所知的日本政府也不得不承认了由市民之手搞清楚了的事实。这些成绩是各地埋头苦干，任劳任怨坚持调查的个人和团体付出了很大代价的结晶。前四次全国交流集会，为彼此相互交流成果，提供了难能可贵的机会。

第五次全国交流集会将于7月30日、31日在松代大本营所在地长野市举行。作为本土冲战的最后“堡垒”、酷使多数朝鲜人而建的松代大本营，正好是日本强制连行、开始施工大本营地下壕沟的第五十个年头的今年，在这里召开全国性交流集会，对于我们实行委员会来说，是一件非常高兴的事。我们希望，各地都带来一年来的成果，相互学习、相互交流，使这次大会成为进一步促进各自的调查于研究的盛会，不言而喻，此次大会还预定去大本营地下壕沟进行实地现场调查。

日本的战争责任，战后赔偿问题，可以说终于被提出来了，但是，尚远远未得到解决，为了以清新的感觉去挖掘出那些被掩埋在地下壕沟暗处、水库地、“慰安所”遗址的事实真相，呼吁、号召更多的人参加有关的调查、研究活动。

第五回朝鲜人、中国人强制连行、强制劳动を考ふる
全国交流集会实行委员会

ANNOUNCEMENT
THE 5TH CONFERENCE
ON KOREAN AND CHINESE FORCED LABORERS

The Japanese considered their actions abroad "modernization", but in the process of modernizing, Japan invaded and colonized other Asian nations.

The Japanese Army killed thousands of people during the Asia-Pacific Ocean War. Women who were forced to work as a comfort woman and other people who were taken away from their countries as forced laborers have recently started suing Japan for compensation. Even though 50 years have passed since the war, time has not washed away the wrongdoing of the Japanese Army.

It has been five years since "The 1st National Conference on Korean and Chinese Forced Laborers" was held in Nagoya. The Japanese government, which had been ignoring the truth, was forced to admit the facts, as civil groups proved it. The efforts of many people and groups made this happen. We believe that the past four Conferences were precious opportunities to learn about the war.

The 5th Conference will be held in Matusiro, Nagano City on July 30th and 31st. 'The Matusiro Headquarters of the Imperial Army' was built by thousands of Koreans and Chinese who were taken from their countries and forced to work. It was built in preparation for the last inland fight of Japan. Now it became the symbol of the forced labor and the terrible thing the Japanese Army did to Koreans and Chinese people.

We planned the Meeting here in Matusiro because this year is the 50th anniversary of the initial construction of Matusiro Headquarters. Many people and groups from all over Japan will report on the War during the 2-day conference. An inspection tour of the underground ruins of the Headquarters is also planned.

At though the issue of Japan's responsibility for the War and post war compensation has been raised, many problems are left unsolved. There are still a lot of unknown facts buried in the darkness of underground shelters, under the water of dams, and under the ruins of comfort places.

In order to make further progress in our understanding of the history of Korean and Chinese forced laborers, we hope that as many people as possible will attend this conference. We look forward to seeing you in Matusiro in July.

DATE : July 30-31, 1994

PLACE : Matusiro, Nagano City

SPONSOR : The Executive Committee for the 5th Conference on
Korean and Chinese Forced Laborers

【集会日程】

● 7月30日(土)

- | | |
|-------------|---|
| 11:00~14:30 | フィールドワーク《象山地下壕》
[受付] 民俗資料館「時代の館」前 (0262-78-9998)
◆11時出発コース(受付10:30より)
公開・非公開部分および地震観測所(天皇御座所)見学
◆12時出発コース(受付11:30より)
公開・非公開部分見学
◆13時出発コース(受付12:30より)
公開部分見学 |
| 13:00~15:00 | 全体集会受付《長野県勤労者福祉センター》 |
| 15:00~17:00 | 全体集会①《 ” 》
◇あいさつ・実行委員会
◇松代からの特別報告／青木孝寿さん(歴史研究者)
◇記念講演／井出孫六さん(作家) |

◎徒歩で移動◎ 宿坊にて宿泊受付

17:30~18:30 | 夕食・入浴《各宿坊にて》

◎徒歩で各分科会会場(宿坊)へ移動◎ 分科会受付

19:00~20:30	分科会《各宿坊》
20:30~	交流会《 ” 》

● 7月31日(日)

7:30~8:30 | 朝食

◎徒歩で移動◎

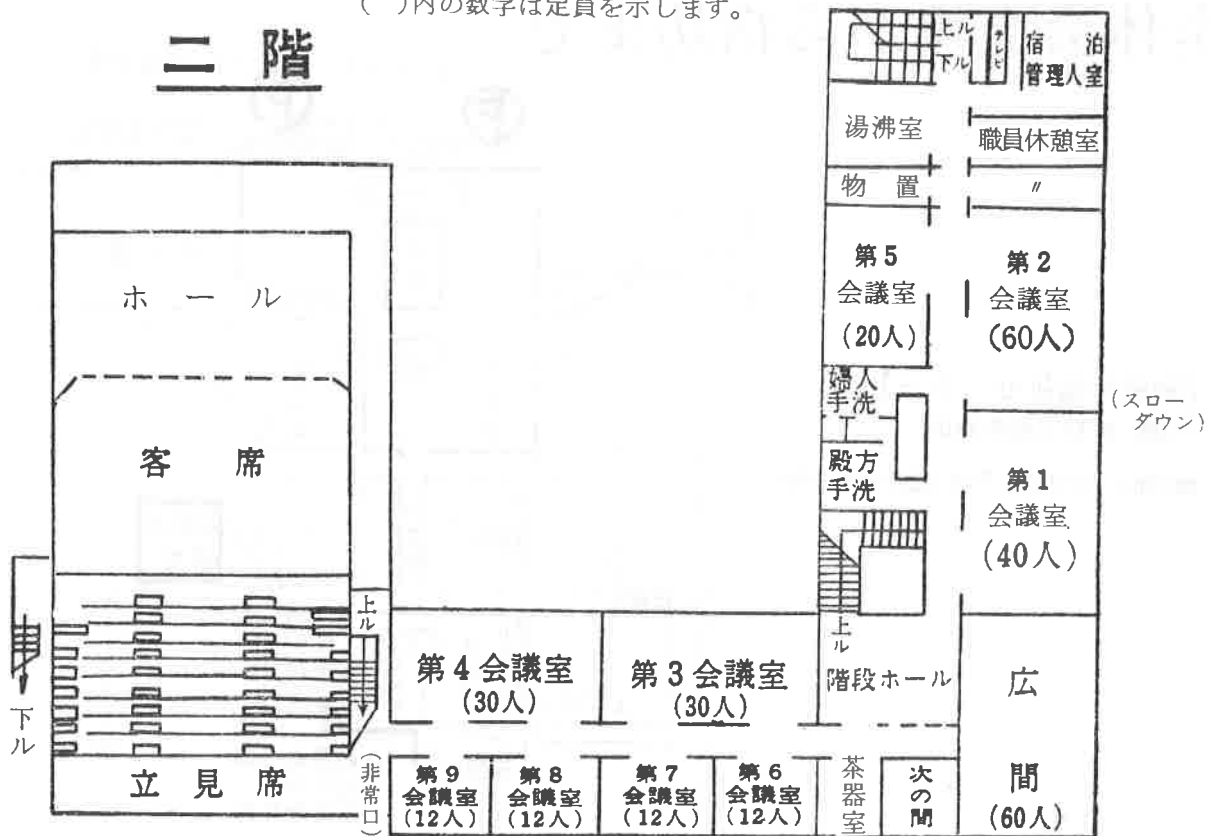
9:00~11:00	分科会 《勤労者福祉センター》
11:00~12:00	全体集会②《 ” (大ホール) 》 ◇詩と歌による構成「あなた朝鮮の十字架よ」 (原作:張 貞任、訳:金 知栄、演出:李 愛美) ◇分科会報告 ◇次回開催地あいさつ

全館平面図

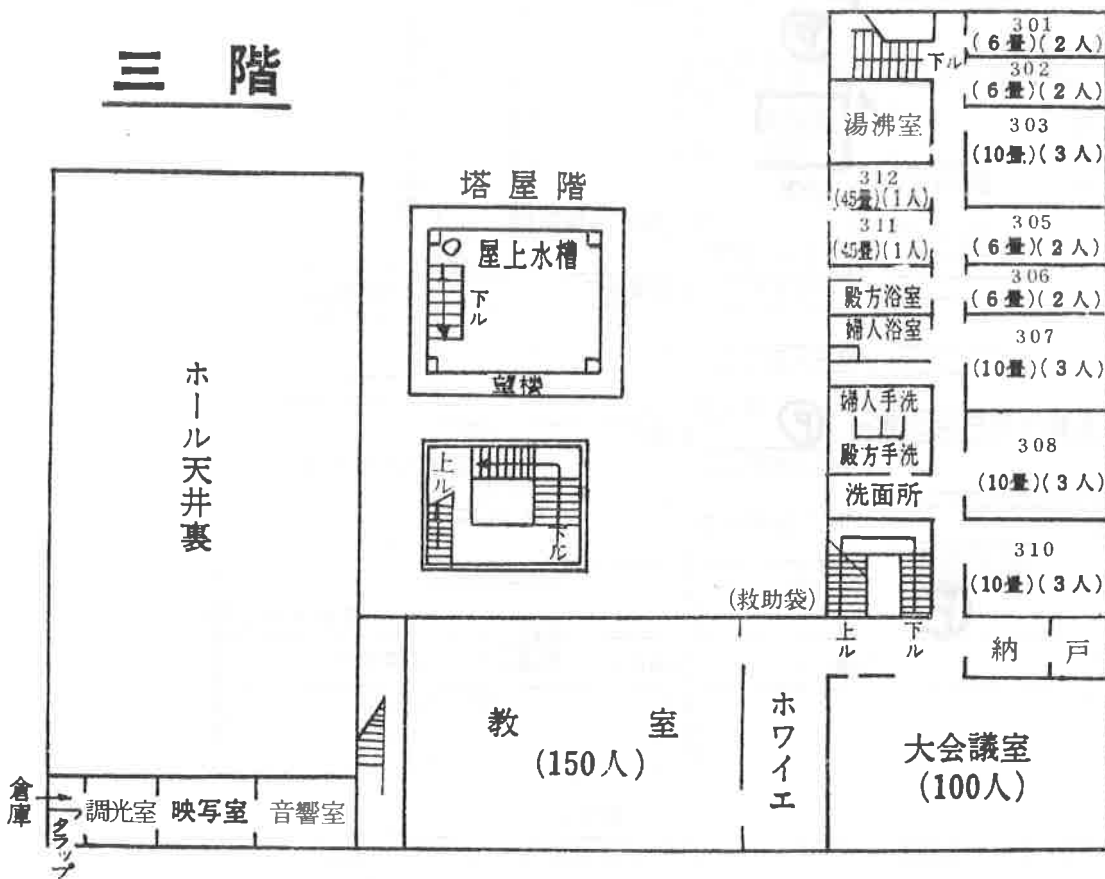


()内の数字は定員を示します。

二階



三階



全体会会場から宿坊まで

【勤労者福祉センター】

〒380 長野市旭町1108

☎0262-33-3231 FAX 0262-32-4461

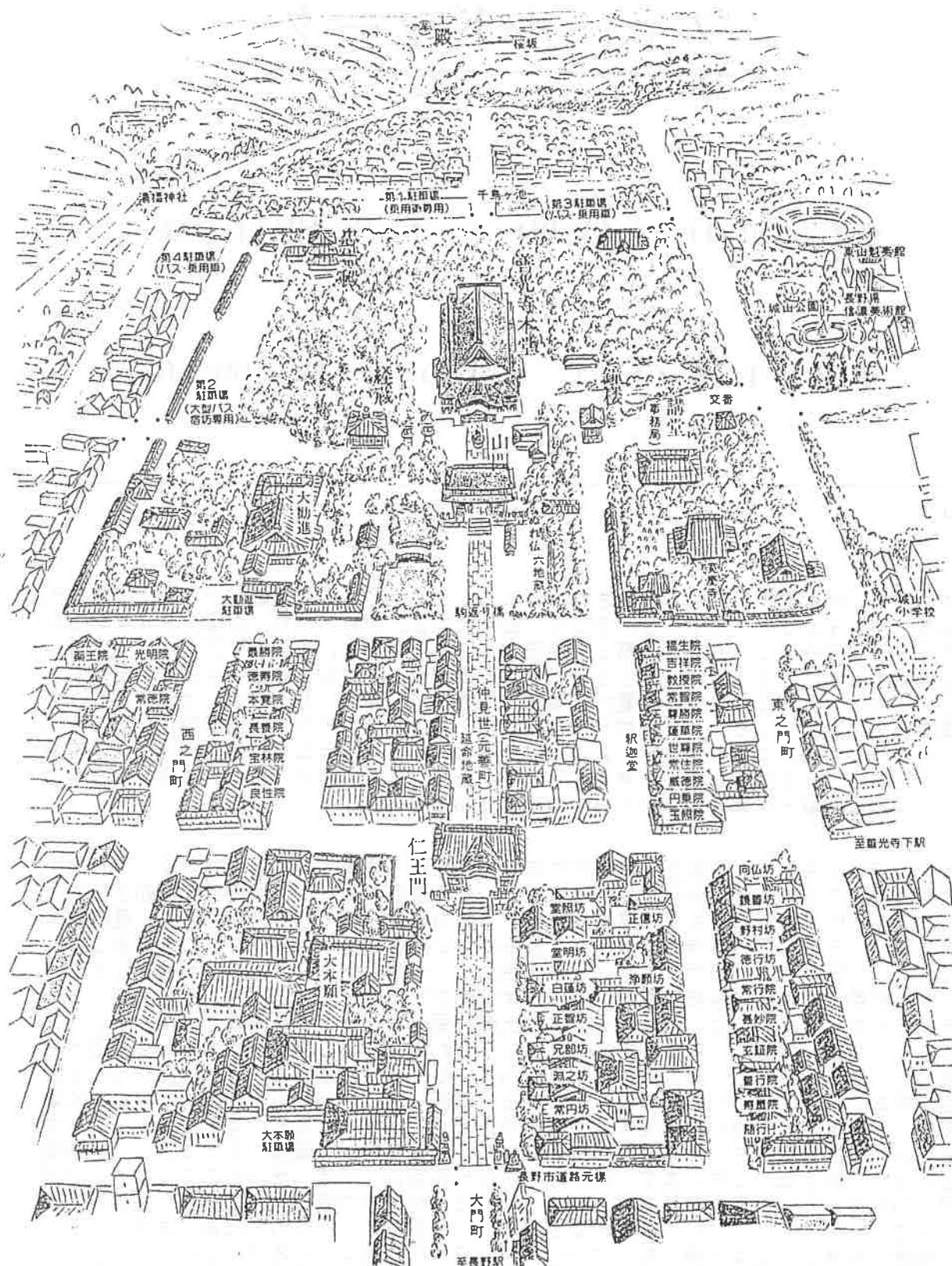


善行寺宿坊鳥瞰図

【当日の宿泊先への連絡】

10軒の宿坊に分宿予定。代表連絡先は

善光寺宿坊：徳行坊 ☎0262-32-0264 FAX 0262-34-6297



フィールドワーク

◆長野市松代町大本營地下壕

◆7月30日（土） 11時～2時30分

この国に「大本營」が初めて設置されたのは1894年6月5日、最初の移転は「広島大本營」の1945年9月15日、そして「松代大本營」が着工されたのは1944年10月18日（発令は10月4日、第1号発破は11月11日）、大日本帝国から「大本營」が消滅するのは1945年9月13日です。日清戦争の開始は1894年8月1日ですから、その2カ月前に大本營の設置が必要だった理由は、朝鮮（97年から大韓帝国）への軍事介入のためでした。「日韓併合」は確かに1910年ですが、侵略開始は1894年だと断じないわけにはいきません。こうして私は、1945年までの半世紀を「大本營時代」と呼ぶことを提案したいと考えています。そしてまた今年が「松代大本營」から半世紀、来年は敗戦と米軍占領開始から半世紀目にあたります。

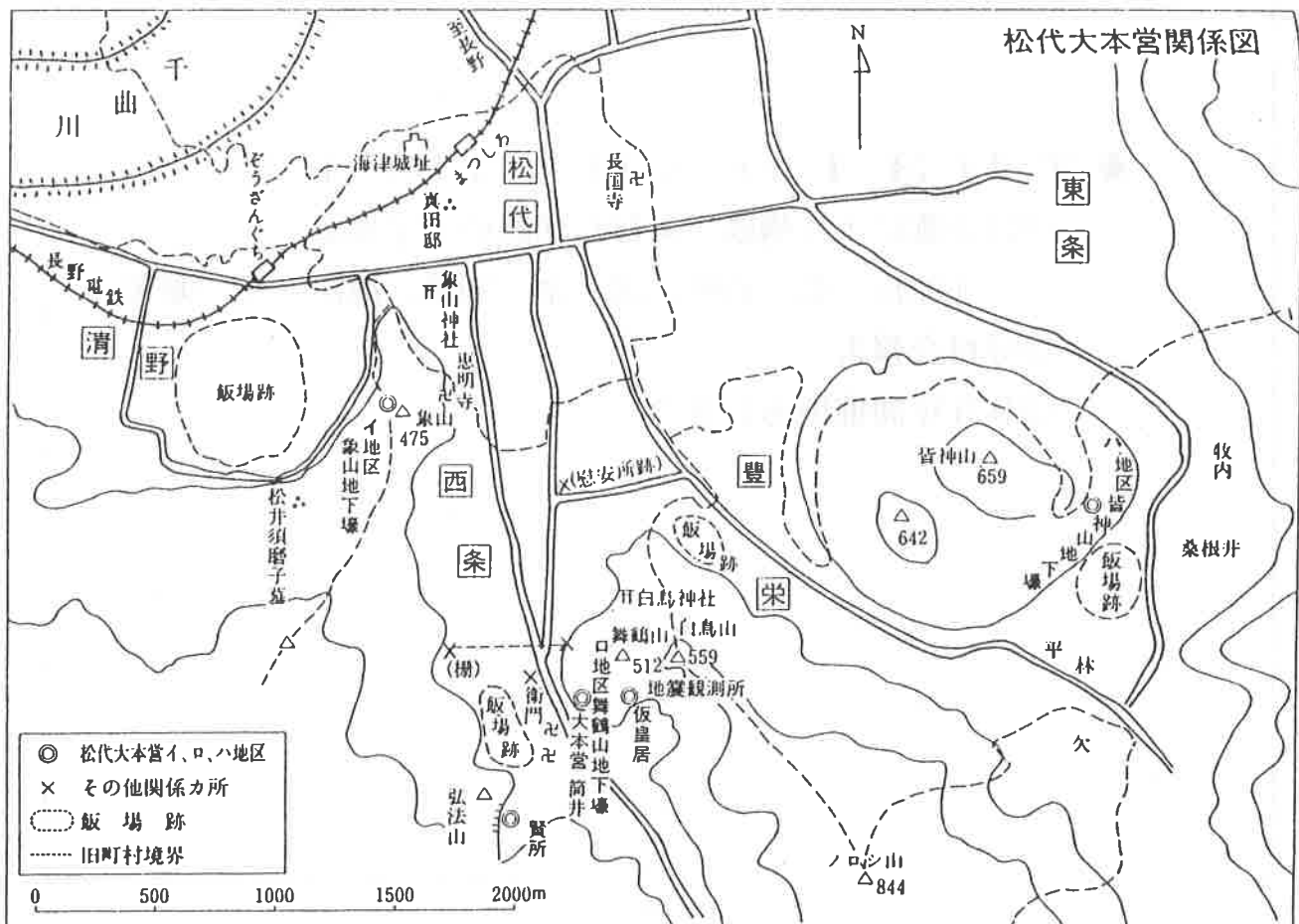
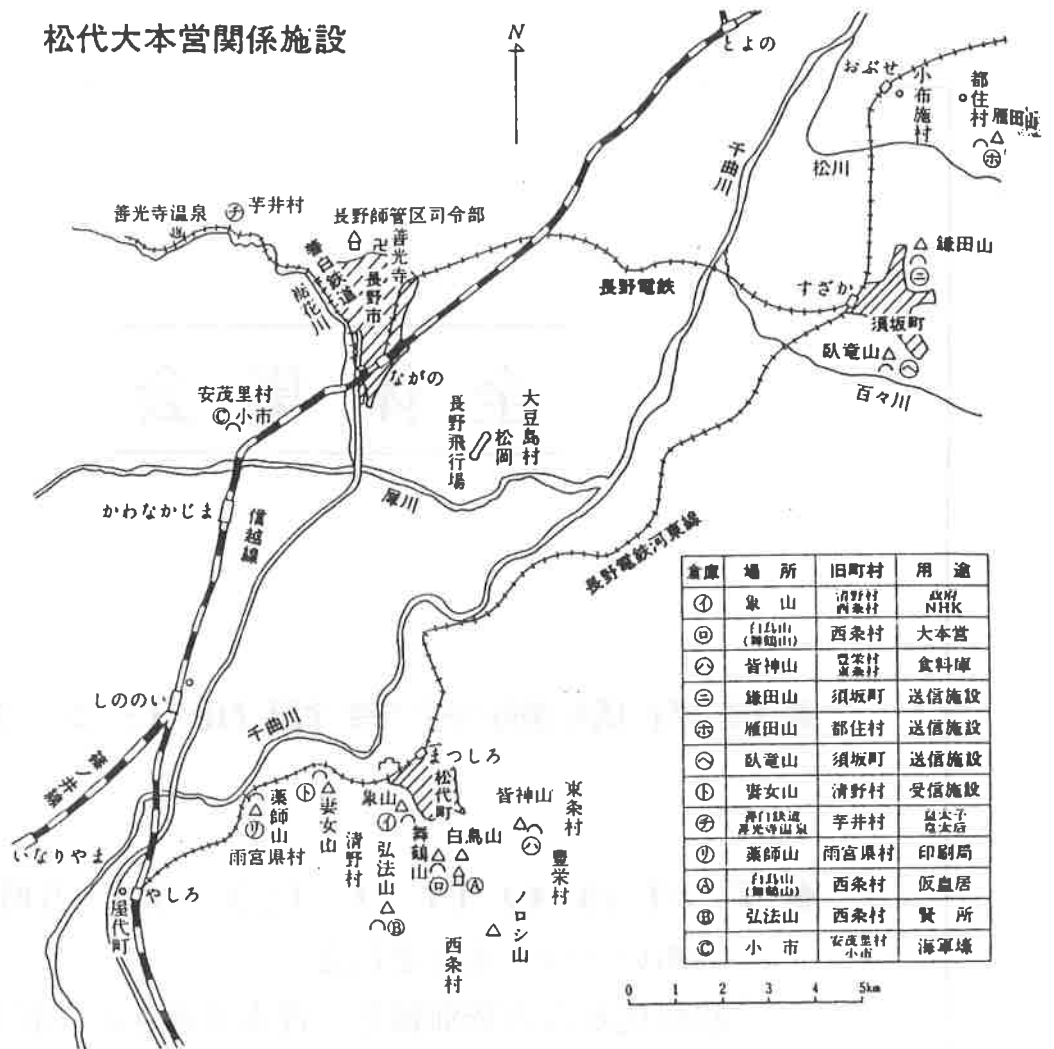
＊

松代の三山を中心として善光寺平一帯に造営された地下壕網（山の数でいえば九つ）は、政府諸機関や日本放送協会などの一部移転としての遷都計画、軍の中樞機関移動としての大本營要塞化、これにともなう通信網設置、宮城の緊急移築としての難宮計画、皇位継承者の疎開、そして三種の神器の護持、これら六つが複合していた事実、まず注意してください。したがって「松代大本營」という呼称は、一面しか見ない危険性が内在します。しかも実際、これらの移転計画は別個に、首都圏ですでに完了していたことも判明しました。ですからマツシロは、米軍の日本本土上陸計画「オリンピック作戦（九州）」と「コロネット作戦（関東）」に対応するかたちで、これら（六つの側面）すべてが首都圏から複合して信州に移転し、降伏条件をより有利にするべく造営された地下壕計画だったと断定できます。その強力な推進者は、いわゆる「軍部」というよりも、正確には陸軍省や軍需省や内務省や宮内省や運輸通信省や情報局だった、つまり「政府の官吏」だったのです。さらに、通信施設がマツシロ計画の動脈であり、国体護持が心臓部であった、という事実もおさえておきたいと思います。のみならず松代計画は「予定」だったのではなく、「使用」が始まっていた事実も裏づけられました。また地元での受皿は、すべて「長野県」が担っていたのです。松代町や清野村など現在の「長野市」だったわけではありません。そして戦後、米軍GHQは正確にも、マツシロを「日本版GHQ」と名づけたのです。

講演会「松代大本營 50年目の真実」（1994, 5, 14）日垣隆氏のレジュメより



松代大本営関係施設



全 体 集 会

◆長野県勤労者福祉センター

◆7月30日（土） 3時～5時

◎あいさつ・実行委員会

◎松代からの特別報告／青木孝寿さん（歴史研究者）

◎記念講演／井出孫六さん（作家）

◆7月31日（日） 11時～12時

◎詩と歌による構成「あなた朝鮮の十字架よ」

（原作：張 貞任、訳：金 知栄、演出：李 愛美）

◎分科会報告

◎95年開催地あいさつ

「松代大本営」の歴史的意義と 保存運動の課題

青木 孝寿さん

1. 「松代大本営」の歴史的特徴
2. その今日的意義
3. 保存運動の展開
4. 研究と保存運動の課題

◇青木 孝寿（あおき たかじゅ）

長野市生まれ

歴史研究者（日本社会史）

元長野県短期大学教員

松代大本営の保存をすすめる会 会長

「戦後50年をふりかえる」

作家 井出 孫六さん

1931年、長野県白田町生まれ。東京大学文学部卒業。

「中央公論」編集者を経て作家となり、歴史小説、ルポルタージュを中心に執筆している。75年に、洋画家・川上冬崖を描いた「アトラス伝説」で直木賞受賞。

代表作に「杏花爛漫」「秩父困民党群像」「抵抗の新聞人 桐生悠々」「その時この人がいた」「戦後史」「終りなき旅 - 『中国残留孤児』の歴史と現在」（大仏次郎賞）など。

あなた 朝鮮の十字架よ

歴史詩集「あなた 朝鮮の十字架よ」より

著・張 貞 任

訳・金 知 栄

構成／演出・李 愛 美

演者・松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会
在日韓国民主女性会

●著者の「日本の読者へ」より

女性への徹底した蔑視、異民族（特にアジア人）に対する獣のような扱い、軍国主義・帝国主義の旗のもとで犠牲にした数多くの人命に対する真の謝罪がない限り、日本はいくら経済力が優れても尊敬されないことでしょう。／この本は、その時の彼女たち（従軍慰安婦）の感情になって彼女らが私の血の中で叫び、嗚咽の声をつづったものです。どうか恨多い冤魂の叫びを皆さんの胸を開いて聞いて下さることを願ってやみません。

●影書房刊（定価1751円）

●語句の説明

サムチョルリ（三千里）
チング（友だち）
チマ（スカート）
チョゴリ（上衣）
オモニ（お母さん）
ウエノム（倭奴）
チョニョ（少女・処女）
コヒャン（故郷）



誰があなたの血ぬられた体を洗い清め

あなたのずたずたにされた心臓を縫い合わせ

安らかに眠らせてくれようか

祖国より先に踏みにじられ

解放より先に忘れ去られた

歴史の涙の花よ

あなた この地の悲しく心傷む十字架よ

踏みつけられても生き返る野の花のように

恥ずかしさに嘆く私たちを目覚めさせ

背反の憤りを覚える祖国でも手探りで求めるのか

お下げ髪 澄んだ眼差しチニニの十六の生娘でなくとも

もう帰ってきて静かに休んでください

私たちの頼もしい膝を枕に

いま平和の小さな碑を建てよう

あなたはいつも純潔な私たちのオモニ

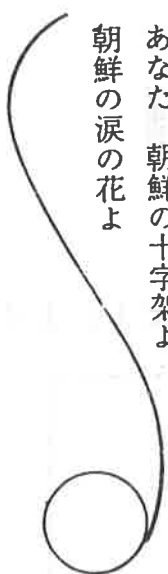
もう静かに翼を休め

もうこれ以上さ迷うことなく

安らかに 安らかに休んで下さい

あなた 朝鮮の十字架よ

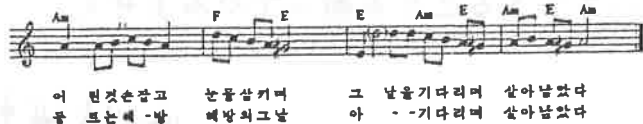
朝鮮の涙の花よ



아느냐 내 딸들아

「知ってるの、わが娘たちよ」

유스림 작사
안혜경 작곡



ユ・ソリム作詞
アン・ヘギョン作曲

- ※知ってるの、あなたたちは わが娘たちよ
分断されたこの地で、女に生まれた娘たちよ
同島の地、大阪へ、太平洋へ、
母は追われ、連れ去られた
この地の歴史のように、踏みにじられても
十の手のつめ、両肩砕かれても
幼な子手をとって涙こらえ
その日を待ち望んで、生き残った
- 都会へ、紡績工場へ、夜の街へ
姉は追われ、連れ去られた
それでも死なない野の花になり
両手のこぶし握りしめ、涙を隠し
夜明けの解放、解放のその日
あー 待ち望み、生き残った

この歌は挺身隊として連行された女性たちの痛みを主題に作られたもので1991年3月8日の「3・8国際婦人デー記念第7回韓国女性大会（韓国女性団体連合主催）」において開会に先立って歌われた。



分 科 会

◆ 7 月 3 0 日 (土) 午後 7 時 ~ 8 時 3 0 分

◎善行寺宿坊にて

◆ 7 月 3 1 日 (日) 午前 9 時 ~ 1 1 時

◎長野県勤労者福祉センター会議室にて

※部屋割りは当日に発表します

- ①入門講座：これから調査を始める人たちのために
[松代大本営を通じて強制連行・強制労働を考える]
- ②強制連行・強制労働をどう教えるか(教育の場で)
[学校教育での実際の取り組み／成果・課題／等]
- ③女性と戦争(「慰安婦」問題を中心として)
[「慰安婦」問題の現状／補償の方向性／等]
- ④強制連行・強制労働とマスコミ
[メディアによる報道の問題点／マスコミを活用する知恵]
- ⑤調査・研究の新たな展開(連携へ向けて)
[調査活動のノウハウ／新しい調査の視点／情報交換／等]
- ⑥史跡保存のあるべき姿(行政・観光)
[保存の姿勢・公開の仕方／行政サイドの戦争・平和博物館ブームを問う／等]
- ⑦戦争責任・戦後責任を検証する(国家・企業・民衆)
[それぞれの責任の追及／「責任」の示し方とは?／等]
- ⑧強制連行・強制労働と在日(21世紀へ向けて)
[在日の立場から問題をどうとらえるか／課題と展望／等]
- ⑨「戦後50年」からの出発
[戦争責任の「時効成立」をさせないためには／国際的な場で日本の戦争責任を問うには／国際連帯の可能性／等]

◆第1分科会

入門講座

これから調査を始める人たちのために

強制連行・強制労働をめぐるさまざまな問題と、それらについてどう関わっていくのかという運動の仕方について、「松代」を例にとって考えます。

【問題提起】

①「松代大本営」のあらましとその提起する問題

発題者；青木孝寿（松代大本営の保存をすすめる会）

●司会；神田千尋（松代大本営の保存をすすめる会）

前田智子（松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会）

《第1分科会報告》

「松代大本營」のあらましとその提起する問題

松代大本營の保存をすすめる会 青木孝寿

1. 太平洋戦争末期と大本營

戦争末期に大本營はどんな役割をもっていたか 大本營とは

2. 大本營の移動の動機、目的

「絶対国防圈」の危機、崩壊 空襲からの防衛 「本土決戦」

への対処 「国体の護持」のため

3. 松代付近を適地とした理由

海岸線から遠い 平坦地・飛行場あり 堅い岩盤 比較的労力

潤沢 人情純朴（防壁） 信州は神州に通ず

4. 分 布

松代中心に善光寺平に関連施設 ほかに県下に関係施設・人員

5. 地下壕の構築

(1) 構築の経過

(2) 組織 陸軍省ほか 東部軍 運輸通信省

国策会社（請負 西松組・鹿島組ほか）

(3) 労働力 朝鮮人

日本人

(4) 施行出来高

6. 朝鮮人強制連行

(1) 厳しい統制と劣悪な生活

(2) 激しい労働

(3) 傷病・死亡

7. 「松代大本營」と日朝民衆

「賢所の掘削は純粹の日本人に」 「慰安所」

日朝民衆の交流

8. 保存運動とその課題

(1) 啓発、調査、研究

(2) 高校生と市民運動

(3) 史跡指定、「平和祈念館」の運動 行政の対応

9. 「松代大本營」の提起する問題

◆第2分科会

強制連行・強制労働をどう教えるか ——教育の場で

学校教育・社会教育の場で、強制連行・強制労働についてどのように教え、また調査活動を行なっているのか。実際の取り組みのなかから、成果・課題をあげながら議論をすすめたいと思います。

【問題提起】

①1987年の実践 十五年戦争を掘り起こすクラス研究

発題者；峯村 勉（松代大本營の保存をすすめる会）

②高校生による茨木市安威海軍地下倉庫の発見と小学生用教材ビデオ「強制連行と茨木～ある朝鮮人の記録～」の作成 ※ビデオ上映あり

発題者；塚崎昌之（大阪府朝鮮人強制連行真相調査団・茨木市同和教育研究会在日朝鮮人教育専門部会・共同）

●司会；高橋 信（愛知県朝鮮人強制連行歴史調査班代表）

峯村 勉（30日）（松代大本營の保存をすすめる会）

北原高子（31日）（松代大本營の保存をすすめる会）

1987年の実践

十五年戦争を掘り起こすクラス研究

——中学生の知的欲求と活動エネルギーを、教育課程の中にどう位置づけるか——

一、テーマ設定の理由

現在の子どもたちの強い知的欲求や活動エネルギーを、現在の教育課程の中で、どのように引き出していったらいいのか。

二、調査研究活動の成果 ——生徒たちが明らかにしたもの

① 中国人強制連行の全国的な状況

夏休み明けに、一班が中心となり、都道府県別に集計する作業に入り、9月末の文化祭には、大分布図となり、注目されることとなった。

② 朝鮮人について

8月4日、小林昭一郎さんを訪れた4班は、朝鮮人強制労働の重要な証言を得た。

③ 学徒動員の実態

須坂中学の4年生全員、約100人と飯山中学の4年生約30人が4月に動員され、12月初めの大雪まで、家には帰れなかったという。地元では小学生、柏原国民学校高等科の生徒たちも赤土掘りに動員されたという。

④ 地域の婦人の動員

六班は地域の婦人の動員状況を調べた。

⑤ 巨大な工場跡を見つける

工場跡は3班が担当した。荒れ放題の森林に入り、工場跡を見つけることができた。

⑥ 遺跡・遺物の保存をどうすすめるか

クラスで掘り起こした事実を遺跡に。この仕事は五班が担当した。

まず、町長に、また日中友好協会を訪ね、協力を依頼した。続いて、県知事に。

三、生徒が得たもの

四、残された課題

1、教育課程とクラス研究

2、諸教育問題とクラス研究

3、地域の人たちの支えとクラス研究

1988年の実践 戦争遺跡オリエンテーリング

地域に存在する戦争遺跡に、自分の体と目で直接触れることによって、戦争と平和の問題を実感でき、戦争を被害と加害の両面からとらえ、社会認識・歴史認識・人権感覚を、より豊かにする場とする。

I オリエンテーリングの課題

- a、蔺州開拓黒姫郷之碑 b、伝九郎用水連絡水路 c、朝鮮人の墓 d、学生寮跡
e、赤土（粉状褐鉄鉱）採掘地跡 f、日本焼結株式会社工場跡

II 雨中、オリエンテーリングを実施

高校生による茨木安威海軍地下倉庫の発見と

小学生用教材ビデオ「強制連行と茨木～ある朝鮮人の記録～」の作成

茨木市同和教育研究会在日朝鮮人教育専門部会
大阪府朝鮮人強制連行真相調査団

1992年 大阪府立学校在日外国人教育研究会(以後府立外教)結成

1993年 3月 府立外教自主活動部会第1回交流会でタチソ(陸軍高槻地下倉庫)のフィールドワークが行われ、大阪府下の多くの朝文研の生徒等が参加。

大阪府立山田高校朝鮮文化研究会(KCC)の生徒も参加。

5月 『朝鮮人強制連行調査の記録～大阪府編～』発刊

(大阪府朝鮮人強制連行真相調査団編著)

その中に“幻の地下施設”として吹田市にあった山田の海軍地下弾薬庫の記述有り。

6月 山田高校朝鮮文化研究会で文化祭発表のため、山田海軍地下弾薬庫の調査開始。

→残念ながら、施設はかなり規模のあるものだったが、1970年の万国博覧会の造成時に埋められてしまったことが判明

また、このときは朝鮮人労働との関連は判明しなかった。

(その後の調査により、現在は朝鮮人労働がかかわっていたことはほぼ判明している)

7月 吹田市のとなり、茨木市安威にも山田の付属施設があったことが山田の聞き取り調査中に判明。

このときは地下トンネルの存在はイ地区しかわからなかった。

→イ地区の地下トンネルは4本と考えられるが、入り口は危険防止のため、埋めもどされていた。

9月 京都府朝鮮人強制連行真相調査団がおこなった強制連行ホットラインに茨木で戦時中、トンネル掘りをしたという在日朝鮮人金泳九さんからの電話がはいっていることがわかる。

連絡をとると、安威で働かされていたことが判明。

茨木安威で強制連行された朝鮮人の労働があった事実がうかびあがる。

9月 山田高校の文化祭で「埋もれた吹田の地下軍需施設～山田海軍地下弾薬庫～」を発表。

(山田高校朝鮮文化研究会の生徒は3年生のため、残念ながらここで引退)

10月 府立外教と強制連行真相調査団のメンバーで金泳九さんに聞き取り調査。

茨木市同和教育研究会在日朝鮮人教育専門部会の先生にも呼び掛け、調査に加わっていただくことにする

11月 府立外教、強制連行真相調査団、茨木市同和教育研究会の共催で金泳九さんを招いて、安威での現地調査を行う。

マスコミ(新聞・テレビ)にとりあげられる。

12月 マスコミのニュースを見て、実際に現地へ行った方が、イ地区から600mぐらい離れたところに地元の人が防空壕とよんでいる現存する地下トンネルがあることを発見。情報をおよせいただく。

1994年 1月 ロ地区の現地調査を行う。

→5本、総延長550mに及ぶ地下トンネルであることが判明

2月 地元の方の証言よりさらにハ地区にも地区トンネルがあったことを発見
→3本、うち2本は現存。1本は奥行き55m

3月 ロ地区のマスコミ発表。

3月 東京の防衛研究所図書館で山田、安威地区の図面をはじめ、多くの資料を発見。

その中で、大阪府私市にも、陸軍造兵廠地下疎開工場があったことが判明。

→現地調査の結果、5本、総延長約200mの地下トンネルが現存していた。

私市でも学校の教師等を中心に「私市洞窟真相調査団」が結成され、調査活動を開始。

5月 真相調査団の手により、ビデオ「安威海軍地下倉庫」完成

対象:中・高校生 時間:19分

内容:①金泳九さんの証言を中心に、生い立ちから安威までの話をまとめ、強制連行の実態をとときあかす。

②実際のトンネル内の様子を見て、労働の実態を考えさせる

6月 茨木市同和教育研究会のビデオ「強制連行と茨木～ある朝鮮人の記録～」完成

対象:小学5年生 時間:18分

内容:茨木の安威での朝鮮人の強制連行を軸に、日本の朝鮮・中国侵略を平易に説き明かす

6月 吹田市で学校の先生を中心に「『吹田と戦争』の歴史を調べる会」を結成。

今後、朝鮮人と軍事施設のかかわりなどを含めて、戦時中、吹田がどのように侵略戦争を支えていったのかを明らかにし、教材化をはかっていくことを確認。

※現在、大阪北部では、本文中にあるように、学校関係者を中心として、地元と朝鮮人強制連行のかかわりを明らかにし、教材化していこうという動きが活発化してきました。その動きの先頭をきるものが、茨木安威の施設に関するビデオ教材です。

小学生用の強制連行教材ビデオといったものは、現在のところ、それほど多くないのではないかと考えます。分科会の会場にビデオの装置があれば、小学生用ビデオの方をみていただき、ご意見、ご批評をいただき、今後の各地のビデオ教材化の一助としていただければと考えております。発表に余裕があれば、一考お願い致します。

◆第3分科会

女性と戦争

——「慰安婦」問題を中心として

日本軍「慰安婦」問題の現状、補償の方向性などを中心に、今後の活動の課題などを討論したいと思います。

【問題提起】

①宋さんのとっての戦後補償とは

発題者；木野村照美（在日の慰安婦裁判を支える会）

②日本軍「慰安婦」問題の現況 責任者処罰の問題と仲裁裁判

発題者；山口明子（グループ・性と天皇制を考える）

●司会；張 明子（在日韓国民主女性会）

新谷ちか子（松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会）

日本政府は、いま「慰安婦」問題・戦後補償問題の決着にむけて、「補償に代わる措置」としての「アジア交流センター」（仮称）構想を打ち出しています。これはこれまでの慰安婦問題や戦後補償問題のなかで被害当事者が、要求してきた真の謝罪と補償とはまったく別の代物といえます。とりわけ7月18日の村山首相の所信表明演説のなかでも唄われ、8月の特別国会で予算決定を行なうことがあきらかにされました。

支える会は、この決定に反対します。なぜならばこの「アジア交流センター」は、慰安婦問題の解決とはまったく無縁のものです。元「慰安婦」の宋さんは、個人に対する謝罪と補償を要求しています。それは極めて正当な要求であり、かならず実現しなくてはならないものです。

宋さんは、「慰安婦」としての7年間のなかで、性を蹂躪され人間性を奪われ、そして筆舌につくしがたい被害を被りました。そして戦後の日本での生活のなかで、在日としての差別と元「慰安婦」としてさまざまな苦勞を強いられることになったのです。

宋さんは、「戦争をやるんだったら自分たちだけでやればいいんだ」「なんでよその国の人間を男も女もひっぱいくんだ」「ひっぱってたら謝らなきゃなんねえだ」といっています。そんな宋さんは、この「アジア交流センター」のことを話すと「そりゃいいことたもしんねけどおれとは関係ねえべ」と話しています。

支える会では、これまで宋さんにとっての戦後補償とは何かをめぐって討論をしてきました。

その内容は、会報NO4にも紹介していますが、

1、謝罪に関して

事実の認定、責任の所在を明記した謝罪を、本人に直接届ける。謝罪文は、日本語にハンゲル訳をつけてもの。

2、補償について

考え方：① 宋さんが受けた被害は、他の元「慰安婦」と共通するものに加えて、日本軍による戦地への放置のなかで限られた選択肢のなかで、加害国日本での生活を余儀なくされたという独自性をもっている。このことも補償の内容に組み込ませる。（戦中・戦後両方への補償）

② 在日で名乗りでている元「慰安婦」は、現在宋さん一人だが、宋さんへの補償は、潜在的被害者の補償をも想定したものでなければならない。

（個人と集団両方への補償）

補償の前提として：① 政府に聞き取り調査、生活実態調査をさせる。

在日の被害者の実態、韓国本国にいる被害者との違い、補償のあり方の違いを政府に認識させる。

3、個人補償（名誉回復と被害回復）

金銭によるもの：性的奴隷とされたことによる肉体的、精神的な被害に対して。

戦後不安定な位置におかれ、経済的、精神的、肉体的に困難をしいたことに対して

リハビリ的なもの：

教育（周囲の意識を変えるもの）：社会教育等

4、「慰安婦」制度の再発防止、在日韓国・朝鮮人差別の是正にかかわるもの

法制度の確立 戦争犯罪・戦時強姦・強制買春禁止の国内法。責任者処罰等。

教育・真相究明：学校教育、社会教育。

植民地支配の歴史 侵略戦争資料館等

このような内容でこれまで論議してきましたが、この事の実現にむけて、具体的にどのような運動を起こしていく必要があるのかを現在もまだ検討中です。

責任者処罰の問題と仲裁裁判

昨（1993）年10月、日本で開催された強制「従軍慰安婦」問題アジア連帯会議の席上、韓国挺身隊問題対策協議会の総務（当時）李美卿（イ・ミギョン）さんから、日本政府の負うべき元「慰安婦」被害者への法的責任として、被害者への補償と加害者への処罰が提起された。これは日本側の参加者の大半にとっては、実のところ、十分に受けとめかねる発言であったようだ。この考え方のひとつの帰結として、被害者たちと挺身隊協会は今年2月、日本の検察に告訴・告発状を提出した。その間に処罰という考えへの理解も多少ひろがったのではないだろうか。

わたし自身についていえば、この告発状の日本語への翻訳の作業という機会を得て、おぼろげながら事の次第が見えてくるような思いであった。韓国側で告発状の起草をされた朴元淳（パク・ウォンスン）弁護士は法律の素人にも理解できるような表現を心がけられたとのこと、この告発状は法律文書とはいえ、わかりやすい文章で、うちにこめた情熱の感じられるものであった。来日されたハルモニたちとともにこれを携えていった東京検察庁で、これを突き返された時、ハルモニたちは、庁舎の前で非難の声をあげた。その時、わたしたち、そばにいた日本人たちがそれに和してくれると思ったのに、日本人はなぜか呆然と立っていて、沈黙していたという感想を後になって聞いた。10月、そして2月、いつもわたしたちの対応は一拍ずつ遅れているのである。それは加害者であるものの感性の鈍さだろうか。

処罰というとき、「慰安婦」を犯した何千何万という男たちのうち、辛うじて今も生き残っている老人を捕まえてきて獄に投じることで恨みを晴らそうとしているかのようなイメージで、それは現実性に欠けるという批判もある。しかし、これを「日本政府の処罰義務の確認」とか、「加害者としての責任の自覚」と言いかえれば、かなり理解が容易になるのではないか。

被害者である元「慰安婦」たちは戦場における苦しみよりも、もっと長く、戦後50年近い日々を、慰安婦であったという過去のために、精神的、肉体的、そして物質的に苦しんできた。彼女たちが日本国家による組織的な戦争犯罪の被害者であることがもっと早く明らかにされ、正当な補償を受けていたならば、これほどの苦しみを忍ばなくてもすんだのではないだろうか。つまり、ここで問題となるのは、日本政府が当然なすべき法的責任の履行を怠ったがために生じた苦しみに対する償いの必要であり、それが、彼女たちの名

答回復につながるということなのである。

「アジア交流センター」や「女性自立（！？）センター」建設のような「補償に代わる措置」や、「生活支援のための募金」によって、このような苦しみが償われるとはだれが考えられるだろうか。

韓国の日本軍「慰安婦」被害者たちは、挺身隊問題対策協議会の支援のもとに、近く日本政府に対して賠償を求める訴えをハーグにある常設仲裁裁判所に提訴することを明らかにしている。

仲裁裁判にかけるためには、まず日本政府との間の紛争の所在を明らかにし、何について、どのような形で仲裁を求めるかを示す仲裁合意事項をきめることが必要であり、そのためには日本の弁護団の助力と日本の民衆の側の広い支援が必要である。

高齢の被害者たちが、国際舞台での決着を求めてたつまでには、長い時間とためらいがあったことをわたしたちは承知している。戦後50年にわたって裁かれなかった戦争犯罪を今こそ明確にして、きちんと責任をとってほしいというハルモニたちの願いにこたえることこそ、わたしたちにとっても、自らの歴史に対する責任を負うことであり、同時に日本が国際社会において成熟した一員としての資格をもつための一歩にもなるのではないだろうか。わたしたちは日本政府が国際機関による裁定を受け入れることによって、少しでも被害者の傷を癒やす方向でことをすすめてほしいと願い、今後そのための運動を進めてゆくつもりである。

◎常設仲裁裁判所とは 1899年ハーグにおける第1回平和会議の決議によって創設され、国家間、また国家と私人間の紛争を仲裁、調停することを目的としている。仲裁裁判所事務局は、第2次世界大戦後創設されたハーグの国際司法裁判所と同じところにあり、当事者の合意によって選任された3～5名の裁判官により比較的、短期間に結論が下される。日本はこの裁判所の法的な根拠となる国際紛争平和処理条約に1899年に加盟している。

◎仲裁合意とは 仲裁裁判においては、当事者間の合意によって、仲裁に付す事項の内容や、裁判官の選任の方法、法廷の開かれる場所などをきめることになっており、この取り決めを仲裁合意または付託合意（コンプロミ）とよんでいる。

（山口 明子・グループ・性と天皇制を考える）

◆第4分科会

強制連行・強制労働とマスコミ

強制連行・強制労働の問題や、それにかかわる活動などがマスコミのなかでどう扱われ、報道されているのか。マスコミの姿勢について問題とするとともに、今後どのような「活用」の仕方がありえるかを考えます。またマスコミ側からの提起も受けて、報道する側・される側の双方の場としたいと思います。

【問題提起】

①強制連行・強制労働とマスコミ

発題者；神谷丹路
ニミ

②

●司会；飛田雄一（神戸学生青年センター）

入江さやか（松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会）

神谷 丹路

1950.12.12

(1) マスコミ取材をサポートする立場として

具体例：山口県長生炭鉱の遺族探し

○朝日新聞西部本社・社会部M記者の企画

○「殉国産業人名簿」の“発見”

1990年 マスコミは名簿探し

○韓国慶尚南道泗川郡、固城郡1週間の取材

7人の犠牲者の遺族10人に会える

(初めて遺族の存在を確認)

○5回の連載

↓

○山口県宇部市に市民グループ、名簿のコピーが渡される

○全遺族へ向けて手紙を出す

○各地の遺族と連絡がとれる。慰霊祭に招く。

↓

○韓国に遺族会が成立

*マスコミの取材(予算、時間)がきっかけをつくり、それが上手く市民運動に橋渡しされ、さらに韓国内への運動につながった事例。

(2) 発信する側の立場として

○どうしたら、より多く、広い範囲の人々に訴えられるか

○若い世代へ向けての発信

○「強制連行・強制労働」がどう自分と関係するのか

*若い世代にも過去を知る責任がある。日本人と、朝鮮人・中国人とのギャップを埋めてこそ、真の意味で友人になることができる。

◆第5分科会

調査・研究の新たな展開

—— 連携へ向けて

資料の発掘や聞き取り、地域・行政との関わりや交渉の仕方なども含め、さまざまなグループ・団体の活動のなかで蓄えられたノウハウを交換しあい、現在の問題点を明らかにしたい。

【問題提起】

①広島からの報告

発題者；内海（広島の強制連行を調査する会）

②発題者；加藤 明（岐阜県朝鮮人強制連行真相調査団）

③発題者；奈良県での朝鮮人強制連行等の資料を発掘する会

●司会；正木峯夫（広島の強制連行を調査する会）

近藤 泉（長野県松本市 里山辺朝鮮人・中国人強制労働調査団）

⑤分科会 広島からの報告 広島の強制連行を調査する会

I 調査活動の内容と方法（1991年から）

- 1 県史・市町村史・社史・回想録などの調査とその出典の調査（図書館や公文書館）
発足当時・・・「強制連行企業一覧」は35か所（『地下壕に埋もれた朝鮮人強制労働』明石書店のp312～315）
ア、「特殊地下ごう対策工事」関係史料（同上書物のp276～285）
イ、「旧軍用地の実態調査 広島県」（同上書物のp240～244）
ウ、「旧海軍地下施設調」（防衛庁防衛研修所戦史室蔵 同上書物のp252～261）
- 2 害物の調査
①韓国・朝鮮人の証言集・・・『イルボンサラムへ』『白いチョゴリの被爆者』
など（同上書物のp262～274）
②資料集・報告書・・・『在日朝鮮人関係資料集成』『米国戦略爆撃調査団報告書』
『協和事業年鑑』など
③戦争・平和関係・・・『日本防空史』『広島の消えた日』など
- 3 「知事引継書」の公開請求 1991年
- 4 新聞記事の探索 1992～1994年
1910～1945年までの「中国新聞」と「大阪朝日新聞広島版」
- 5 現地調査（聞き取り）
現地調査は筋骨きのないドラマ
- 6 在日韓国・朝鮮人からの聞き取り
- 7 「死亡届」「埋火葬許可願」「寄留簿」「除籍簿」
「健康保険・厚生年金」「預貯金原本」「殉職者名簿」「衣料切符の申請・受領書」
「寮生名簿」「未払い金供託名簿」「労務動員計画申請書」「集団移入労務者名簿」
などの公開要望

Ⅱ 調査対象

強制連行関係資料→地下壕→発電所→鉄道、上水道など
(現在) (今後)

Ⅲ 調査年代

- 1 1939～1945年の強制連行期
- 2 1939年以前の強制連行前史

Ⅳ 調査の輪を広げ・深めるために

- 1 問題提起して、現地の人と共同調査
- 2 公開フィールドワークの実施
1994年 7月10日・・・太田川上流に強制連行列車を走らせる試みなど
- 3 中国地区の交流集会の企画・実施
1993年－広島 1994年－鳥取 1995年－岡山の予定
- 4 写真展の開催

Ⅴ 調査の結果のまとめ

- 1 『地下壕に埋もれた朝鮮人強制労働』（明石書店 1992年）
- 2 新聞記事集録（1910～1945年のもので、10年代～40年代の4分冊）
- 3 資料集の発行（1～4集）
- 4 ビデオ「隧道からの叫び」の制作
- 5 『水力発電と朝鮮人強制労働』（仮題）の写真集と書物の発刊の予定

Ⅵ 調査の視点

- 1 広島県の朝鮮人の労働現場と実態を徹底的に追う。
- 2 電源開発にともなうダムや堰堤の築造が何をもたらしたか。

Ⅶ 調査の結果の教材化

Ⅷ 調査の最近の成果

Ⅸ その他

第6分科会

史跡保存のあるべき姿——行政・観光

各地の地下壕などの史跡保存、追悼碑建立、資料館建設などさまざまな形で「強制連行・強制労働」の資料保存の活動が行なわれています。その一方で、自治体などによる「平和博物館」作りが中身を欠落させたままブーム化しています。保存の姿勢、方法、公開の仕方などさまざまな課題について討論したいと思います。

【問題提起】

①根強い民俗蔑視感情と労務管理・待遇の多様性

—— 慰霊碑建立運動と犠牲者等の実態調査から

発題者：原山茂夫（松代大本営朝鮮人犠牲者慰霊碑建立実行委員会）

②発題者：大日方悦夫（松代大本営の保存をすすめる会）

③発題者：黒崎裕子（松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会）

●司会：金静美（三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者の追悼碑を建立する会）

目沢民雄（仁古田等地下飛行機工場調査・保存の会）

“根強い民族蔑視感情と労務管理・待遇の多様性
……慰霊碑建立運動と犠牲者等の実態調査から……”

原 山 茂 夫

(松代大本営朝鮮人犠牲者慰霊碑建立実行委員会)

○レポートの概要

われわれのこの建立運動は、アニメ映画「キムの十字架」の長野県内上映運動の発展として、3年前の1991年7月に発足しました。

しかし、犠牲者の掘り起こしの困難とバブルの崩壊・不況の長期化に加えて、日本人の潜在意識の底流にある根強い民族蔑視感情の厚い壁などに阻まれて、運動は思ったようには進捗して来たとはいえません。ただ発足以来4年目を迎える今日になって、長野市が用地の提供でようやく協力してくれることになり、来年8月までには建立できる目途は立ってきました。ですが、われわれの希望の地に落ち着くかどうか難しい問題です。

犠牲者の実態調査は、力量の不足から焼失ないしは隠匿されたといわれる名簿の調査までは手が出ず、生存者の証言に頼るしかなかったためもあり、氏名が判明できた者は未だ4名に止まり、その中で遺族まで確認できた者はたったの1名だけです。

ただ、松代での朝鮮人労働者の労働・労務管理と生活の様相については、われわれの調査活動によって、これまで一般に伝えられていたいわゆる「残酷物語」的な実態とは違った様相もあったことが、朝鮮人労働者たち自身の証言によって明らかになり、松代の人たちなどのとらえ方との共通点も出てきて、日本人との交流の実態も大部ははっきりしてきました。

松代大本営は天皇制と戦争と朝鮮人強制労働と民衆を結び付けて考えさせる、象徴的な歴史的遺跡です。それをどう石に刻み込みながら、戦争責任と戦後責任の一端を果たす端緒としていくか、また来年8月までの完成を期して、募金運動と犠牲者の調査活動をどう強化していくかが今後の課題です。

情報の提供・募金などでの、全国から結集された皆さんの熱いご協力・ご支援をお願いする次第です。

第7分科会

戦争責任・戦後責任を検証する

——国家・企業・民衆

戦争責任と戦後責任の問題を明確化させ、「責任」のとり方について検証します。「社史」「追悼碑」「謝罪」等々のほか、特に「戦後責任」のありかたについて討論したいと思います。

【問題提起】

① 発題者；猪 八戒（花岡”蜂起”問題にこだわる会）

② 発題者；田口裕史（日本の戦争責任を肩代わりさせられた韓国・朝鮮人
BC級戦犯を支える会）

③

●司会；猪 八戒（花岡”蜂起”問題にこだわる会）

田口裕史（日本の戦争責任を肩代わりさせられた韓国・朝鮮人
BC級戦犯を支える会）

◆第 8 分科会

強制連行・強制労働と在日

—— 21 世紀へ向けて

この分科会では報告を設定しません。以下はあくまで議論の手がかりとして取り上げた最近の出来事であり、必ずしも話し合わなければならないものではありません。しかし、在日の立場から問題をどうとらえるか、また日本人の側からはどう対処していけるのか等を考えていくうえで、避けては通れない項目ばかりだと思います。とにかく、日頃のニュースなどを見ていて言いたいことが数多くある人たちに自由な定義を意見を求めたいと思います。そして最終的には 21 世紀へ向けて、在日はどうあるべきなのかという議論へ繋げていきたいと思います。

- 1 京都府警の朝鮮総連搜索
- 2 チマ・チョゴリ事件

●コメンテーター；鄭 鴻 永（兵庫朝鮮関係研究会）

●司会；嶋田 実（三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者の追悼碑を建立する会）

金 民化（松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会）

◆第9分科会

——「戦後50年」からの出発

今年は、朝鮮に対する日本の本格的な侵略が開始された日清戦争から100年、そして来年はいよいよ「戦後50年」を迎えます。この間、強制連行をはじめとした日本の加害と侵略の歴史を追及する国内外の声が高まり、アジア各国からは戦後補償の要求が強まってきました。日本政府もかつてのように、侵略を平気で「進出」とすり替えるような態度は取れなくなっています。

一見変わりつつあるようにも見える日本社会。だが、果たして日本人の歴史認識は変わったのでしょうか。

植民地支配とアジアへの侵略戦争がなければ、あり得なかったといってもいいのが明治以来の日本の近代化でした。こうした歴史を直視し、謝罪と反省のうえに立って、アジアの民衆の一員としての未来を築いていこうという姿勢を、私たちは自分のものとしているのでしょうか。アジアの人々との真の和解を手に行っているのでしょうか。答えは「否」といわざるを得ません。

政府のおざなりな「幕引き」と新たな「大国主義」をめざす動きの中で、私たちは何をしていけばいいのが。「戦後50年」の流れを振り返りながら考えていきたいと思います。

【問題提起】

①「韓国から見た日本の〈戦後50年〉」（仮題）

発題者；朴昌熙氏（韓国外国語大学教授、松代大本営地下壕調査研究会会長）

②「歴史の節目としての敗戦50年とどう向き合うか

—— 戦争・戦後責任問題の幕引きをさせないために」

発題者；渡辺健樹氏（アジア問題研究会代表）

③（テーマ未定）

発題者；堀田昌樹氏（〈ノーモア南京〉名古屋の会）

▼司会；堀田昌樹（〈ノーモア南京〉名古屋の会）

菊池嘉晃（松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会）

歴史の節目としての敗戦50年と どう向き合うか

——戦争・戦後責任問題の幕引きをさせないために——

（1）さまざまな課題の節目としての95年

●自社さきがけ連立政権による「戦後50年」の取り組み

『新連立政権の合意事項』のなかの一項目「戦後50年と国際平和」では、「新政権は、戦後50年を契機に、過去の戦争を反省し、未来の平和への決意を表明する国会決議の採択などに積極的に取り組む。このため戦後50年問題について協議する機関を国会および政府に設置する。戦後50年を記念して平和のための国際貢献に役立つ記念行事を行なう」と記述。

●この間の「過去問題」の幕引きへの主な動き

①戦後補償問題

軍隊「慰安婦」問題の政府方針

アジア交流センター設置による青年交流拡大、アジアの「女性自立センター」創設などで5年間で1000億円規模の事業

サハリン残留韓国人の永住帰国問題を検討中（3-24日韓首脳会談で）

②国立「戦没者追悼平和祈念館」（東京・九段）計画

日本遺族会の「戦没者遺児記念館」構想を下敷きに昨年予算化

管理・運営を日本遺族会（橋本龍太郎会長）に委託

施設の性格（厚生省社会・援護局発表）

1. 戦没者追悼の意を表わす施設

2. 戦争に関する歴史的事実、なかんずく国民の生活面からみた戦争の悲惨さと、戦中戦後における国民の生活の労苦を後世代に客観的に伝える

3. 国民の平和を希求する心を内外に伝える

*「アジアへの謝罪が目的ではない」（厚生省審議官）

→各自治体の動きへ運動（各地の記念館建設）

③過去「反省」「不戦」決議をめぐる

細川「侵略戦争」発言をめぐる暗闘

積極的な新生党

三笠宮「支那（77）事変に対する日本人としての内省」（THIS IS 読売 8月号）「発見」の意味

④「天皇・皇室外交」の展開

91年 ASEAN三カ国訪問

92年 中国訪問

93年 ドイツ・イタリア訪問

94年 アメリカ訪問、フランス訪問（10月）

95年？ 韓国訪問

*日韓首脳会談で金泳三大統領在任中（～98年）の訪韓招請

⑤国連安保理常任理事国入り

95年＝国連創設50周年を期した国連改革→安保理拡充

日独の常任理事国入り問題

「旧敵国条項」廃止を含む国連憲章の改定

（総会構成国の殆どの賛成、五常任理事国を含む加盟国の殆どの批准）

●その他の「95年」

被爆50年（被爆者援護法問題と「ヒロシマ・ナガサキ」の行方）

核不拡散条約（NPT）期限切れ・延長問題（＜核廃絶＞問題の行方）

etc.

（2）「敗戦50年」にどう向き合うか

A.

①過去の侵略・植民地支配への謝罪と戦後補償の即時履行を

「決議」は結構だが、問題はその内実

1.元「慰安婦」などすべての戦争犠牲者個人へ届く、戦後補償・戦後処理の履行

2.元軍人・軍属、BC級戦犯etc.の人びとの要求の切り捨てを許さない

3.日朝正常化交渉

*最低限、これらの内実の伴わない「決議」はギマン

②「戦没者追悼平和祈念館」計画の撤回・見直し

③天皇の訪韓に反対

④日本の国連安保理常任理事国入りは許されない

B. 日本の敗戦50年を問う全国的な共同行動に向けた問題提起

上記のようなさまざまな課題に取り組む諸運動・個人が、とりあえず情報交換など緩やかな連携をとりながら、それぞれの立場を尊重しつつ、できるところから95年に向けた共同の全国キャンペーンなどに取り組むことを提案したい。また可能な限り、アジア諸国の運動体にもよびかけ、共同の取り組みができれば、と思う。

以上

賛同個人・団体紹介



B 5 フリーアピール

第5回 朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える
全国交流集会に賛同していただいた個人・団体の活動
やアピールを、自由に記入してもらいました。

賛同団体・個人紹介

(右端の数字はB5フリーアピールのページ数)

【団体賛同】

- ◆三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者(李基允、襄相度)の追悼碑を建立する会 46
〒 名張市百合が丘西2-103 斎藤様方 0595-63-7919
- ◆大阪人権歴史資料館(リパティ大阪) 47
〒 大阪府大阪市浪速区 浪速西3-6-36 06-561-5891
- ◆反「入管法」運動関西交流会 48
〒610-11 京都人原野郵便局私書箱3号
- ◆愛知県朝鮮人強制連行歴史調査班 49
〒464 名古屋市中区千草区希望ヶ丘1-5-37 高橋信様 気付 052-762-1528
- ◆関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し追悼する会 50
〒133 東京都江戸川区南篠山町 4-15-21 第1竹内荘105落合博男様方 03-3676-8356
- ◆在日韓国民主女性会 51
〒101 東京都千代田区神田小川町 3-6-8伸幸ビル5F 03-3295-2638
- ◆里山辺朝鮮人・中国人強制労働調査団 52
〒 長野県松本市 蟻が崎6-8-1 豆工房 気付 0263-33-9123
- ◆松代・朝鮮人「慰安婦」の家を残そう実行委員会 53
〒263 千葉県千葉市稲毛区 小仲台8-34-10-108 黒崎様方 043-256-0834
- ◆仁古田等地下飛行機工場調査・保存の会 54
〒386-22 長野県小県郡真田町長菅平1223 0268-74-2018
- ◆民衆運動研究所 55
〒 長野県長野市 中御所2-20-2 0262-26-1125
- ◆写真展「闇からの証言」実行委員会 56
〒 長野県松本市 桐3-3-30 竹内忍様方 0263-33-8404
- ◆大阪府朝鮮人強制連行真相調査団 57
〒530 大阪府北区西天満6-6-11 高千穂ビル2F 空野佳弘法律事務所 06-361-5488
- ◆静岡県の朝鮮人強制連行を記録する会 58
〒435 静岡県浜松市薬師町309-26 小池善之様方 053-422-0039
- ◆戦跡考古学研究会 59
〒370 高崎市上滝町342-2 菊地実様方 0273-52-7246
- ◆広島市の強制連行を調査する会 60
〒731-11 広島市安佐北区安佐町飯室 1445-1
- ◆アジア問題研究会 61
〒 東京都千代田区猿楽町2-5-8 葵ビル 03-3291-3774
- ◆日本の戦争責任を肩代わりさせられた韓国・朝鮮人BC級戦犯を支える会 62
〒101 千代田区神田神保町1-42 日東ビル2F 梨の木舎気付 03-3291-8229
- ◆財団法人 神戸学生・青年センター 63
〒657 神戸市灘区山田町3丁目1-1 078-851-2760
- ◆兵庫朝鮮関係研究会 64
〒661 尼崎市次屋1丁目16-5 徐様方 06-499-3449
- ◆在日朝鮮人運動史研究会関西支部 65
〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1 青丘文庫内 078-734-5989

◆神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査・追悼する会	66
〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 (財)神戸学生・青年センター内	☎078-851-5878
◆むくげの会	67
〒657 神戸市灘区山田町3丁目1-1 神戸学生・青年センター内	☎078-851-2760(呼)
◆ハルモニたちを迎えるつどい	69
〒113 東京都文京区 本郷1-5-17三洋ビル45号	☎03-3813-7813
◆Zuk・zuk	70
〒 東京都豊島区 池袋3-8-7 大島ふさ子様方	
◆長野県日中友好協会	71
〒380 長野県長野市 中御所岡田町70 日中友好センター内	☎0262-24-6517
◆在日韓国人問題研究所	
〒 東京都新宿区西早稲田2-3-18-52 在日大韓基督教会	☎03-3203-7575
◆上越朝鮮問題研究会	
〒 新潟県中頸城郡大潟町 四ツ屋浜501 佐藤忠治様方	☎0255-34-3759
◆金裁判を支援する会	
〒850 長崎市筑後町2-1 教育文化会館 市民運動ネットワーク気付	
◆朝鮮総連奈良県本部	
〒630 奈良県奈良市大森町54	
◆姫路市教職員組合	
〒672 兵庫県姫路市飾磨区 清水二丁目128	☎0792-35-2020
◆明石書店	
〒113 東京都文京区 本郷1-10-10	☎03-3818-6351
◆在日朝鮮人作家を読む会	
〒452 愛知県西春日井郡西枇杷島町 北大和152 磯貝様方	☎052-502-6599
◆強制連行の足跡を若者とたどる旅	
〒807 福岡県遠賀郡水巻町 頃末31-9 村田様方	☎093-202-5683
◆在日朝鮮人運動史研究会 関東部会	
〒277 千葉県柏市あけぼの4-10-7 長澤秀様方	☎0471-47-7814
◆韓国の原爆被害者を救援する市民の会	
〒565 大阪府吹田市 山田西2丁目9番A1-303	
◆半田空襲と戦争を記録する会	
〒475 半田市花園町3-12-12 佐藤様方	☎0569-22-6848
◆福山市現業労働組合	
〒 福山市東桜町3番5号	
◆在日の戦後補償を求める会	
〒210 川崎市川崎区桜本1-8-22	☎044-288-2997
◆模索舎	
〒160 東京都新宿区新宿2-4-9	☎03-3352-3557
◆ロシナンテ社	
〒606 京都市左京区田中門前町96-2	☎075-721-0647
◆ミラノ書店	
〒424 清水市江尻台町13-20	☎0543-65-0088

- ◆指紋押捺制度を考える熊本の会
〒860 熊本市南千反畑町3-7 県総合福祉センター県同教 気付
- ◆日吉台地下壕保存の会
〒223 横浜市港北区下田町3-15-27 寺田貞治様方 ☎045-562-1282
- ◆奈良県での朝鮮人強制連行等にかかわる資料を発掘する会
〒631 奈良市松陽台1-4-105 川瀬俊治様方 ☎0742-45-0862
- ◆ブキメラの空
〒673 兵庫県明石市西明石町5-11-17 伊東容子様方 ☎078-928-7287
- ◆高槻むくげの会
〒 高槻市城内町1-35 ☎0726-71-1239
- ◆高槻タチソ戦跡保存の会
〒 高槻市城内町1-35 ☎0726-71-1239
- ◆大塚物産朝鮮研究所
〒970-11 福島県いわき市好間町 中好間字照田40 ☎0246-36-2357
- ◆四国学院労働組合
〒765 香川県善通寺市文京町3-2-1 ☎0877-62-2111
- ◆フィリピン人元「慰安婦」と共に LUNAS・ルナス
〒540 大阪市中央区徳井町2-2-11 ライオンマンション東本町第3-1104号 原田恵子様方
- ◆豊橋日中友好協会
〒440-91 豊橋郵便局私書箱69号
- ◆富山・強制連行訴訟を支援する会
〒930 富山市神通町3-5-3 LL会議内 ☎0764-41-7843
- ◆花岡“蜂起”問題にこだわる会
〒 大阪市西成区長橋2-5-11 ☎06-561-9372
- ◆ピットムの会
〒 愛知県名古屋市中種区 池上町2-7-1 本橋正男様方 ☎052-781-4690
- ◆松代大本営の保存をすすめる会
〒380 長野県長野市 中御所1-13-3 ☎0262-28-8415
- ◆民俗資料館・時代の館
〒 長野県長野市 松代町松代1496-1 ☎0262-78-9998
- ◆在日の慰安婦裁判を支える会
〒 東京都墨田区 向島郵便局私書箱32号 ☎0422-41-0251
- ◆日本婦人会議
〒113 東京都文京区 本郷1-33-3車プロビル ☎03-3816-1862

朝鮮の自主的平和統一を 支持する長野県民会議	〒380 長野市県町532-3 県労働会館内	0262-34-2116
日本社会党長野県本部	〒380 長野市県町523 社会文化会館	0262-35-2727
『社会新報』長野県総局	〒380 長野市県町523 社会文化会館	0262-35-2727
日本労働組合総連合会 長野県連合会（連合長野）	〒380 長野市県町532-3 県労働会館内	0262-34-1626
自治労長野県本部	〒380 長野市県町532-3 県労働会館内	0262-34-7744
全国金属機械労組 長野地方本部	〒392 諏訪市上川1-1646	0266-52-7090
情報労連長野県協議会	〒380 長野市箱清水2135-25	0262-32-3188
長野県農業団体労組連合	〒380 長野市北石堂町1177-3	0262-36-2440
全通信労組長野県地区本部	〒380 長野市南県町1085-4	0262-28-8811
全日本運輸産業労組 長野県連合会	〒380 長野市中御所1-24-12	0262-26-5695
長野県私鉄労組連合会	〒380 長野市県町532-3 県労働会館内	0262-35-3305
国鉄労働組合長野地方本部	〒380 長野市中御所3-2-27	0262-26-4590
全長野労組長野地方本部	〒380 長野市栗田715-5	0262-26-6828
印刷労連長野地方本部	〒380 長野市県町532-3 県労働会館内	0262-35-3306
全農林労組 長野県共闘対策委員会	〒380 長野市旭町1108第二合同庁舎内	0262-33-3777
長野地区評センター	〒380 長野市県町532-3 県労働会館内	0262-35-3325
日朝長野地区会議	〒380 長野市県町532-3 県労働会館内	0262-35-3325
上小地区評センター	〒386 上田市常田2-6-3	0268-22-0945
松本地区評センター	〒390 松本市中央4-7-22	0263-33-9513

【個人賛同】

青木孝寿・聖 阿部和彦 新谷ちか子 池田正枝 伊東正一 今田裕子 入江さやか 柏原美紀
子 金子マーティン 北原道子・倉持光雄・倉持由木 木場明志 金光烈 金弘茂 金浩 栗林
敬一 黒宮泰彦 桑原真人 高秀美 小松裕 佐久間昇 四方哲 清野洋子 関光禪 徐根植
高良真木 竹内昭子 竹内忍 立石実 田中寛治 樽美政恵 朱秀子 鄭鴻永 塚崎昌之 築山
俊昭 角田滋子 手塚陽 徳田富美子 徳田修二 中村礼子 西村誠 橋本徹 土生田勝正 浜
田拡 原口周子 原山茂夫 飛田雄一 深堀習 藤田武 藤本秀樹 本田次男 松岡勲 三井誠
子 室田卓雄 薬師寺小夜子 矢嶋栄子 矢嶋嶺 山口明子 山田美幸 山田昭次 横山篤夫
他2名（50音順）

◆ 賛同団体・個人は7月19日までの申し込み（振込）分です。

これ以降の賛同分については本集会の報告集に掲載しますのでご了承ください。

三重県木本で虐殺された朝鮮人労働者（李基允・裴相度）の追悼碑を建立する会

一九二六年に木本トンネル工事のため現在の三重県木本（現熊野市）で働いていた朝鮮人労働者の李基允（イ・ギユン）氏と裴相度（ペ・サンド）氏が、木本警察署長の要請を受けて木本町長が召集した在郷軍人を先頭とする住民に虐殺されてから六十八年が過ぎました。

私たちの会は、一九八九年に結成されてから、主に次のことを目的として活動してきました。

- ・ 虐殺された二人のための追悼碑の建立
- ・ 三重県熊野市に虐殺の責任を認めさせ、遺族に対する謝罪を要求
- ・ 郷土史である『熊野市史』、『木本小学校百年誌』の訂正

この全国交流集会でも報告しましたが、一九九二年に熊野市は追悼碑の建立に同意し、追悼碑建立のための予算が市議会を通過しました。私たちは、熊野市は虐殺の責任を認めたものと判断しました。しかし碑文について話し合いを進めるうちに実際には熊野市は虐殺についての責任を認めておらず、遺族に対して謝罪の気持ちさえないことが分かりました。私たちは熊野市のこのような態度を到底許すことはできません。

一方で私たちは、殺された裴相度氏の遺族である裴敬洪（ペ・ギョンホン）さん（韓国釜山在住）のお身体のこととも考えねばなりません。裴敬洪さんは糖尿病を患っており、一刻も早く追悼碑を建立しなければならない状況なのです。そこで私たちは、自分たちの力で追悼碑を建てることにしたのです。

ようやく、熊野の木本トンネルの近くに追悼碑建立のための土地を取得し、土地整備と石の手配も行いました。そして今年10月に除幕式を行うことにしたのです。しかし、実際に追悼碑を建立し、除幕式を行うまでにはまだまだしなければならぬことがたくさんあります。

追悼碑建立まで本当にあと一步のところまでできました。心あるみなさんの支援がぜひ必要なのです。

追悼碑建立のためにカンパをお願いいたします！

連絡先 三重県名張市百合が丘西二の一〇三 斉藤日出治（05956-3-7919）

郵便振替 00920-8-106915 「李基允・裴相度の追悼碑を建立する会」

刊行物 『63年後からの出発 朝鮮・日本民衆の真の連帯を求めて』

在日韓国・朝鮮人の 歴史を伝える資料を探しています

大阪人権歴史資料館（以下、リバティおおさか）は、1985年12月に日本で初めての人権問題に関わる総合博物館としてオープンしました。以来、第29回特別展「朝鮮侵略と強制連行」（1991年）、第31回特別展「倭乱－豊臣秀吉の朝鮮侵略から400年」（1992年）など、日本の朝鮮侵略や在日韓国・朝鮮人問題に関わる事業も積極的におこなってきました。

現在、リバティおおさかは1995年12月の再オープンにむけて増改築工事に取り掛かっています。そして、第2次常設展示の「在日韓国・朝鮮人」コーナーなどの企画、準備をおこなっています。

在日韓国・朝鮮人の日本での生活と歴史を正しく伝えることで、日本社会に根強く存在する差別をなくしていくひとつの力にしたい、また、在日韓国・朝鮮人が自分自身の存在意義を体感する場所になれば、との願いがあります。

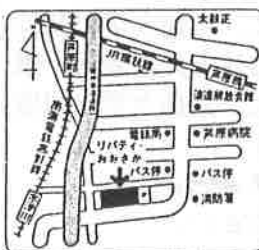
朝鮮植民地支配や在日韓国・朝鮮人の生活史に関わる資料が、皆さんの家の中に眠っていないでしょうか？一世が祖国からもってきたカバン、服、旅券、生活道具、労働道具、在日朝鮮人運動に関わるビラやポスター、昔の写真や映像など、どんなものでも結構です。そこから、在日韓国・朝鮮人の歴史や文化の匂いがするものなら、それが貴重な資料になるのです。資料の扱いについてはご相談させていただいたうえで、展示に役立てていければと考えています。ぜひリバティおおさかまでご一報ください。



大阪人権歴史資料館

〒556 大阪市浪速区浪速西3-6-36

TEL. 06-561-5891



- JR環状線「芦原橋」駅下車
南へ徒歩8分
- 市バス「浪速西三丁目」
バス停下車、西へ徒歩2分
- 南海高野線「芦原橋」駅下車、
南へ徒歩10分
- 南海高野線「木津川」駅下車、
東へ徒歩6分

担当：学芸部 文公輝（ムン・ゴンフィ）

直通電話 06-561-8195

[グループ名] 反「入管法」運動関西交流会

[連絡先] ☎610-11 京都大原野郵便局私書箱3号

🎉🎉 活動紹介 🎉🎉

私たちは、在日外国人や外国人労働者に対する、外登法・入管法による管理と抑圧に反対する取り組みを行っています。また外国人にかかわる様々な課題に対して取り組んでいます。

私たちは、80年代後半に指紋押捺拒否闘争に取り組んできた在日と日本人が集まって、1990年の外登証大量切り替えを前にして、大きな反対の声を起こそうと集まったのがきっかけです。90年に、関西各地で転写拒否・切り替え拒否と支援・連帯の闘いや、入管法・外登法反対の、入管局抗議行動や集会・デモなどを行ってきました。

また、戦争責任追及や戦後補償要求の闘い、外国人労働者支援の取り組み、在日韓国人政治犯救援の取り組みなどを、献身的に取り組まれている人々の取り組みに連帯しながら、一步でも歩みを共にしたいと考え、かかわっています。

また、山積する多くの課題を私たち自身が真剣に学びながら、同時に、たくさんの人々と共有していければと、「外登法・入管法・民族差別を考える連続講座」を不定期ですが開催しています。現在まで述べ11回開催しました。

そして、毎年4月に、「外登法・入管法と民族差別を撃つ関西研究交流集会」を開催しています。今年は4月17日に、京都大学で1120名の方々が参加の下、開催しました。

今、朝鮮半島をめぐる、北朝鮮の「核疑惑」を口実に、アメリカや日本が力づくで戦争を引き起こそうとしています。こうした中で、在日朝鮮人に対する理不尽な弾圧や、在日朝鮮人生徒への暴行など、戦前と変わらない状況が生み出されています。強制連行や強制労働の問題が、単に過ぎ去った過去の問題ではなく、今を生きる私たちの真剣な課題となっていると思います。来年は、戦後50年を迎えます。また外登証の大量切り替えの年にも当たります。そして天皇の韓国訪問も言われています。こうした大きな節目に向けて、より大きな取り組みの必要性を痛感しています。

多くの人々と手を携えて、進んでいきたいと願っています。

📖📖 刊行物・出版案内 📖📖

◆反「入管法」運動関西交流会ニュース 16ページ 300円 現在18号まで発行

◆連続講座講演録 200円 現在第10回まで発行

◆第2回外登法・入管法と民族差別を撃つ関西研究交流集会報告集

昨年4月18日に、京都大学で開催した集会の報告集です。1000円

◆第3回外登法・入管法と民族差別を撃つ関西研究交流集会資料集

今年4月17日に、京都大学で開催した集会の資料集です。700円

👤👤 入会のご案内 👤👤

ぜひ会員になってください。

個人1月300円・団体1月1000円です。できるだけ半年か1年でお願いします。会員の方々には、交流会ニュースや会の取り組みや催し物のご案内をさせていただきます。

申し込み方法は郵便振替で、京都7-73331 反「入管法」運動関西交流会です。

戦時下の庄内川内務省直轄改修事業と朝鮮人

1994. 7. 30 ~ 7. 31 第5回「交流会」

愛知県朝鮮人強制連行歴史調査班

高 橋 信

名古屋市千種区希望ヶ丘 1-5-37

052-762-1528

以下、『庄内川—その流域と治水史—建設省庄内川工事事務所20周年記念』（製作：建設技術研究所・1989年11月）の「第1章 戦時下の庄内川直轄改修事業」の要旨を整理して報告とする。

1、庄内川改良工事概史

1918（大正7）年より、「愛知県営河川改良工事」はじまる。

1929（昭和4）年より、愛知県により改修基本調査がはじまり、

1941（昭和16）年に「庄内川改修計画」としてまとめられる。

1942（昭和17）年4月1日より、「庄内川改修事務所」が設置され、「沿線に所在する軍需工場への破堤洪水の脅威の除去、農耕地の食糧増産の重要性から、緊急且つ強力な事業推進が要請されることになり、内務省直轄による河川改修が開始される。

1943（昭和18）年、3ヶ年継続事業→5ヶ年計画に延長。

1944（昭和19）年12月7日の東南海地震による県下の軍需工場の被害、空襲の激化、戦局の悪化などにより、軍需工場、工廠、飛行場造成に資機材と労働力は転用され、事実上工事は「中止」に追い込まれる。〈注〉

〈注〉 一畑谷メモによれば—

▽軍需工場 ○三菱重工業名古屋発動機製作所（東区大幸町）

○三菱重工業岩塚工場（中村区岩塚町）

▽工 廠 ○名古屋陸軍造兵廠鳥居松製造所（東春日井郡鳥居松村）

▽飛行場 ○清州

○大府

○本地ヶ原

○河和

2、改修計画数量

1 掘削土量

2 築堤土量

3 護岸水利床固

4 用地買収

5 付帯工事 1) 道路
2) 水路
3) 橋梁
4) 樋門及び樋管

3、労働力

「（終戦の）翌日からは、我が国の敗戦によって主客ところを変えた。台湾や朝鮮出身の飯場労務者の暴動をも起こしそうな強談判の応酬対応です。この問題を約1ヶ月の日当を支払うことで解決できましたが、事業遂行の目途もなく、国全体が社会、経済の混乱のまま日が過ぎていきました」（畑谷メモ）

関東大震災時に虐殺された朝鮮人の遺骨を発掘し
追悼する会 代表者 稲田幸恵

〒132 江戸川区平井5-18-5 中村ビル3階
(TEL) 03-3613-0947

今年は荒川放水路通水10年になる。この放水路
工事の歴史を調べていた稲田が、関東大震災の時
に朝鮮人が日本の軍隊や民衆によって殺されたこ
ういう証言を得たのか、それらの会結成のきっかけ
だ。'82年に、遺骨がまた埋められているのではない
かと河川敷を試掘し、以後、毎年の追悼式を行な
い、調査活動を持続して来た。1992年、教育史
料出版会から発行した『風よ鳳仙歌の歌をはこべ
』に調査の結果をまとめて報告した。(枚数まで
1800冊)震災後⁷10周年の1993年に、現場に追
悼碑をたてることを目標にしていたが、いまだ実
現していない。墨田区などの地元での活動をもと
に行なって理解を深めていきたいと願っている。

在日韓国民主女性会



〒101 東京都千代田区神田小川町3-6-8

伸幸ビル5F

☎03-3295-2638 FAX. 03-3295-5004

在日韓国民主女性会は1986年11月に発足し、東京・大阪・東海を拠点にさまざまな活動を展開しています。

私たちは、これまで韓国人として受ける民族差別に加え、女性であるが故に多くの矛盾や、不条理を強いられてきました。しかし、私たち女性自らが祖国の分断状況や、在日を取り巻くさまざまな問題に目を向け、主体的に現状を変革していかなければならないという観点で「韓国の民主化と統一」「在日同胞の権益擁護」「反戦・反核」などを軸に女性解放の視点を持って取り組んできました。

とりわけ、戦後50年間も歴史の闇の中に葬られてきた日本軍「慰安婦」問題に光が当てられ始めた90年からはこの問題の真の解決のために努力してきました。

活動内容としては、毎月の「定例会」（学習会・交流など）、資料集の発行、さまざまな集まりでのアピール、対政府要請活動などです。

◆ ◆ ◆
これまでに以下のような韓国女性問題資料集を発刊してきました。

- No. 1 民主化運動の先頭に立つ女性たち
- No. 2 女性問題の本質は何か
- No. 3 韓国女性が望む憲法と法律
- No. 4 韓国女性運動の前進のために — 在庫あり
- No. 5 ケグジャンイオリニパン（わんぱくっ子の部屋）— 在庫あり
— 全順玉さん（全泰壹氏の妹）保育所の記録など
- No. 6 人々の胸に統一の火花を
— 林秀卿さんのお母さんの手記、林秀卿さんの手紙など
- No. 7 「オモニ… 統一された祖国で生きたいのです」
— 林秀卿さんの獄中手記
- No. 8 隠ぺいされた歴史に今こそ光を！「朝鮮人従軍慰安婦」— 在庫あり
- No. 9 共に生きるアジアをめざして
— 「アジアの平和と女性のシンポジウム」の記録
- No. 10 真の謝罪と補償を求めて「朝鮮人従軍慰安婦」（第2集）— 在庫あり
- No. 11 「朝鮮人従軍慰安婦」（第3集）— 94年7月末発行予定

長野県松本市

里山辺朝鮮人・中国人強制労働調査団

松本市里山辺地区にある金華山（林城跡）の中腹に三菱重工業（株）名古屋航空機製作所の疎開が予定された地下工場跡が現存する。

わたくしたち調査団は、この地下工場およびその周辺に航空機製造工場建設のために強制労働に従事させられ朝鮮人・中国人の労働実態の解明に取り組んでいる。また現存する地下工場跡の保存と『安全な公開』の実現に努力している。

1990年11月23日に発足した調査団は、地下工場跡の地質調査を含む現地調査、証言者の掘り起こしと聞き取り調査、広く市民の参加を訴えたフィールドワーク、諸資料の発見と調査などに取り組みながら今日に至っている。

現在、工事に強制労働させられた朝鮮人の実態解明と、中国に生存している中国人労働者の聞き取り調査などに重点をおいて運動している。最近では、当時の里山辺村に出入りしていた工事関係者の記録が残る「寄留者名簿」の公開を松本市に訴えている。

詳しくは当調査団発行の「長野県松本市における里山辺朝鮮人・中国人強制労働の記録－平和のためのガイドブック－」をお読みいただきたい。

団 長／小柴 善一郎

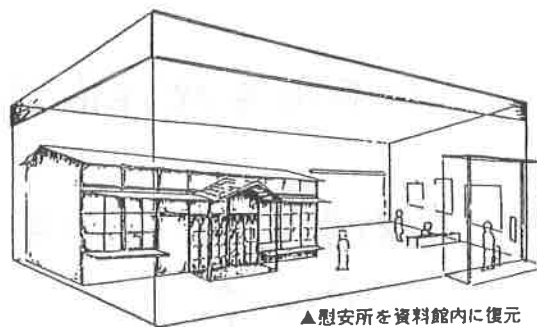
連絡先／松本市蟻が崎6-8-1

豆工房内 小島気付け

t e l 0 2 6 3 (3 3) 9 1 2 3

松代・朝鮮人「慰安婦」の家 を残そう実行委員会

〔事務局〕 ☎263 千葉市稲毛区小仲台
8-34-10-108 黒崎方
☎ & fax 043-256-0834 (黒崎)
☎ 045-952-5084 (前田)
〔郵便振替口座〕 東京 5-1899



▲慰安所を資料館内に復元

◆〈歴史〉を残す、〈歴史〉に残す

長野市の松代大本営地下壕の近くに、造営当時(1944.11~1945.8)、朝鮮人女性が「慰安婦」として住まわせられていた家が戦後もそのまま残っていました。しかし91年春、この家を取り壊されることになったため、急遽実行委員会を発足させ、建物の移築・保存を呼びかけました。多くの方の御協力と募金により、91年8月に解体を終了。現在松代町内に資材を保管しています。近い将来、松代大本営での強制労働や「慰安婦」問題についての資料館を建設し、そこに「慰安婦」の家を復元することを目指して活動中です。

◆実行委員会の主な活動

- ① 移築・復元に必要な資金調達のための募金活動及び移築用地探し
- ② 資料館建設に向けての青写真づくり(他の資料館の調査、見学)
- ③ 松代大本営と朝鮮人「慰安婦」についての聞き取り調査
- ④ 松代大本営と朝鮮人「慰安婦」についての講演会、学習会、フィールドワークの企画

◆「マツシロ」の入門的小冊子発売中

少しでも多くの方にマツシロを知っていただき、その歴史を将来に伝えようと『マツシロをあるく ― 証言とガイド・松代大本営と「慰安婦」の家 ― 』(頒価¥600送料¥300)を作りました。強制労働、慰安婦に関する貴重な証言などの資料編、3つの地下壕周辺図と説明、松代象山地下壕非公開部分の見学の仕方などのガイド編からなり、好評を頂いています。是非お申込み下さい。

◆マツシロ11・11のつどい

1944年11月11日は大本営工事の最初の発破が掛けられた日です。その前後の日曜日に「マツシロ11・11のつどい」を松代・朝鮮人慰安婦を考える会、「闇からの証言」実行委員会と共に主催し、壕内で追悼集会を行っています。また、それにあわせ、前日から松代大本営、関連の場所をまわる旅も今年で五回目を迎えます。この全国交流集会でマツシロに対する想いを深めた大勢の皆さんの参加を期待しています。

◆写真パネルを貸出します

松代大本営地下壕内部や解体前の慰安婦の家を撮影した「松代大本営と朝鮮人『慰安婦』の家写真展 ― 闇(やみ)からの証言 ―」の写真パネル50点あまりを貸出します。貸出し料は2000円(開催日×1000円)+輸送費用です。松代をはじめ松本、静岡、名古屋で開催してきました。松代大本営の実態を知らせるためにも各地で写真展を開いて下さい。

◆「慰安婦」の家の復元にご協力を!

- ① 移築・復元にかかる費用を集める募金にご協力下さい。ちらし、振込用紙を配布していただける方はお分けしますのでご連絡下さい。
- ② 実行委員会に参加して実務に協力して下さい。定例会は池袋西口東京芸術劇場5階小会議室で行っています(原則として毎月第3土曜日の午後7時から)。
- ③ 賛助会員(年会費2000円)として実行委員会の活動を支えて下さい。賛助会員費は事務局の運営、年二回のニュースの発行、発送などに使わせていただいております。賛助会員の方には実行委員会ニュースと企画のお知らせをお送りします。

仁右田等地下飛行機工場調査・保存の会

長野県上田市で今年4月24日に発声があったばかりの会です。

松代から30kmほど離れたところ、松代大本営とも密接な関係があったとみられる地下飛行機工場跡の保存を目的としています。

当面、塙近辺のコンクリート台座のある土地が大規模に工場用地として造成されているので、コンクリート台座の安全を保存に全力を尽くしています。

上田市は長野市—松代大本営跡のある—より保存に積極的です。市議会でも含め運動はすすむと思われています。

4000人と言われる強制連行朝鮮人に関する資料は乏しく、副会長の村上達子さんから10年来調査を続けていますが、解明までは道遠です。

現在30名程度の小さな会ですが、地域に根を張り、地道に運動を進めたいと考えています。

事務局 長野県小湊郡

真田町長 1223 目沢方

TEL 0268-74-2018

民衆運動研究所

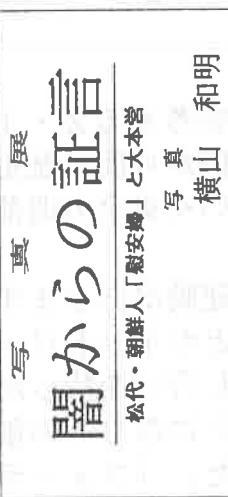
- 1、住 所 380 長野県長野市中御所2-20-2
- 2、電 話 0262 (26-1125)
FAX 0262 (26-1135)
- 3、代 表 小林 修
- 4、事務局員 10名位
- 5、活動内容 ・戦争責任、戦後保障など「心に刻む集会」「731部隊展」などの事務局を担当してきました。

・労働者連帯活動、特に今まで韓国の労働者と交流を深めてきました、今年は事務局からも渡韓して連帯していく予定です

・松代大本営の埋もれた歴史の発掘。栗林さんを中心にして調査し、資料をまとめ子供でも読めるパンフレットを作成、現在未公開部分を含めたビデオを制作中。この集会までには完成予定です。

・毎年2月11日に「労働者としての生き方を考える2・11集会」を開催し、天皇制を労働者・市民の側から問い歴史の再認識と私たちの生き方をみんなで考えていく集会の開催。

・県下さまざまな市民団体・労働運動・市民運動があります。ばらばらに活動しているのではなく、なんとかネットワーク化にならないものかと昨年一同に会して話し合いを持った。
 まずその第一歩は情報紙の発行ということになりその創刊準備号の発行に漕ぎ着けるようになりました。「フォーラムIN信州」という名の情報紙です。軌道に乗るのにはまだ時間が必要ですが財政の問題や発送の問題など一つ一つ克服しなんとかやっていこうと思います。そして市民の側から積極的に地方政治を創っていけるようにと思っています。ご協力よろしくお願いいたします。



かつて日本軍は世界史に例を見ない「従軍慰安婦」を制度化し、朝鮮・中国から多くの女性を強制連行しました。しかし戦後、日本政府は、その問題を隠し続けてきました。

長野市松代でも大本営建設(1940.11~1945.8)にあたって多くの朝鮮人が強制連行されたうえ、朝鮮人の女性たちが「慰安婦」として置かれていました。

現在松代大本営跡は部分的に公開されていますが、極めて不十分な公開内容でありまた、現存が確認された「慰安婦」の住まわされていた家も、1991年夏に解体工事だけは終え、将来の再築・資料館としての保存に向けて現在保管中であり、早急な復元が求められています。

「閨からの証言」実行委員会では、松代大本営・「慰安婦」問題などに対し、それらは決して過去の問題ではなく、アジアにたいする侵略・植民地支配・強制連行などの清算されていない戦争責任の問題として、またそれらを放置してきたうえ買春ツアーなど現在の日本とアジアの関係に引き続く戦後責任の問題の一環として捉えていく必要があると考えます。

こうしたなか、松代大本営跡（公開前・後）、当時の飯場跡、朝鮮人「慰安婦」の家（解体前）など47点の写真と9枚の解説パネルによる「閨からの証言－松代・朝鮮人「慰安婦」と大本営」写真展の開催を行っていただけるようお願いしたいと思っています。県内および全国各地で、大きな規模であれ家庭的な小さな規模であれ、いたるところで様々な人たちにこれらの写真を見ていただき、私たちの足元にあるこの「地下壕」と「家」による無言の証言に目を向けていただけたらと考えています。

そして、

・松代大本営跡が、その歴史的意味を確認できるものとして保存・公開されること。

・朝鮮人「慰安婦」の家の再築・資料館としての復元をめざすこと。

当面はそのための資金カンパを訴える。

郵便振替口座 東京5-1899

松代・朝鮮人慰安婦の家を残そう実行委員会

・大本営跡や「慰安婦」の家などに関する情報・資料等を集めて行くこと。

・現在の日本とアジアの関係のあり方などにも目を向け、戦争・戦後責任の問題について多くの人々と考え、実現していきたいと考えています。

などをもっと多くの人々と考え、実現していきたいと考えています。

実行委員会としても写真展を開催していきますが、開催希望の方には貸出を致します。多くの方々のご協力をお願いします。

「閨からの証言－松代・朝鮮人「慰安婦」と大本営」

写真展実行委員会

：連絡先：長野県松本市

0263-34-9946（前田）

0263-33-8404（竹内）

撮影者紹介

横山和明氏

1952年長野県松本市生まれ、明市在住。

地方公務員の仕事をしながら、写真を集め始める「マチュアカメラマン」。松本市内などで撮影活動。

松代は苦学時代からの故郷、社会人をつくる作品が多い。

隠された歴史を消さないために

大阪府朝鮮人強制連行真相調査団日本人側事務局

連絡先 大阪市北区西天満6丁目6番11号 空野芳佳弘法律事務所 ☎06(361)5488

1 はじめに

大阪に朝鮮人強制連行真相調査団が結成されて早4年目を迎える。この間、大阪府各地で新たな強制連行の事実が、団員の手弁当の調査活動の中から解明されてきた。調査活動の中間報告として「朝鮮人強制連行の録—大阪編」の出版も実現した。それ以後、団員を核にした新たな「地元まとめの会」も結成され調査活動は継続して行われている。

2 最近の調査から

(1)大阪府交野市

大阪府には軍需工場が多く存在したが、その中核的な位置に日本で最大の兵器生産工場・大阪陸軍造兵廠がある。大阪陸軍造兵廠には下請けの軍需工場とは別に、本土空襲・本土決戦に備え分散施設が急造される。兵庫県三田や京都府園部の分散工場の調査については「大阪編」において報告済みであるが、あらたに大阪陸軍造兵廠第5枚方製造所（交野市）が現存していることを団員が発見した。造兵廠の地下疎開工場としては大阪府内で初めての発見である。この報告書が出る時までには調査が完了していないと思われるので概要のみ紹介しておく。

「旧陸軍関係主要地下施設調査表」および「1945年兵器製造施設地下工場建設計画調査表（5）」によると・面積652㎡ 長さ138m・抗木ニヨル簡単ナモノ 立木終戦時二撤去シ現在殆ド崩壊シアリ・製造品目 97曲射榴弾薬用薬筒

現地調査では、5本のトンネルが存在し極めて強固（花崗岩）・工事を途中で中断した形跡があり未完成・強制連行の可能性濃厚。

(2)茨木市安威

大阪府立山田高校朝文研の生徒たちが、「大阪編」に“幻の地下施設”として記述されていた吹田市山田の「海軍地下弾薬庫」の調査をする過程で、茨木市安威地区に地下倉庫を発見。調査団が行った「強制連行ホットライン」で見つかった京都府在住の金泳九さん（72）の証言から、強制連行の朝鮮人によって掘られたとの真相が解明された。また熊谷組朝鮮人飯場や海軍事務所跡、倉庫跡の特定もできた。

地下倉庫は全部で3ヵ所、1,000mを超える規模で、入り口には水が溜まっている。崩壊箇所もなく建設当時の状況が見られる。

現在封鎖されている地下倉庫には、非常用の食料や衣服などが収納されていた。



安威海軍地下倉庫の調査と金泳九さん
（左から2人目）

3 調査活動の教材化

大阪では、高校生を聞き取りに参加させる取り組みが始まっている。強制連行の事実をきちんと子どもたちに伝えていく活動は、真相調査の重要な目標であるとの認識から、調査の映像記録をビデオにまとめ教材化している。安威の海軍地下倉庫に関しても2種類のビデオ教材が完成し、教室での実践に必ず成果を上げること確信する。（文責／田中寛治）

静岡県朝鮮人強制連行を記録する会

会長 海野福寿

事務局

435 浜松市葵師町309-26

小池善之

☎/FAX

053-422-0039

1. 設立の経緯

1991年12月7日に本会は発足した。従来から静岡県近代史研究会等で在日朝鮮人の労働争議や強制連行についての研究は行なわれてきたが、この問題はきわめて重要であり、きちんと調査・研究していく必要があると考えたからであった。会長を海野福寿氏に依頼してスタートしたが、残念ながら現在活動は停滞している。しかし後述するように、会員の研究、掛川原谷の中島飛行機地下工場跡の調査・保存運動では少しずつではあるが成果が出されている。

2. 今までの活動

- ①静岡県内の朝鮮人強制連行についての調査・研究
- ②静岡県内の在日韓国・朝鮮人史の研究
- ③掛川中島飛行機地下工場跡の調査・研究・保存運動

この三点を基本として活動を行ってきた。①については竹内康人氏が「戦時下静岡県の地下工場・飛行場建設と朝鮮労働者動員（上）（下）」（『静岡県近代史研究』18, 9号、1992, 3）、『静岡県史資料編20 近現代5』の「戦時体制下の朝鮮人・中国人」がある。また、本会の会報に「厚生省報告書」（1946）の静岡県に關しての報告がなされている。なお、本会会長海野福寿氏による「朝鮮の労働動員」（『岩波講座近代日本と植民地 五』所収）がある。②については小池善之氏の「統計よりみた静岡県在留朝鮮人の歴史的状況」（『静岡県史研究』第10号）がある。③については、既に昨年度地下工場跡の実測調査が行なわれ、今年度は地域での聞き取り等をもとにした調査報告が出されることと思う。

3. 今後の活動

- ①中島飛行機地下工場跡の調査・研究・保存の運動を継続して行なう。
- ②静岡県内の朝鮮人強制連行に関して、1946年の「厚生省報告書（静岡県分）」の分析を行なう。
- ③在日韓国・朝鮮人史の研究を活発化する。
- ④全国の諸団体と連絡をとりながら、強制連行研究の水準のアップをはかる。

4. その他

現在までに、「静岡県の朝鮮人強制連行を記録する会ニュース」を17号まで発行したが、年6号発行をめざして努力したい。また、聞き取りを積極的にすすめていきたい。

戦跡考古学研究会について

菊池 実

「戦跡考古学」とは耳慣れない言葉と思いますが、アジア・太平洋戦争時の戦争遺跡を考古学的に調査研究することと、考えていただければと思います。そしてその研究を実践する会が、今度わたくしどもが組織した研究会です。

わたくしどもの地元高崎市では旧歩兵第十五連隊跡の発掘調査が行われていますが、利根郡月夜野町・太田市強戸には強制連行された中国人・朝鮮人が働かされていた地下壕（工場跡）はほとんど未調査のまま現存しています。大胡町にある地下工場跡の一部は、大胡城跡の発掘調査に伴って検出されましたが、今まで地元の先生方を中心として地下工場跡に関する聞き取り調査が行われていますが、実際に現存している遺構（地下工場跡）に対する考古学的調査は残念ながらほとんど行われておりません。

昨年開催された交流集会の「地下軍事施設建設工事と強制連行」の分科会に参加しましたが、これらの報告を聞いて感じたことは、いずれの地域においても地下軍事施設についてはその分布調査の段階に止どまっているということです。聞き取り調査の結果、ここにもあった、あそこにもあったと言ったところでしょうか。地図（地形図）に地下軍事施設の地点を記入してある場合はまれであり、ましてや地下壕の図面に至ってはほとんど作図されていない状況でした。なかには余りにも簡単なスケッチの提示があり、記録類の作成方法が確立されていないとの印象を受けました。もちろん当時の設計図の探索は重要なことですが、地下壕構築後の状況を克明に記した実測図の作成は急務だと考えます。実際、各地の地下壕に入ってみればわかるように、それぞれの地下壕には構築時の痕跡（例えばツルハシ・発破等）、使用時の痕跡（トロッコの施設、工具類等）そして廃棄後今日に至るまでの様々な痕跡（解放された朝鮮人・中国人による壁面の文字資料等）、また当時の遺物類が残されている場合があり、言い換えればその壕のもつ歴史的事実、それらの構築の歴史的背景が集約されていると言っても過言ではありません。こうした歴史的事実をきちんと記録し、残して行くことは早急に取り組まなければならない重要課題と考えます。関係者を探し証言を収集することの重要性と何等遜色ないことです。

群馬県内にあっても利根郡月夜野町後閑の地下工場跡、太田市強戸の地下工場跡を初めとして数多くの同様な地下壕が報告されていますが、実測図の作成等充分になされているとはいえません。

敗戦から半世紀を迎えようとしている現在、今あらためて朝鮮人・中国人の強制連行の場であった各地の地下壕そのものの再調査が求められていると考えられます。その場合の調査方法の確立、記録類の統一等求められているものは数多いと思いますが、群馬県内の事例でその実践の第一歩が始められればと思っています。

（戦跡考古学研究会 370 高崎市上滝町342-2 菊池 実 0273-52-7246）

『広島強制連行を調査する会』1990年12月 8日結成した市民グループ。
会員は延べにすれば200 人を越える。最初の1 年は主として地下壕を調査、
その成果は『地下壕に埋もれた朝鮮人強制労働』（明石書店）として出版。

その後の活動としては、一つには1910年～1945年の新聞記事の探索（大阪
朝日新聞の地方版と中国新聞）を始め、3 年がかりでこのほど終了。その間、
「新聞記事に見る朝鮮人労働現場」などの資料集や地図の発行などを行いつ
つ、資料の整理を行っている。

二つ目には新聞記事などで判明した労働現場の現地調査の実施である。主
として県内の水力発電に関わる調査を行い、戦前の水力発電工事は朝鮮人労
働なくして有り得なかったことが明らかになってきている。そうした調査結
果はビデオ『ずい道からの叫び』の製作（1993年12月）などを行っているが、
書物の発行までには至っていない。

その他、調査の過程で「電源開発」の結果のメリットだけではなく、デメ
リットにも注目せざるをえないことになっている。すなわち、川の上流に堰
堤（えんてい）やダムを築造した結果、自然環境の破壊－生態系の破壊－人
間の生活環境の破壊、はては「鉄砲水」という人為洪水を引き起こしている
ことなどを知り、執拗に朝鮮人労働の現場を追うことと同時に、開発という
名の環境破壊の事実をも一つのテーマとして追いつつある。

調査活動の輪を広げるために、会報の発行、公開フィールドワークの実施、
絵葉書・ビデオの作成、写真展の開催などを実施してきたが、本年に入っ
てから5月14・15日に「中国地方の強制連行・強制労働を考える交流集会」を
鳥取県にて開催（第一回は昨年、広島にて）し、7月10日には「JR可部線
～加計線に乗って 太田川の開発と強制労働・連行の歴史を学ぼう」という
列車内の学習会や現地での報告集会などを『強制連行された中国人被爆者と
交流をすすめる会』と共催で実施する。そして8月には写真展の開催、今秋
には山陰に流れ出る江（こう）の川を舞台に公開フィールドワークを実施す
る予定である。

また7月上旬には『写真と史料が語る広島の人権のあゆみ－1894～1945』
が出版（「広島県水平運動史研究会」の出版であるが、朝鮮問題についての
史料や写真は調査する会が大部分を提供）される。

広島強制連行を調査する会

〒731-11 広島市安佐北区安佐町南1-445-1

TEL 082-835-0221

FAX 082-814-5961



1995年－日本の敗戦から50年を問う全国的な共同行動を呼びかけます

昨年、奈良で開催された第4回全国交流集会の3分スピーチや会場で配布させていただいたビラ等でも、私たちは上記の呼びかけをさせていただきました。今年の第5回全国交流集会でも「『戦後50年』からの出発」というテーマの分科会が設けられています。「戦後50年」を来年に控えた今、私たちは、あらためて来年に向けて「日本の敗戦から50年を問う全国的な共同行動」を呼びかけたいと思います。

日清戦争から100年を問う

日本の敗戦50年の前年にあたる今年は、かつて朝鮮侵略・支配の野望のためにおこなわれた近代日本初の本格的対外侵略戦争である日清戦争から100年にあたります。そしてこの年に「北朝鮮核疑惑」問題を口実として、「制裁」論議や「有事立法」制定などの発言が政府・閣僚の口から公然と吐かれ、朝鮮学校生徒に対する悪質な嫌がらせや暴力が頻発してきました。この中で私たちは、5月29日に東京の日韓民衆連帯運動の仲間たちと「日清戦争・甲午農民戦争から100年を問う集会」、在日韓国・朝鮮人への差別・排外主義に反対するキャンペーン、さらに「日清戦争100年集会」の準備過程で、集会で上演された構成劇の練習中の在日青年たちに対し、使用していた荒川区の施設職員によって引き起こされた関東大震災時の流言飛語を想起させる差別発言事件にも取り組んできました。また韓国・太平洋戦争犠牲者遺族会と日本の戦後責任をハッキリさせる会の呼びかけに応えて戦後補償要求の国会座り込みなどにも取り組んできました。

この中であらためて痛感することは、過去のアジア侵略に対する総括と反省がないがしろにしてきた<現在の日本>の危うい姿です。来年の日本の敗戦50年には、様々な領域から過去から現在を貫いた日本のあり方を根本から問い直す、もっと大きな声を、行動を作り出していく必要があるのではないのでしょうか。

戦後50年の95年に向けて

日本政府もまた来年を歴史の「句切り」にしようとして、過去反省の「国会決議」「戦没者追悼平和祈念館」問題、天皇訪韓問題、さらには日本の国連安保理常任理事国入り問題などが焦点化してくるでしょう。「過去」に対する謝罪と戦後補償を履行させ、過去問題をうわべだけで幕引きし、それを「みそぎ」として政治・軍事大国化を目指そうとする動きにはNoの声を強めていく必要があるのではないのでしょうか。東京ではすでに、様々な領域でそれぞれの課題から来年の日本の敗戦50年を問う取り組みも進められています。そうした一つとして私たちも参加して「日本の敗戦から50年を問う懇談会」も作られています。

全国の様々な課題に取り組む運動・個人が、それぞれの立場を尊重しつつ、緩やかな連携を作るために、今からとりあえず情報交換からでも始めてみませんか。

アジア問題研究会

〒101 東京都千代田区猿樂町2-5-8

葵ビル3F ☎ 03-3291-3774 (FAX兼用)

代表 渡辺 健樹

(日韓民衆連帯懇談会事務局長)

日本の戦争責任を肩代わりさせられた 韓国・朝鮮人 B C 級戦犯を支える会

101 東京都千代田区

神田神保町 1-42

日東ビル 2F 梨の木舎気付

t e l. / f a x. 03 (3291) 8229

代表世話人：今村嗣夫・内海愛子・田中日淳

日本軍に動員された上、戦後は日本の戦争責任を肩代わりさせられて戦犯となってしまった韓国・朝鮮人は、148名。うち23名が死刑を執行されています。

彼らは、戦後40年近くの長きにわたり、歴代内閣総理大臣に補償等を求める要請書を提出し、交渉を続けてきましたが、こんにちにいたるもそれは実現されていません。

1991年11月には、国を相手に補償等請求裁判を提訴。東京地方裁判所で係争中です。

「支える会」は、1991年3月に発足。裁判支援のほか、聞き取り調査、資料収集などの活動を行っています。

会員になって下さい

年会費は3000円。会機関紙「ビントン・ブサール」や裁判報告をお送りします。ぜひ会員となって裁判を支えてください。

郵便振替口座 00100-9-750030

署名にご協力ください

内閣総理大臣宛の、補償・謝罪請求署名をしています。集約は10月末です。

関連書籍

『訴状』（当会発行）1500円

『死刑台から見た二つの国－韓国・朝鮮人 B C 級戦犯の証言』

内海愛子 & 韓国・朝鮮人 B C 級戦犯を支える会編

1133円 梨の木舎刊

『泰緬鉄道と日本の戦争責任－捕虜とロームシャと朝鮮人と』

内海愛子、G・マコーマック、H・ネルソン編著

4120円 明石書店刊

財団法人 神戸学生青年センター

〒657 神戸市灘区山田町3-1-1

TEL 078-851-2760 FAX 821-5878

(理事長・河上 民雄/館長・飛田 雄一)

1972年4月にアメリカ南長老教会および日本キリスト教団によって作られた財団法人で、いずれからの援助も受けない独立した団体です。

六甲山のふもとの学生センターには、YH(ユースホステル)・貸会議室あり、本屋あり、出版社あり、はたまた、有機農業、食品公害、キリスト教史、アジア、朝鮮語、在日朝鮮人などをテーマにセミナーも開いています。朝鮮問題に関するビデオライブラリーも、だいぶそろっています。

また、外国人の生存権を実現する会(ゴドウィン裁判の会)、兵庫県有機農業研究会、兵庫指紋拒否を共に闘う連絡会、食品公害を追放し安全な食べ物を求める会、むくげの会、神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会などなどのサークルが、センターを拠点に活動が続けています。1991年7月、兵庫県西宮市で開かれた第2回強制連行全国交流集会では、事務局もつとめました。

セミナーに参加できない人からの要望を受けて、梶村秀樹さんのセミナー『解放後の在日朝鮮人運動』を小冊子の形で出版したことを契機に「センター出版部」ができました。これまで朝鮮史セミナーの関係のものを中心に24冊の本を出してきました。

協本寿 400円

朝鮮人強制連行とわたし

川崎昭和電工朝鮮人宿舎・舎監の記録

兵庫朝鮮関係研究会 2300円

在日朝鮮人90年の軌跡

—続・兵庫と朝鮮人—

金英達編 1100円

朝鮮人従軍慰安婦・女子挺身隊資料集

金英達・飛田雄一編

朝鮮人・中国人強制連行・強制労働資料集

1990年版(品切れ)、91年版(1100円)、92年版(1400円)

93年版(1600円)、94年版(94年7月発行、1600円)

尹静慕(鹿嶋節子訳) 1000円

母・従軍慰安婦

かあさんは「朝鮮ピー」と呼ばれた

協本寿

朝鮮人強制連行とわたし

川崎昭和電工朝鮮人宿舎・舎監の記録



※ 書店に注文のときは「地方小出版流通センター」扱いの本と言って申し込んで下さい。直接注文のときは、TELまたはFAXで！ 後日、本代・送料を振り込み下さい。

兵庫朝鮮関係研究会

兵朝研
HYOCHOKEN

1983年11月に発足 ————— 1994-11th
兵庫県在住の在日2, 3世を中心としてつくられた研究会です。
古代から現代までの朝鮮と兵庫県の関係、特に兵庫在日朝鮮人の歴史を
文献資料、現地調査、聞き取りにより記録に残す作業をしています。
毎月第2木曜日午後6時からの月例会で会員各自の調査、研究発表を
行なっています。

兵庫朝鮮関係研究会

代表者：徐根植

〒661 兵庫県尼崎市次屋1-16-5 徐根植方

TEL 06-499-3449 FAX 06-499-3449

郵便振替：01190-2-79253



会報：「兵朝研」 年6回発行 購読料年¥1000-

単行本

「兵庫と朝鮮人」（つつじ印刷）1985年

「鉾山と朝鮮人強制連行」（明石書店）1987年

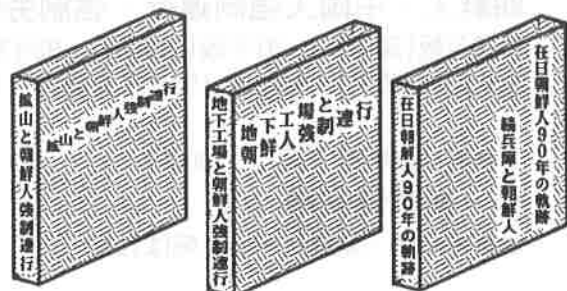
「地下工場と朝鮮人強制連行」（明石書店）1990年

「在日朝鮮人90年の軌跡」（神戸学生青年センター出版部）1993年

ビデオ

「川西航空機北条地下工場」

「川西航空機甲陽園地下工場」



在日朝鮮人運動史研究会・関西部会

連絡先／〒654 神戸市須磨区須磨寺町4-3-1 青丘文庫内

TEL 078-734-5989 FAX 078-735-0660

代表／飛田 雄一

1979年、関東での同研究会の関西部会として発足。毎月1回、第2あるいは第3日曜日の午後に青丘文庫（朝鮮史の専門図書館）で研究会を開いている。関東部会のとともに、研究成果は『在日朝鮮人史研究』誌上に発表している。

この1年間の研究会のテーマ、報告者はつぎのとおりである。

<1993年>

- 9.18～19 関東部会と合同で合宿、「黒部第3ダムと朝鮮人」ほか
（於／宇奈月温泉） 堀江 節子ほか
- 10.24 1920年代の兵庫県下の在日朝鮮人労働運動 高木 伸夫
- 11.14 在日朝鮮人の北朝鮮への帰国事業について 金 英 達
- 12.19 大阪府内各市の在日外国人教育基本方針について
藤井幸之助

<1994年>

- 1.23 カザフの北朝鮮亡命留学生 李 仁 子
- 2.20 在朝日本人の女性たち
－「書誌」的アプローチの試み－ 滝尾 英二
- 3.13 教育と植民地支配 佐野 通夫
- 4.10 「私の在日60年」 鄭 承 博
- 5.23 「韓国併合」前の在日朝鮮人労働者
－朝鮮飴売りを中心に－ 堀内 稔
- 6.19 「金達壽研究」 崔 孝 先
- 7.17 失業救済事業と朝鮮人労働者 高木 伸夫



研究会は、会員以外にも開かれているので、関心のある方はご参加ください。

左のパンフレットは91年2月に、開催した「シンポジウム・在日朝鮮人史研究の現段階」の資料集です。その時点での、兵庫県（堀内稔）、大阪府（金森襄作）、京都府（水野直樹）、奈良県（川瀬俊治）、香川県（佐野通夫）、岡山県（石田米子）、島根県（内藤正中）について、研究の現段階が整理されそれぞれに文献目録がついている。（B5判、52頁、300円、〒240円）

神戸電鉄敷設工事朝鮮人犠牲者を調査し追悼する会

<代表 落合 重信>

〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 神戸学生青年センター内

TEL 078-851-2760 FAX 078-821-5878

[郵便振替 神戸1-41243 追悼する会]

● 神戸市内と有馬温泉、三田市、三木市を結ぶ神戸電鉄は、1920～30年代に敷設されました。この敷設工事には多くの朝鮮人労働者が動員され、その過程で13名の犠牲者が出ています。彼ら朝鮮人労働者たちの実態を調べ、朝鮮人犠牲者を追悼することが、日本と大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国とのこれからの友好を築く一助にもなるとの思いから1993年7月、私たちは「追悼する会」を発足させました。史実の「記録」化と追悼碑の建立をめざしています。

神戸電鉄工事の朝鮮人労働者

事故死の報 60年ぶりの追悼

昭和初期の神戸電鉄建設工事で事故死した朝鮮人労働者の遺族が韓国国内に在ることを神戸の市民グループ「神戸電鉄敷設

トンネル口崩壊 十一名死傷の惨事

11月26日付の大阪毎日新聞

口入ルネント駅前にし様前

遺族に

された遺族は「この目で現場を見たい」という希望が強く、同会はこの夏にも遺族を日本に招き、慰霊祭を行う予定だ。神戸市街地と有馬温泉などを結ぶ同電鉄の建設工事は一九二七～二八年、三六～三七に行われた。同会の調査で、約千五百人の朝鮮人が従事し、少なくとも十三人が事故死したことが分かった。当時の新聞記事をもとに韓国の自治体などに問い合わせたところ、三人の犠牲者の遺族が判明。今月、飛田雄一事務局長（四世が訪韓）、遺族に面会した。三六年十一月の藍那トンネル（同市北区）事故で父（当時四十七歳）と兄（同二十五歳）が犠牲になった金銀圭さん（みぎ）は、慶尚南道固城郡在住。母が二人の遺骨を持つて帰って来たが、死因は知らなかった」と、事故を伝える新聞を見て泣いた。他の遺族の中には父親は炭鉱で死んだと聞かされていた人もいたという。

飛田事務局長は「日本の植民地支配下の朝鮮半島からは、強制連行以前にも多数の人々が来日。事故で死んだ三人も、仕事を求めてやってきたというが、その実態は不明な点が多い。これを埋める歴史的な光を当てるケーススタディーにし、他の事例も調査したい」と話している。神戸電鉄の話 犠牲者は当社の請負会社が雇用していたもので、当時の詳しい状況は分からない。しかし、グループが慰霊祭を行うなら協力する考えはある。

- 上の新聞記事(1994.5.23 毎日新聞)にあるように今年の夏(8月28日)には、遺族6名を韓国より招待して事故現場を訪問するとともに、追悼会を開きます。
- 会では、賛同者、賛同団体を広くつり運動の輪を広げようとしています(個人3000円、団体6000円)。ニュース№1、2、『資料集I』(300円)が出ています。

むくげの会

〒657 神戸市灘区山田町3-1-1 TEL 078-851-2760 FAX 821-5878
(財)神戸学生青年センター内 郵便振替<神戸2-46997>

朝鮮の歴史・文化を学ぶため、1971年1月に作られたサークルです。地域の在日朝鮮人の歴史を掘り起こす作業も、会の課題のひとつです。

現在、会員は、9名です。毎週火曜日に神戸学生青年センターに集まって勉強会を開いています。会員が持ち回りで発表をしたり、ときには公開講座を開いたり、またときには「ゲストデー」として、ゲストから30分のお話を聞き、1時間質問するという会も開いています。朝鮮語を母語とするゲストの場合は、朝鮮語だけを使用するというハードなゲストデーもあります。ゲストは自薦・他薦を問いません。火曜日に神戸を通過してむくげの会と交流してみようという方は、事前にご連絡下さい。薄謝をさしあげます。



勉強会の「成果」は、隔月刊の『むくげ通信』(B5判、28頁)に発表します。その内容は、在日朝鮮人史、歌(歌謡曲、歌曲、童謡)の紹介、朝鮮民族運動史、朝鮮の食べ物、各地の集会・施設などの訪問記、書誌探索(文献目録)、書評、映画評などなどです。購読料は、1年分が1800円(送料共)です。

発行は、650部。毎年、1年分(6号分)をまとめて『合本』も作っています。最近、欠号を増刷して、1974年版から1993年版までの20冊の合本がそろいました。古い通信を読んでみてやろう、という物好きの方は、是非、ごらん下さい。(定価は、400円～1300円です)

全10冊を完成させるべく数年前に「むくげ叢書」をスタートさせましたが、着々とは進んでいません。既刊は以下の2冊です。

- ①金英達『GHQ文書研究ガイドー在日朝鮮人教育問題ー』 1000円
- ②むくげの会編著『日帝下光州学生運動研究』 1500円

近々(?)、むくげ叢書では、「朝鮮の食文化」「播磨風土記」「神戸と朝鮮人」「日帝下の朝鮮キリスト教同信会」などが出版される予定にはなっています。

●むくげの会の既刊書●

中国の朝鮮族(延辺朝鮮族自治州概況執筆班著、大村益夫訳) 2800円
むくげ愛唱歌集ー朝鮮の歌・全107曲(楽譜付)ー 800円
趙世熙小品集ーこびとがうちあげた小さな珠ー(むくげの会訳) 700円
朝鮮1930年代研究(むくげの会編著、三一書房刊) 3800円
朝鮮近代社会経済史(全錫淡他著、梶村秀樹・むくげの会訳、
龍溪書舎刊) 3300円

銀輪に平和への想いを込めて！

長野ピースサイクル実行委員会

1986年、大阪の青年数人が「8月6日の広島原爆の日」に向けて、平和のために何かしよう」と広島へ自転車で平和をアピールしながら、市民からのピースメッセージ（平和を願うメッセージ）を携え走ったことがきっかけにピースサイクルが始まり、翌年から全国に広まりました。



今では国内はもとより、アジアの国々を自転車で走り抜け平和を訴えています。長野県においても'91年から長野市の松代大本営を起点に多くの市民から寄せられたピースメッセージを携え自転車で走りました。昨年は、松代大本営の見学会も実施し50名の参加者が共に熱い夏を経験しました。

地元にある松代大本営が旧日本軍国主義の最後の砦として、朝鮮の人々の強制連行や日本の青年の強制動員により造られた事実は、あの大戦における「加害者としての日本」を如実に物語っています。私たちは、50年前の日本と中国・朝鮮・その他の世界に起きた忌まわしい歴史を、二度と繰り返してはならないと思います。しかし、世界でも日本でも本当に永遠の平和が確立されているとはいえない出来事が相次いでいます。私たちは、自転車という人間が自分の力のみで走る素晴らしい乗物で、平和のメッセージをリレーすることで「真の平和」を訴えています。

長野県においては、今年も松本・上田を起点とし松代大本営跡に結集しながら、上越～富山～金沢～大阪～広島・長崎へと全国の仲間と共に銀輪をつなげています。私たちの呼びかけに応じて、今年も多くの子供・市民と一緒に走りました。多くの皆さんから託されたピースメッセージの一言ひとことが、自転車で走る私たちを励ましながら、広島・長崎市長に届けられるために今も現地に向かって走り続けています。

長野ピースサイクルは自転車を走らせるだけでなく、様々な市民運動の人々との連携を模索しながら、年間を通じて「憲法第9条の平和理念を守り育て広げる」「美しい自然と共存する環境をめざす」「原子力発電に頼らないエネルギー政策」「自転車や身体障害者、歩行者に優しい道路の建設」などを訴える行動をしています。今年には特に「非核平和は地方自治体から」を合言葉に「非核平和宣言」をしている自治体を訪問し、具体的平和行政を訴えてきました。

平和を愛するあなた、いつもゆったりと自然を見つめているあなた、平和を愛するあなた、あなたのペダルのひとこぎを世界の平和につなげてみませんか。長野ピースサイクルはいつでもあなたの参加をお待ちしています。心地よい汗を流しながら「反戦平和」の願いを込めて、全国のそして世界の仲間たちと走る喜びをあなたも感じてみませんか。もし、一緒に走れないあなたのピースメッセージも私たちが届けます。長野ピースサイクルの小さな呼びかけをどこかで目にしたら、ぜひ声をかけてください。もっと、もっと多くの地域から平和のために自転車を走らせたいと私たちは願います。



連絡先：☎381 長野市吉田4-8-2 長野ピースサイクル実行委員会事務局

白倉 健 ☎0262-59-8372

『ハルモニたちを迎えるつどい』

〒113東京都文京区本郷1-5-17三洋ビル45号
☎・FAX03-3813-7813

私たち、『ハルモニたちを迎えるつどい』は、「日本政府と天皇は直接被害者たちに謝罪し、国家補償を行え」と要求して去る5月24日に来日、6月3日までの11日間、日本政府への申し入れ、抗議行動、街頭アピールなどを展開した『現生存者強制軍隊慰安婦被害者対策協議会』（金福善会長）を支援してきました。

元「従軍慰安婦」であるハルモニたちは昨年12月、『太平洋戦争犠牲者遺族会』と『韓国挺身隊問題対策協議会』から自立し、初めて、被害者自身で運営する団体を設立しました。しかし、この自立したハルモニたちが、日本の戦後補償を要求する運動体などからいわれなき誹謗と中傷に包囲されていたことに、私たちは、愕然たる思いをもちました。ハルモニたちは、「あの人たちはカネだけが目当てのパフォーマンスをやっている」などと陰口を叩かれ続けていたのです。

しかし私たちが11日間寝起きを共にしながら闘う中で感動を覚えたのは、沈黙の恨くハン>に閉じ込められてきたハルモニたちが自力で立ち上がる姿そのものでした。ハルモニたちは、「国家による、世界に類例のない性犯罪の被害者である私たちを公娼だと発言し、国家犯罪を免罪しようとする日本政府に満腔の怒りを以て抗議します。私たちは日本の侵略戦争を身をもって体験させられた生き証人であり、この犯罪の被害に対する謝罪と補償を正式に要求します。私たちは、自らの名誉と人権の回復を自力で獲得するために日本にやって来たのです」と、明確に言っていました。どうして彼女たちの要求を「カネ目当てだ」などと言えましょう。

私たちは痛感しました。本来ならば、日本人自身の活動で日本国家に対して謝罪と国家補償を行わせることが基本なのです。戦前、戦中と、その本質において何ら変わっていない戦後50年の、この日本の現状を変えることがいま問われているのです。被害者たちひとりひとりと向かい合い、交流することによって私たち日本人自身の感性を取り戻すことこそ、日本人がこれまで失ってきた名誉と人間性の回復につながるものではないでしょうか。

ハルモニたちは、「羽田政権は信用出来ない」「政府と天皇こそ、腹をかつ切って私たちに謝罪すべきだ」と突き付け、真に戦争の謝罪と国家補償を行う政府が出来ることを期待して6月3日に帰国しました。そして、日本での11日間の闘いを総括し、ソウルに新しい事務所を構え新政権に対する闘いを準備していると聞いています。私たちは一旦、『ハルモニたちを迎えるつどい』を解散しましたが、今回の教訓を生かして新しい仲間とともにハルモニたちを支える会をつくる準備を進めています。

私たちは、日本の運動体が、困難な状況に立たされている被害者たちを分断したり、引き回したりすることだけは絶対にやめなければならないと切に訴えます。



○…謝罪と補償を要求して、八丁堀から日比谷公園までの約4キロをデモ行進するハルモニたち（5月28日）

女の本やさんが开展*

ZUKZUK

* 女たちの企画・調査

ZUKはずく。信州の方言でやる気・精を出す・骨惜しみをしないの意。

ZUKZUKは、1989年3月8日（国際女性デー）の「おんなのミニコミ展」開催を機に、長野市で誕生しました。女たちの企画・調査のほか、現在は「戦争責任・戦後補償」関係を中心とした集会やシンポジウムに資料を持ちながら参加しています。

南は沖縄から北は長野まで、いわゆる店舗を持たず大風呂敷をひろげた程度のスペースに、女の本やさんを开展します。

全国交流集会は私にとって夏休みを兼ねた合宿の日々。次回も地方での開催を希望しています。

運営スタッフは女性のための3名で構成。主宰者・大島ふさ子（松代・朝鮮人「慰安婦の家」を残そう実行委員／「七三一部隊展」全国実行委員／「東アジア女性フォーラム」実行委員ほか）。

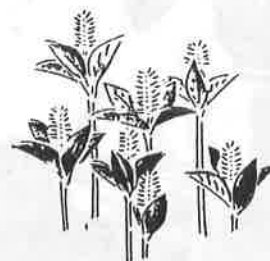
ZUKZUK通信は、時々発行。年間 1000円（通信費）。

95年は北京で開催される「世界女性会議」への参加を実現したいと考えています。

●本を注文したい方へ

本の価格	2000円 以下	2001～ 5000円	5001～ 20000 円	20000 円 以上
送 料	310円	450円	650円	無 料

* 本のための送料



ZUKZUK

〒171 東京都豊島区池袋3-8-7

吹雪荘 209 大島方

☎ 03(5060)6169 （首都圏のみ可）

郵便振替 東京0-548983



長野県日中友好協会

NAGANO JAPAN-CHINA FRIENDSHIP ASSOCIATION

〒380 長野市中御所岡田町70 日中友好センター内

TEL 0262 (24) 6517
FAX 0262 (24) 6518

□長野県は戦中、満開拓団送出が全国一を占めるなど、中国との係わりが深く、関係者は、中国への往来の実現を望んでいた。1956年県協会設立前後から戦中中国から長野県内（木曾川水系、天竜川水系）へ強制連行され無念の死を遂げた中国人殉難者の現地調査、遺骨の収集と慰霊、送還に取り組んだ。日中国交正常化実現を掲げ友好活動を展開、国交正常化後は、各分野の日中友好促進の活動を進めて来た。

□『虹のかけ橋——長野県日中友好の歩み——』

『霊川の流れは永遠に——殉難中国人の魂にささぐ』

□①盧溝橋事件（1937. 7. 7）を契機に日中全面戦争が勃発、松本50連隊が天津、北京（北平）、保定、石家荘、邯鄲さらに河南省へ侵攻。戦闘がおさまった後、島兵団（長野県関係者も3千名にのぼる）が河北省南半分に駐屯。

②戦争末期における強制連行。長野県内へは、3千余名が連行され、うち240名余の人々が劣悪な環境の中で無念の死を遂げた。うち出身地のわかった人の約7割は河北省出身者であった。

③1953年8月に日中友好協会、仏教会、華僑総会等により中国人俘虜殉難者慰霊長野県実行委員会が設立。以後、1962年まで数次にわたって現地調査、遺骨収集、遺骨送還、慰霊法要等が行われた。

④1963年12月に日中友好協会と慰霊実行委員会の手で「長野県における中国人俘虜殉難の事情と慰霊実行の中間報告」が発刊。

⑤1964年4月、天竜村の平岡ダムのほとりに殉難中国人慰霊碑が建立。1967年、上松町の寝覚の床を望む臨川寺に慰霊観音像が建立。

⑥1983年10月三岳村の御嶽発電所近くに、木曾谷殉難中国人慰霊碑が建立。この年11月長野県は河北省と友好提携を実現。

韓国 の 独立記念館 を

訪ねて下さい。日本語の

説明が つきました。

わだつみ会
池田正役(生駒庄)

「チマ・チョゴリが ひき裂かれました。」「朝鮮に帰れと
どつかれました。」そうした言草を聞く度 私は自分の心が
ずたずたに ひき裂かれていくのを感じました。1922年
私は朝鮮の全羅北道で生まれました。22年間 育てて頂き
ました。主として過ごしたソウルを訪ねる度、懐かしい山々が
私に語るのです。「育ててもらったという事は、ここは あん
たの故郷なんだよ。その故郷の歴史も言草も、一ページも
学ばなかった事は悪い事だったよな。」いいえ、自分が学ばな
かっただけでなく、私は始めた朝鮮の子ども達の学校で 朝
鮮の歴史を一ページも教える事なく、言草を使う事すら禁じ
たのでした。すべて無知からです。チマ・チョゴリを ひき
裂いた人々も、歴史を何も知らないのだと思います。日本の
教科書問題に 怒りを感じた人々が お金を出しあって
ユ・ガン・スンさんの生誕の地に 独立記念館を建てました。
1982年です。今迄は ハンゲルと英語の説明文だけで
した。今度 日本語の説明文が かかります。若い方々に
ぜひ 歴史の真実を知ってほしいからです。私の住んでま
す生駒。この生駒という地名も、うりナラの奈良と同じよ
うに、ハンゲルからのものです。若い方々、特に、高校生
の方々、修学旅行に 独立記念館を 訪ねて下さい。無知
だった私と同じような愚かな道は 歩かないで下さい。若
い方に期待します。また日本語の説明文設置には 大きな
お金が かかるといいます。僅かでは結構です。この方の
ご協力も よろしくします。有難うございました。

生駒市生駒1-61-8 和泉ハイツ405(07437-4-6082)

日本婦人会

婦人しんぶん



1994. 6. 10

明文がほしいということ
は、大きな願いでした」
おだやかな口調から、人
生七一年の燃えるような
情熱が伝わってくる。

言葉と文字、すべての
生活習慣、その上、女性
の性までを奪いつくした
日本の植民地支配時代、
一九四一年から敗戦まで
朝鮮人民に対して行なっ
た「皇国国民化教育政策」
の現場にたずさわリ、ケ

「あと
ていたことに気がつくのにあまりにも
遅すぎたと反省の日々であった。
人生にな
六年前に、こうした経験の新聞投稿
った私に
がきっかけとなり、九二年二月に大学
として、
ゼミに同行し、独立記念館を訪れた。
ソウルの
数々の侵略の展示を見て「韓国人から
独立記念
見た日本の侵略」について、記念館を
館に、日
訪れる日本の高校生も多いことから、
本語の説
若い世代に知ってほしいと「日本語の

ソウルの独立記念館への日本語
説明文設置に情熱を燃やす

池田 正枝さん



ソソ、ソウルで教鞭をとってきた。敗
戦一年前、校長から「富山の軍需工場
へ女子生徒を送ってほしい」といわれ、
「お国のために」と教えるの親を説得
し、六年生六人の生徒を送り出した。
敗戦後、アバルトヘイトの運動に出
あい、自分が朝鮮の人びとに対し、同
じことをしてきたことに気づかされ
た。ナチスやアバルトヘイトに対し抗
議の涙を流した自分が、同じ誤ちをし

敗 説明文設置」への行動が始まった。
が、当時ソウルの国民学校の同僚だっ
た妻さんだ。日本人の、戦争責任を果
たさなければ、とのひたむきな情熱に、
妻さんもほだされ、「ぜひ日本の若者た
ちに見てもらいたい」と協力、記念館
の館長を動かし、ようやく年内設置
が実現することとなった。

(垣)

1994. 7. 30

参議院議員 清水 澄子

集会へのアピール

50年前に日本の軍部が本土決戦に備えて、強制連行してきた多数の朝鮮人労働者を酷使して構築を図った松代大本営の地において、『朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会』が開催されることに私は、一つの感慨を持つ者です。

日本は、サンフランシスコ条約、日韓条約等を理由に、いまだに従軍慰安婦を初め、強制連行・強制労働の犠牲者への補償を行なうとしません。そればかりか、これまでは強制連行・強制労働の事実さえ政府は認めてきませんでした。4万人の中国人の強制連行・強制労働については、6月の参議院外務委員会において、私の質問により強制労働の事実を認めるとともに謝罪の発言を致します。敗戦後50年を経て、ようやく、過去の事実を公式に認め出したということなののでしょうか。何とも歯がゆい思いが致します。

しかし、政府とは別に、民間の方々の思いが重なり合い、このような交流集会が毎年、開かれることは、戦後補償問題を国会の場で取り上げてきたものの一人として救われる思いが致します。

現在、政府は、従軍慰安婦問題については、補償に代わる措置としてアジア交流センター（仮称）等を提案しています。ところが個人への「謝罪と補償」は全く触れておりません。このためにかえって不満がつり、問題の解決を困難にする傾向があります。

この集会の参加者の個々の思いが政府の戦後補償政策に影響を及ぼすことをねがうものです。同時に私も、国会に場において、犠牲者になられた方々の心に届く補償の実現に向けて一層の努力を傾けることをお誓いします。皆様とともに頑張ります。

94 6/15

強制連行の全国集会

松代見学や9分科会

来月長野「戦後責任」問いかけ
で開催

日本の戦争責任を検証し、戦跡保存に取り組む市民グループが全国から長野市に集まり、七月三十、三十一日に開く「第五回朝鮮人・中国人強制連行、強制労働を考える全国交流集会」の内容がこのほど固まった。朝鮮人が強制労働させられた松代大本営地下壕

(こつ)のある同市での集会は、過去の反省に立った新たな共生を模索する内容になりそうだ。

念講演する。二日間とも9分科会を開き、「行政サイドの戦争、平和博物館ブームを問う」「戦争責任の時効成立をさせないために」「国際連帯の可能性」といったテーマを予定。日本は、アジアの人々から十分に信頼され、次世代に誇りを持って引き

継げる形で「戦後責任」を果たしているのかを問う。交流集会は、九〇年に名古屋で初めて開かれて以

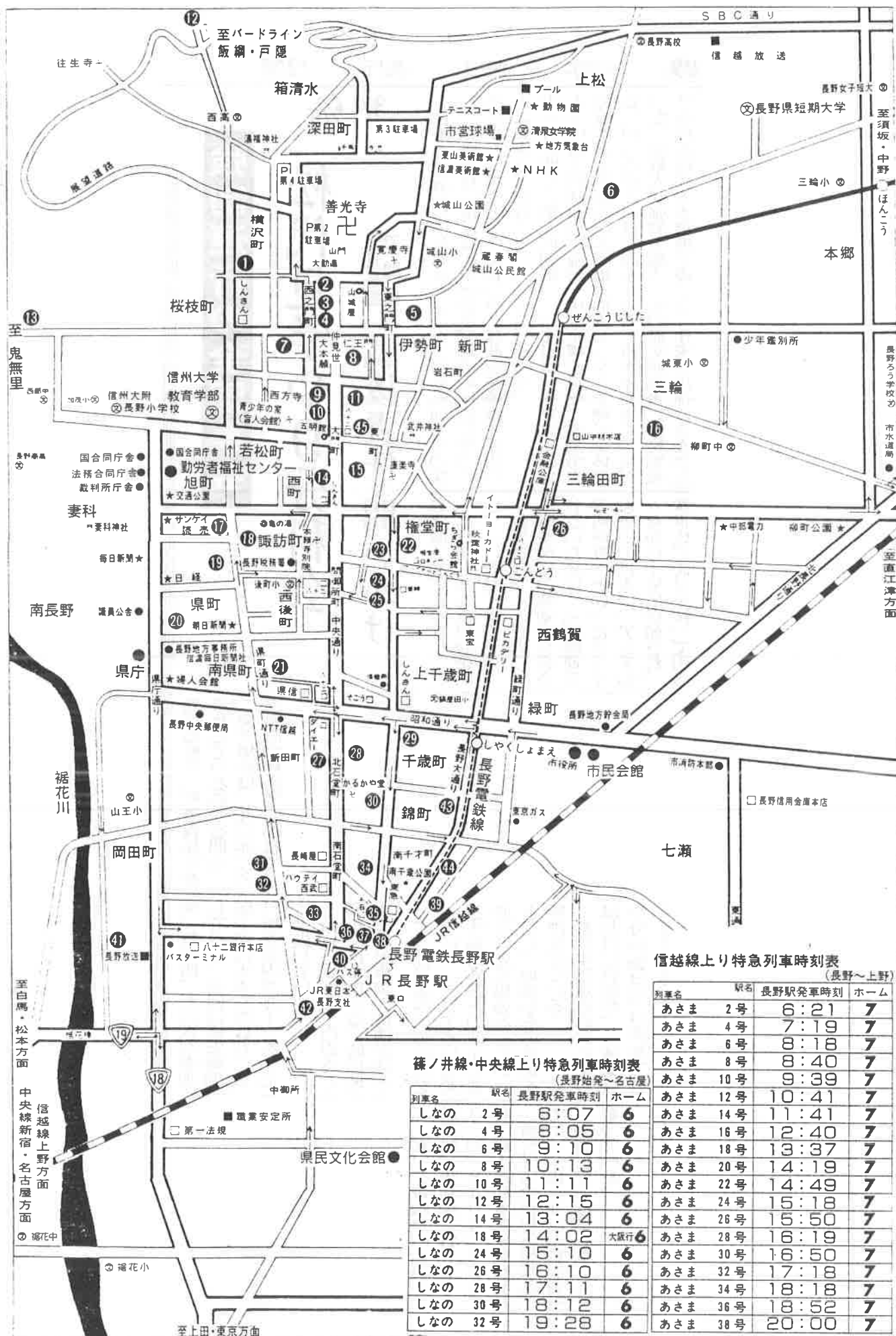
来、毎回四、五百人が参加してきた。今回は慰安婦問題や松代大本営の保存に取り組み県内グループを中心に準備している。

事務担当の竹内忍さん(三三)松本市は、植民地支配など事実の指摘を柱と

してきた過去四回の成果をもとに、「アジアをはじめとする諸外国との共生の道筋を考える集会」として、地元からの参加を呼びかけている。

参加申し込みの締め切りは七月七日だが、全体集会や分科会は当日参加でき

る。案内を兼ねた申込書の請求は、事務局(026 3・33・8404、〒390 松本市松本郵便局留め)第五回交流集会松代あてへ。集会運営の賛同資金を寄付する団体、個人も募っている。

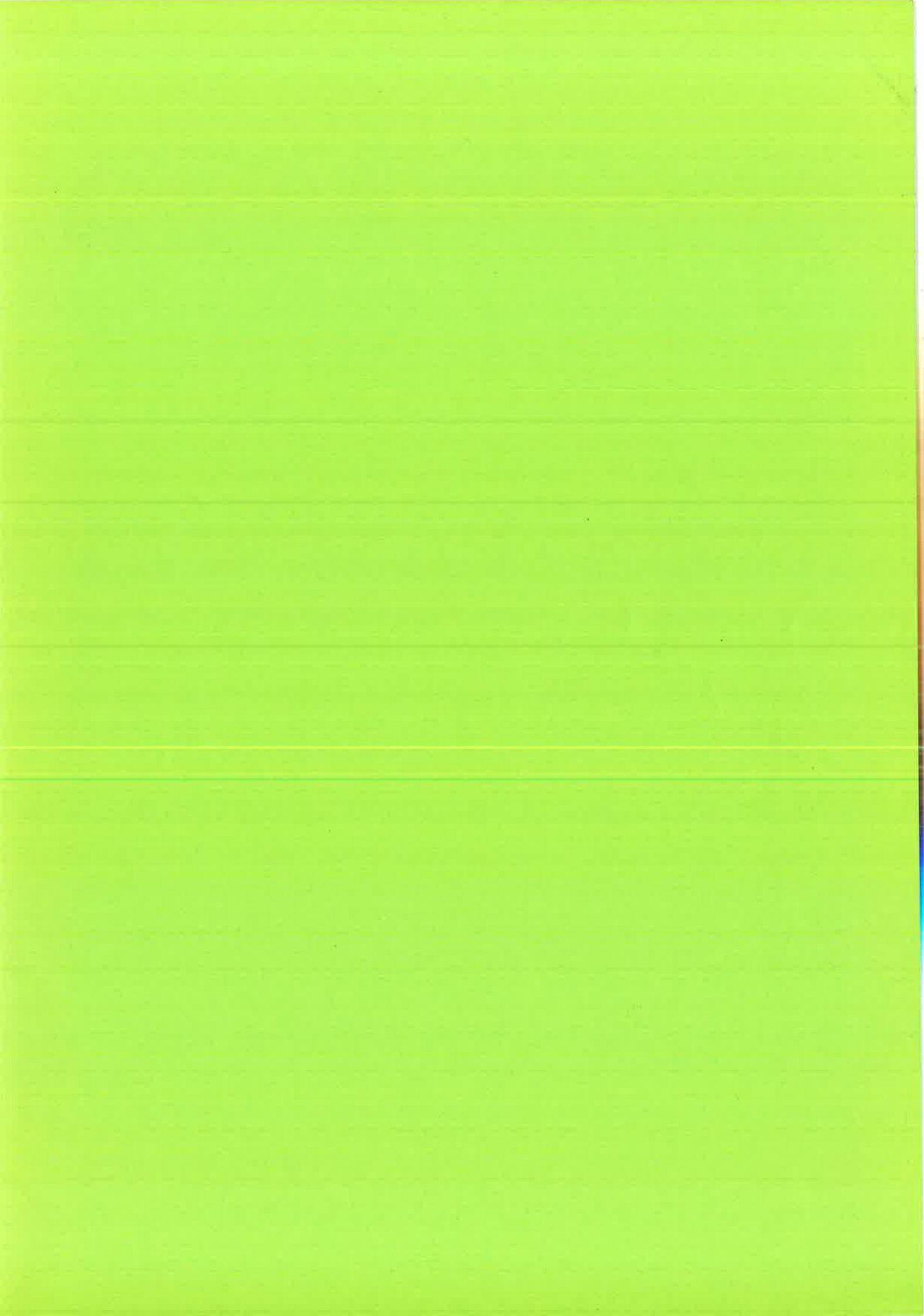


信越線上り特急列車時刻表 (長野～上野)

列車名	駅名	長野駅発車時刻	上野
あさま 2号		6:21	7
あさま 4号		7:19	7
あさま 6号		8:18	7
あさま 8号		8:40	7
あさま 10号		9:39	7
あさま 12号		10:41	7
あさま 14号		11:41	7
あさま 16号		12:40	7
あさま 18号		13:37	7
あさま 20号		14:19	7
あさま 22号		14:49	7
あさま 24号		15:18	7
あさま 26号		15:50	7
あさま 28号		16:19	7
あさま 30号		16:50	7
あさま 32号		17:18	7
あさま 34号		18:18	7
あさま 36号		18:52	7
あさま 38号		20:00	7

篠ノ井線・中央線上り特急列車時刻表 (長野始発～名古屋)

列車名	駅名	長野駅発車時刻	ホーム
しなの 2号		6:07	6
しなの 4号		8:05	6
しなの 6号		9:10	6
しなの 8号		10:13	6
しなの 10号		11:11	6
しなの 12号		12:15	6
しなの 14号		13:04	6
しなの 18号		14:02	大原行 6
しなの 24号		15:10	6
しなの 26号		16:10	6
しなの 28号		17:11	6
しなの 30号		18:12	6
しなの 32号		19:28	6



第5回 朝鮮人・中国人強制連行・

強制労働を考える全国交流集会《資料集》

発 行 : 西暦1994年7月30日

編集・発行 : 第5回 朝鮮人・中国人強制連行・強制
労働を考える全国交流集会実行委員会

〒390 長野県松本市松本郵便局留め

第5回交流集会 松代 宛

[TEL/FAX] 0263-33-8404 (竹内)

[郵便振替] 長野2-15281 第5回交流集会松代

定 価 : 700円

◎本の販売について

◇実行委員会では本の販売はいっさい引き受けません。

◇委託販売は模索舎が行います。模索舎への問合せは
[☎/FAX] 03-3352-3557

東京都新宿区新宿2-4-9（営業時間11時～19時）

◇ミニコミリストを作成しますので、用紙に紹介文等を記入
のうえ模索舎までお送り下さい。

◇貴会のメンバーによる出展販売はできますが、必ず事前に
事務局へご連絡下さい。

・会場での販売場所の決定は受付順になります。

・事前に物品を送付する場合は7月29日当日到着のものし
か受付られません。送り先は下記へ。

[住 所] 長野市 県 町532-3

長野県労働会館県評センター気付

「第5回交流集会松代 実行委員会」

[☎/FAX] 0262-34-2116/0262-34-0641

◎フィールドワーク参加の皆さんへ

松代までの交通時刻表（土曜日）

◆長野駅から（川中島バス、片道約30分、590円）

長野バスターミナル発（駅からバスターミナルまで徒歩10分）

9:03 23/10:23/11:03 43/12:23

◆篠ノ井駅から（川中島バス、片道約20分、410円）

篠ノ井駅前発（松代着）

8:45（9:05）/9:40（10:00）/11:50（12:10）

◆屋代駅から（長野電鉄、片道13分、380円）

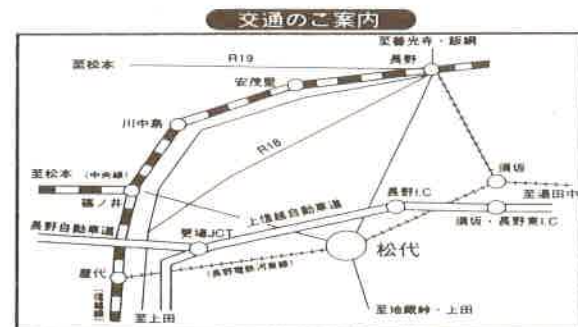
屋代駅発（松代駅着）

9:50（10:03）/10:50（11:03）/11:48（12:01）

◆長野駅からタクシー（約3000円、15分）

川中島タクシー 0262-78-2107

松代タクシー 0262-78-3535



呼吁参加第五次 思考朝鮮人

中国人被强制押送和强制劳动的

全国交流集会

日本の现代化，是把向亚洲发动侵略及其殖民地统治并驾齐驱推进的，特别是，在亚洲・太平洋战争中，剥夺了大量的人身性命。被迫为日本军“慰安妇”的女性们以及牺牲于强制连行，强制劳动的人们要求赔偿的呼声日益强烈。向日本追究战争责任的运动，像冲破闸门的洪水一样爆发出来。从而表明，战后半个世纪的日月，冲不是免罪卡。

五年前，曾在名古屋市首次召开了“朝鲜人、中国人强制连行，强制劳动思考全国交流集会”。由此，迫使一贯佯装一无所知的日本政府也不得不承认了由市民之手搞清楚了的事实。这些成绩是各地埋头苦干，任劳任怨坚持调查的个人和团体付出了很大代价的结晶。前四次全国交流集会，为彼此相互交流成果，提供了难能可贵的机会。

第五次全国交流集会将于7月30日、31日在松代大本营所在地长野市举行。作为本土冲战的最后“堡垒”，酷使多数朝鲜人而建的松代大本营，正好是日本强制连行、开始施工大本营地下壕沟的第五十个年头的今年，在这里召开全国性交流集会，对于我们实行委员会来说，是一件非常高兴的事。我们希望，各地都带来一年来的成果，相互学习、相互交流，使这次大会成为进一步促进各自的调查于研究的盛会，不言而喻，此次大会还预定去大本营地下壕沟进行实地现场调查。

日本的战争责任，战后赔偿问题，可以说终于被提出来了，但是，尚远远未得到解决，为了以清新的感觉去挖掘出那些被掩埋在地下壕沟暗处、水库地、“慰安所”遗址的事实真相，呼吁、号召更多的人参加有关的调查、研究活动。

第五回朝鮮人、中国人強制連行、強制労働を考える

全国交流集会実行委員会

제5회
조선인, 중국인
강제연행・강제노동을
생각하는
전국교류집회

일본의 근대화는 아시아에로의 침략, 식민지 지배와 포리일체로 진행되어 특히 아시아, 태평양전쟁에서는 많은 사람들의 생명을 빼앗아갔습니다. 일본군의 「위안부」로 강요당한 여성들과 강제연행, 강제노동의 희생이 된 사람들의 잇달은 보상요구에 의하여 일본의 전쟁책임을 추구하는 움직임이 앞을 다투면서 분출하고 있습니다. 이것은 전후 반세기의 세월이 결코 먼치부가 되지 않았음을 의미하고 있습니다。

名古屋市에서 제1회 「조선인, 중국인 강제연행, 강제노동을 생각하는 전국교류집회」가 개최된지 5년이 됩니다. 사실을 부정하여 온 일본정부도 시민들에 의하여 밝혀진 사실들을 인정하지 않을 수 없는 상황에 이르렀습니다。

이것은 각지에서 꾸준히 조사활동을 계속해온 개인그룹의 힘의 축적이 있었기 때문입니다. 지금까지 4번에 걸쳐 진행된 전국교류집회는 이러한 성과를 서로 교환, 결집하는 귀중한 기회로 되어왔습니다。

제5회 전국교류집회는 松代大本营이 있는 長野市에서 7월30, 31일에 개최되게 되었습니다. 다수의 조선인 노동자를 혹사하고 본토결전의 최후의 보루로써 만들어진 松本大本营는 실로 일본이 감행한 강제연행, 강제노동의 상징적인 존재입니다。

大本营지하호 착공으로부터 마침 50년에 해당하는 올해, 이 땅에서 전국교류집회를 개최할 수 있게 된것을 저희들 집행위원회 일동 매우 기쁘게 생각합니다。

각지의 1년간의 성과를 서로 교환하면서 서로의 조사, 연구를 한층 발전시키는 계기가 되는 이틀간이 되리라 생각합니다。

일본의 전쟁책임, 전후보상을 둘러싼 문제가 겨우 부각되었기는 하나 아직 미해결문제들이 스태 많습니다. 지하호의 어둠속에, 댐의 바닥에, 「위안소」 밑에 묻혀진 채로 되어있는 진실을 새로운 마음으로 다시 밝히기 위해 한분이라도 많은 분들이 참가해주시기를 부탁드립니다。

제5회 조선인, 중국인 강제연행, 강제노동을
생각하는 전국교류집회실행위원회

ANNOUNCEMENT

THE 5TH CONFERENCE

ON KOREAN AND CHINESE FORCED LABORERS

The Japanese considered their actions abroad "modernization", but in the process of modernizing, Japan invaded and colonized other Asian nations.

The Japanese Army killed thousands of people during the Asia-Pacific Ocean War. Women who were forced to work as a comfort woman and other people who were taken away from their countries as forced laborers have recently started suing Japan for compensation. Even though 50 years have passed since the war, time has not washed away the wrongdoing of the Japanese Army.

It has been five years since "The 1st National Conference on Korean and Chinese Forced Laborers" was held in Nagoya. The Japanese government, which had been ignoring the truth, was forced to admit the facts, as civil groups proved it. The efforts of many people and groups made this happen. We believe that the past four Conferences were precious opportunities to learn about the war.

The 5th Conference will be held in Matusiro, Nagano City on July 30th and 31st. 'The Matusiro Headquarters of the Imperial Army' was built by thousands of Koreans and Chinese who were taken from their countries and forced to work. It was built in preparation for the last inland fight of Japan. Now it became the symbol of the forced labor and the terrible thing the Japanese Army did to Koreans and Chinese people.

We planned the Meeting here in Matusiro because this year is the 50th anniversary of the initial construction of Matusiro Headquarters. Many people and groups from all over Japan will report on the War during the 2-day conference. An inspection tour of the underground ruins of the Headquarters is also planned.

At though the issue of Japan's responsibility for the War and post war compensation has been raised, many problems are left unsolved. There are still a lot of unknown facts buried in the darkness of underground shelters, under the water of dams, and under the ruins of comfort places.

In order to make further progress in our understanding of the history of Korean and Chinese forced laborers, we hope that as many people as possible will attend this conference. We look forward to seeing you in Matusiro in July.

DATE : July 30-31, 1994

PLACE : Matusiro, Nagano City

SPONSOR : The Executive Committee for the 5th Conference on Korean and Chinese Forced Laborers

地下壕の闇に、
ダムの上に、
「慰安所」の跡に、
葬られたままの真実を、
新しい気持ちで
掘り起こすために――

第5回

朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える



全国交流集会

フィールドワーク●長野市松代町大本営地下壕
交流集会●長野県労働者福祉センター

1994.7.30~31

主催●第5回 朝鮮人・中国人
強制連行・強制労働を考える
全国交流集会実行委員会

よびかけ

日本の近代化はアジアへの侵略・植民地支配と表裏一体で進められ、特にアジア・太平洋戦争では多くの人々の命を奪いました。日本軍により「強制従軍慰安婦」にされた女性たちや、強制連行・強制労働の犠牲となった人々から次々と補償要求の声が上がリ、日本の戦争責任を問う動きが、堰を切ったように噴出してきました。これは、戦後半世紀の月日が決して免罪符にはならないことを意味しています。

名古屋市で第1回の「朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える全国交流集会」が開催されて5年になります。ほおかむりを決め込んできた日本政府も、市民の手で明らかにされた事実を認めざるを得ない状況に追い込まれました。これは、各地で地道に調査活動を続けてきた個人・グループの力の蓄積があったことです。これまで4回の全国交流集会は、こうした成果を交換しあい、結集する貴重な機会となってきました。

第5回の全国交流集会は、松代大本営のある長野市で7月30～31日に開かれることになりました。多数の朝鮮人労働者を酷使し、本土決戦の最後の「砦」として作られた松代大本営は、まさに日本の行った強制連行・強制労働の象徴的存在です。

大本営地下壕着工からちょうど50年目に当たる今年、この地で全国交流集会を開催できることは、私たち実行委員会にとっても大きな喜びです。各地の1年間の成果を持ち寄って学びあい、それぞれの調査・研究を一層発展させる足掛かりとなる2日間にしたいと思います。もちろん、大本営地下壕のフィールドワークも予定しています。

日本の戦争責任・戦後補償をめぐる問題がようやく浮上してきたとはいえ、まだまだ未解決のものばかりです。地下壕の間に、ダムの中に、「慰安所」跡に葬られたままの真実を、新しい気持ちで掘り起こすためにも、一人でも多くの方の参加を呼びかけます。

1994年 6月

第5回 朝鮮人・中国人強制連行・強制労働を考える

全国交流集会実行委員会

第5回交流集会はこう変わります

分科会

◎今後の指針を探るためのテーマ設定

従来の枠組みを踏まえたうえで、今後の指針を探るためのテーマ設定を考えました。

◎建設的な議論中心の分科会に

分科会の席上ではテーマにあわせた問題提議となるような報告を発表していただき、それをもとにディスカッションをする予定です。したがって必ずしも全員（団体）が発表できるとはかぎりません。報告者以外の団体のレポートは、後日発行の報告集に掲載します。

B5フリーアピール

◎3分間スピーチと賛同団体紹介を合体

賛同していただいた個人・団体の活動や、アピールを紹介する資料を作り、当日配布します。グループ名、連絡先、活動紹介、刊行物、アピールなどをB5、1枚に自由に記入して事務局までお送り下さい。そのまま印刷します。締切りは7月1日です。

報告集（後日刊行）

◎1冊で資料として活用できるレポート中心の内容に

分科会の報告と各団体のレポートをテーマごとに集約。強制連行・強制労働をさまざまな角度から考えるための資料として充実させます。レポートの提出についての詳細は当日お知らせします。

集会へのご賛同をお願いします

この集会は全国の皆さんの協力と賛同資金で運営されています。ぜひご賛同ください。賛同団体・個人は「B5フリーアピール」で紹介させていただきます。
〈賛同金〉団体5000円、個人2000円

【実行委員会連絡先】

◆交流集会全体についての問合せ

〔☎/FAX〕0263-33-8404(竹内)

〔郵便〕〒390 長野県松本市松本郵便局留め

第5回交流集会 松代 宛

◆宿泊についての問合せ

〔☎/FAX〕0262-74-3681（6/20から）

【集会日程】

7月30日(土)

11:00～14:30 フィールドワーク《象山地下壕》

〔受付〕民俗資料館「時代の館」前（0262-78-9998）

◆11時出発コース（受付10:30より）

公開・非公開部分および地震観測所（天皇御座所）見学

◆12時出発コース（受付11:30より）

公開・非公開部分見学

◆13時出発コース（受付12:30より）

公開部分見学

・いずれも事前申し込みが必要です。

・11時出発コースはバスの都合で先着申込50名で〆切ます。

・11時出発コースは貸切バスで移動のため、自家用車でお越しの方は、松代町内の駐車場（地図参照）に車をおいてご参加下さい。

・懐中電灯を持参のうえ、歩きやすい靴でお越し下さい。

・松代から全体会場まではバスが出ます。乗車希望の方は申込書に記入下さい。なおバス代は別途徴収になります。

13:00～15:00 全体集会受付《長野県勤労者福祉センター》

15:00～17:00 全体集会① 《 〃 》

◇あいさつ・実行委員会

◇松代からの特別報告／青木孝寿さん（歴史研究者）

◇記念講演／井出孫六さん（作家）

◆徒歩で移動⇒善光寺宿坊にて宿泊受付

17:30～18:30 夕食・入浴《各宿坊にて》

◆徒歩で各分科会会場（宿坊）へ移動⇒分科会受付

19:00～20:30 分科会《各宿坊》

20:30～ 交流会《 〃 》

7月31日(日)

7:30～8:30 朝食

◆徒歩で移動

9:00～11:00 分科会 《長野県勤労者福祉センター》

11:00～12:00 全体集会②《 〃 （大ホール）》

◇詩と歌による構成「あなた朝鮮の十字架よ」

（原作：張 貞任、訳：金 知栄、演出：李 愛美）

◇分科会報告

◇次回開催地あいさつ

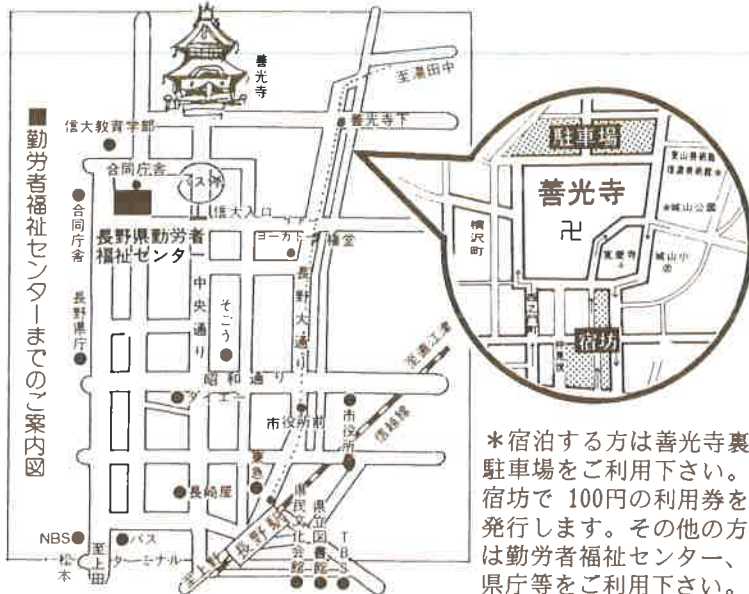
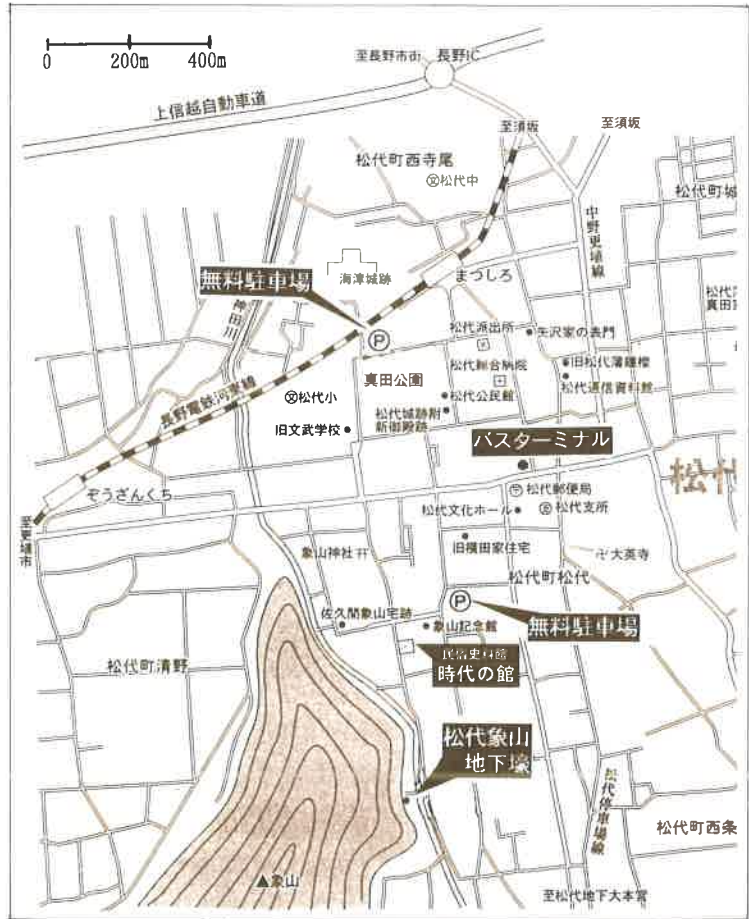
【勤労者福祉センター】

〒380 長野市旭町1108 ☎0262-33-3231 FAX 0262-32-4461

【当日の宿泊先への連絡】

10軒の宿坊に分宿予定。代表連絡先は

善光寺宿坊：徳行坊 ☎0262-32-0264 FAX 0262-34-6297



分科会

①入門講座：これから調査を始める人たちのために

〔松代大本営を通じて強制連行・強制労働を考える〕

②強制連行・強制労働をどう教えるか（教育の場で）

〔学校教育での実際の取り組み／成果・課題／等〕

③女性と戦争（「慰安婦」問題を中心として）

〔「慰安婦」問題の現状／補償の方向性／等〕

④強制連行・強制労働とマスコミ

〔メディアによる報道の問題点／マスコミを活用する知恵〕

⑤調査・研究の新たな展開（連携へ向けて）

〔調査活動のノウハウ／新しい調査の視点／情報交換／等〕

⑥史跡保存のあるべき姿（行政・観光）

〔保存の姿勢・公開の仕方／行政サイドの戦争・平和博物館ブームを問う／等〕

⑦戦争責任・戦後責任を検証する（国家・企業・民衆）

〔それぞれの責任の追及／「責任」の示し方とは？／等〕

⑧強制連行・強制労働と在日（21世紀へ向けて）

〔在日の立場から問題をどうとらえるか／課題と展望／等〕

⑨「戦後50年」からの出発

〔戦争責任の「時効成立」をさせないためには／国際的な場で日本の戦争責任を問うには／国際連帯の可能性／等〕

【参加費用】

〔参加費〕3000円（資料代含む、学生は半額）

〔宿泊費〕7000円（1泊2食付き）

◎申込み後の宿泊キャンセルは、理由、時期のいかんにかかわらず、キャンセル料3000円をいただくことになりますので御了承下さい。

◎当日キャンセルの時は、宿泊代7000円をいただきます。

【申し込み方法】

この案内についている郵便振替（郵便口座：長野2-15281、「第5回交流集会松代」）で7月7日までにお申し込みください。一人一枚の郵便振替でお願いします。領収書は郵送せずに集会当日、参加証とともにお渡しします。



根強い民族的偏見等の壁と史跡保存運動のすすめ方について
……慰霊碑建立運動へのとりくみと犠牲者の実態調査等から……

原 山 茂 夫

(松代大本営朝鮮人犠牲者慰霊碑建立実行委員会)

○レポートの概要

われわれのこの建立運動は、アニメ映画「キムの十字架」の長野県内上映運動の発展として、3年前の1991年7月に発足しました。

しかし、犠牲者の掘り起こしの困難とバブルの崩壊・不況の長期化に加えて、日本人の潜在意識の底流にある根強い民族的偏見の厚い壁などに阻まれて、運動は思ったようには進捗して来たとはいえません。ただ発足以来4年目を迎える今日になって、長野市が用地の提供でようやく協力してくれることになり、来年8月までには建立できる目途は立ってきました。

犠牲者の実態調査は、力量の不足から焼失ないしは隠匿されたといわれる名簿の調査までは手が出ず、生存者の証言に頼るしかなかったためもあって、氏名が判明できた者は未だ4名に止まり、その中で遺族まで確認できた者はたったの1名だけです。

ただ、松代での朝鮮人労働者の労働・労務管理と生活の様相については、われわれの調査活動によって、これまで一般に伝えられていたいわゆる「残酷物語」的な実態とは違った様相もあったことが、朝鮮人労働者たち自身の証言によって明らかになり、松代の人たちなどとのとらえ方との共通点も出てきて、日本人との交流の実態も多少ははっきりしてきました。

松代大本営は天皇制と戦争と朝鮮人強制労働と民衆を結び付けて考えさせる、象徴的な歴史的遺跡です。それをどう石に刻み込みながら、戦争責任と戦後責任の一端を果たす端緒としていくか、また来年8月までの完成を期して、募金運動と犠牲者の調査活動をどう強化していくかが今後の課題です。

また、これを史跡として保存させていくためには、とりわけ保守色の強い地元であることからクリヤーすべき多くの問題がありますが、関係団体はそれぞれの運動で実績を積み上げながら、共通の目標実現のために、暖かく協力していく必要があります。

情報の提供・募金などでの、全国から結集された皆さんの熱いご協力・ご支援をお願いする次第です。

・慰霊碑建立運動の発起と展開

1. 発端…アニメ「キムの十字架」上映運動の成功から

89年夏に企画され、90年7月に完成した現代プロダクションの「キムの十字架」の県内上映運動は、松代大本営の保存・公開運動の高まりと、それに押されての長野市の象山地下壕部分公開開始という追い風を受けて展開され、7月からの半年間に県内主要都市を中心とする52会場で上映、観客4万人を動員して、“松代大本営旋風”を巻き起こしました。

この運動には、保存をすすめる会や生協・県退教・民教・平和団体・キリスト教徒・県教組・高教組・私教連などの他、民団や総聯、在日の有志などと幅広い仲間が積極的に参加・協力して、成功を納めることができました。

そして、その年の10月の中間総括の実行委員会で、運動の収益金を基に、「キム」の原作者である和田登氏の松代大本営に関する第1作で、すでに絶版になっている「悲しみの砦」を再版させることと、「キム」の主人公セファンのように、この工事で犠牲になった方々の実態を調査してその慰霊碑を建立する運動を起こすことが確認されました。

2. 大本営問題に熱心な運動体からの批判と民族的偏見の中で

そして、翌91年5月に、県日中友好協会会長で韓国・朝鮮への侵略・差別の問題にも熱い関心をもっておられた元日本医師会の会長でもあった花岡堅而先生を筆頭に教育・医療・宗教・文化の各界の名士と、現代プロ監督を始めとする「キム」上映の中心メンバー10数名の賛同の下に第1会発起人会を開催し、7月にはさらに呼び掛けに応じた県日朝^{日朝}会^会も加わり、県民団・県総連の両団体のご協力も得て、第2回発起人会を開き、役員と運動方針を決定しました。

われわれは、松代での朝鮮人強制労働の責任は、第一義的には国にあり、次にその下で協力し運営に当たった建設企業にあると考えますが、民族的偏見を少なからず持ちながら、植民地政策も批判できずに、それに協力ないしは傍観し、またその真実を知らずに今日まで過ごしてきたわれわれ一般住民にも、まったくその責任がないとはいえないと思います。

国や企業にして、責任や補償を請求もすることも大事なことです。しかしその前にまず、犠牲になられた方々に対する慰霊があっても然るべきでしょう。

そして、まず市民運動を起こして、関連企業にも協力させ、さらに力を高めてかたくなな行政（市・県・国）も動かして、何等かの形で、実態調査と慰霊の活動等に協力させていくことを考えました。

そして当時不明であった犠牲者も、運動の推進の中で掘り起こし、その掘り起こしをバネに募金や行政等への働きかけを強めていく考えでした。

これに対して、参加の呼びかけに応じてもらえなかった大本営問題に熱心な二つの団体は、「犠牲者もわからないのに、なぜ慰霊碑か」とか、「関連企業から金をもら

うのは、道義的に問題」とか、「企業から金をもらうことは、企業の賠償責任を免責することだ」と、新聞紙上等でこちらの真意も理解しない高踏的な批判を県民の前に示し、松代の運動の「分裂」を県民に印象づけました。

私たちはこれらの批判に対しては、共に「松代」を考えている団体として、実績と行動をもって回答していくことにして、敢えて反批判はしないで来ましたが、このような批判が響いてか、「キムの十字架」上映運動に結集した団体や有志からは、積極的な協力が得られず、若干の困難を抱える形になりました。

また、県経営者協会や地元松代の商工会議所等にも、早くから募金等の協力を求めてきましたが、バブルの崩壊に続く不況の長期化もあってか、まだ協力が得られず、県内出身の名士や産業・教育・文化・宗教等の代表的名士8000余名等への文書での募金協力要請においても、必ずしも芳しい成果とはいえないのが現実です。

その根底には、「朝鮮人も同じ日本人だった。日本人の犠牲者の慰霊碑も建てないで、何が？」とか、「当時朝鮮人の中には、われわれ以上の生活をしていた者もいたのに、何が？」というような、その辺でちらほら耳にした話に代表されるような民族的偏見と誤った歴史認識が、根強く残っているように思われます。

3. 「証人は語る」の集いなどで、マスコミを通して県民にアピールしながら

犠牲者の掘り起こし活動の成果を広く県民に知らせて運動を盛り上げていくために、91年12月には、松代からの労働者斃命にも関係した金基周氏（長野市・故人）、92年4月には、同じ宿舎の者が発破の事故で死亡した体験をもつ姜永漢（岐阜県）92年11月には、飯場頭として象山地下壕掘削を請け負った下鳳煥氏（静岡県）と西松組の末端労務係だった趙仁済氏（東京都）を招いて、「証人が語る」集いを開催し、マスコミなどを通して県民に、運動をアピールしてきました。

その中で、姜永漢氏の証言を基に、92年8月に行った初の訪韓調査では、証言が除籍簿でも裏付けることができ、犠牲者の遺族にも会って墓参も行うことができるなど大きな成果を上げることができましたが、テレビ信州は調査団に同行密着取材して8月16日に特集番組で大きく報道しました。

4. 公開募金で地下壕見学者にも募金を呼びかけながら

経費面では、犠牲者調査費も含めて一応2,000万円の募金計画を建て、発起人だけででも最低100万はやり切る構えで、参加団体や関連建設企業へ協力をよびかけ、県出身名士や県内各界の名士など8,000名以上にも協力を求めてきました。

また、91年8月から断続的に、92年3月からは継続的に土・日に、公開口で見学者に協力を求める募金活動を始め、7月24日現在でその額は126回目で170万余に達し、募金総額は約1,450万に到達したところです。

5. ようやく曙光が見えて…長野市が用地の提供で協力

犠牲者も別項で述べるような調査によって、ごく一部ですが判明し、募金もある程

度集まった昨年春に県と市へ、また連立政権の誕生によって政権が変わった国に対しては12月に、建立協力と犠牲者調査への協力を要請しました。

それに対して、国は「市や県からは何の要請もないから」と言い、県は「長野市の動きを見て」という態度、当の長野市は「運動には敬意を表する」と言いながらも、希望の2号壕清野口の土地は図面では国の土地」と言い、国の土地に関連して隣の壕を宇宙線観測で使用している信州大学理学部では、「そんなはずはない」という返事で、とどのつまりは図面上とは大きくかけはなれた隣接のC建設会社（壕から掘り出されていたズリの処理・販売で会社を創立）の土地ということになりましたが、猫の額ほどのガレ地にもかかわらず、同社は頑として譲らず、用地問題は暗礁に乗り上げた形となっていました。

そんな折に、平和の祭典リレハンメル冬季オリンピックの平和効果もあってか、塚田市長が2月議会の代表質問に対する答弁で、「用地問題で協力する」ことを明言し、以後市側との共同調査や折衝を積み重ねてきているところで、来年8月までには建立できる見としようがようやく立ってきました。

II. 犠牲者等の調査

1. 犠牲者調査

終戦直後の重要書類焼却命令で焼却されたのか、隠匿されてしまったのかわからない死亡者名簿に頼れない現状では、調査は生存者の証言に頼るしかなく、たまたま岐阜市在住の姜永漢氏の証言で、同じ飯場に居た朴道三・金快述・趙徳秀（杉本徳夫）の三名が爆破作業の事故で死亡したことがわかりました。

そして、朴道三については、姜氏が彼の出身郡を覚えていたので、県民団を通して慶尚南道昌寧郡守に協力を要請して郡内各村で除籍簿を調査してもらったところ、朴道三の松代での死亡が確認され、92年8月に訪韓してそれを確かめて、遺族にも会って墓参をしてきました。

これによって、強制連行者の死亡が除籍簿で確認されたことは、犠牲者を探し出す上で有力な手がかりになることがわかったので、92年12月には再度訪韓して同郡の全村と、たまたま隣り合っていた陝川郡（松代唯一の生き証人だったが3年前に死亡した崔小岩の出身郡）の過半の村で除籍簿調査を行いました。新たな犠牲者を探し出すことはできませんでした。

また日本人の証言からは、恵明寺の中西住職と中西豊子の証言で、日本名中野次郎なる者が境内に埋葬してあることがわかっているだけです。

2. 遺体の処理

92年6月に遺体をロ地区（舞鶴山地下壕）から運搬したことがあるという徴用日本人トラック運転手2名に会って生々しい証言を聞くことができた。これによって、遺体は松代から5キロ以上も離れた犀川北岸の火葬場（仮設の場合もあった）で焼か

れたこと、死亡者は口地区では4⁵9年4月頃に多かったこと（1回に4～5体運搬）がわかりました。

3. 労務管理や待遇についての新たな証言

92年6月から94年2月にかけて行った〇内の諸氏との面接によって次のようなこれまで崔小岩たちが証言していた内容とは異なる話を多く聞くことができた。

①飯の量と質

「腹いっぱい食べられた」（金箕昌・昌寧郡）「量はまあまあだった。」（姜永漢・岐阜市・金箕昌と同じ飯場）「日本人の兵隊がコウリャン弁当だったので、飯場の飯を兵隊にくれて感謝された。」（下鳳煥・静岡市・飯場頭）「初めは米の飯が食べられた。15日働けば1カマスの米が貰えた」（李性国ら3名・忠清北道・鹿島組）

*日本人の証言…「徴用で働いた祖父が朝鮮人の飯場で肉をご馳走になったと話していた」（須坂市）「徴用で働いたが朝鮮の人に夕食に呼ばれて肉をご馳走になった。」（坂城町）「口地区飯場には屠殺場があって、時々密殺していた。日本人の警官は鉄条網の外で見えても中に入れずやきもきしていた。肉は各飯場で分けていたようだ。」（トラック運転手）「頼まれてよく牛などを売る世話をした」（長野市保科）

②病院や風呂

「足の指を発破でやられて、吉野病院に入院した。人数を報告してまとまって町の銭湯へ行った」（姜永漢）「怪我などをした時はすぐ病院へ行くことができた。風呂は飯場の中にあった。」（李性国ら）「同胞には怪我一つさせないように配慮して、連行者や日本人徴用者には危険な仕事はさせず全員無事に帰国させた。」（下鳳煥）

③労務管理と賃金

「日本人の監督が日本刀をもって気合いをかけていたが、よく働いたので、親方から文句を言われることはなかった。一日二交替（12時間労働）の方が金になるのでよかった。金は故郷へ送っていた。」（李性国ら）「字も読めなかったので、金は故郷へ送っていたが帰国したら金は届いていた。」（金箕昌）「前の晩に飯炊き（飯場頭の妻が多くやっていた）に働きが悪いと怒られて面白くなかったので、仕事をさぼって穴に行かなかった。松代で一番面白くなかったのは同じ朝鮮人である親方が日本人の手先になってこき使うことだった」（金箕昌）「その他に世話やき（用心棒）がいた」（趙仁濟）「工事場ではどこ、でも、用心棒を雇っていた」（崔快萬・昌寧郡・大村飛行場など軍の仕事での朝鮮人労働者の手配者）

*崔小岩の証言と大部異なるこのような生活・待遇の証言が多いことをどう考えるか？崔小岩の証言がオーバーなのか、親方の飯場経営・労務管理の仕方の相違か、重層的な下請けピンハネ・管理構造の歪みによるものか？当時、時には1,000人もの朝鮮人労働者を扱った崔快萬によれば「軍の仕事は、金はすぐ出るし、言っただけの人数で金をくれたので、うま味のある仕事だった。」と語ってくれましたが、松代は日

本の最高権力府に関わる工事であったので、他の現場に比べてさらに労働者は集め易かったことは想像できます。

天皇御座所関係の鹿島組の方は、西松組に比べてトンネル工事などは少なく、人数も少ないうえに、最も大事な工事ということで、作業の強度や飯場の人間関係の面でも相違があったと思われます。

④朝鮮人労働者の層

松代の朝鮮人労働者の中には、様々な経路で来た人がいたことも分かって来ました。

A. 自由移入者

- a. 家庭の事情などで、早くから自分の意志で日本に稼ぎに来ていた者（崔小岩など）
- b. 他の地に強制連行されたが、脱走して自由の身になって、親方についてきた者
- c. 4²42年頃に、「会社募集」的な徴用に応じて、半ば自分の意志で日本に稼ぎに来ていた者（そのうちに仲間の一人が親方になって移動、李性国など）

B. 強制徴用者（官斡旋）

- a. 徴用令状によって松代へ強制連行された者（朴道三・金箕昌など）
- b. 他の現場から県（例えば愛知県）などの指示で強制移動させられた強制連行者（小牧飛行場工事現場からトラックで、憲兵が警備・愛知県徴用課勤務者証言）

Ⅲ. 史跡保存と慰霊碑建立

①慰霊碑建立は松代大本営を史跡として保存させていく上でプラス

慰霊碑を建立することは国際的（韓国・共和国との関係においても）にも、松代大本営の史跡的価値を高める効果をもち、史跡認定に消極的な行政の姿勢に一定の影響を与えてきていると考えます。（用地を長野市に整備して提供させることにしました。）

②慰霊建立運動は「慰霊」ということで、中間的な層から、思想的には「右」と思われるような人の間にも、趣旨への賛同や募金参加を通して、「松代大本営」に関する運動の幅を広げてきており、史跡保存への世論の関心を高めることに貢献してきていると思います。この3年間の入り口での募金額（125回で170万円、1人平均100円として、17,000人の募金協力）が、それを物語っています。

③朝鮮人労働者の労働や生活の状況は、炭鉱や山奥の発電所工事のように、『残酷物語』一色のものではなく、「大本営」工事と都市近郊的な現場という特殊性もあって、そこには地元の松代の人たちが見聞し実感していたような「ゆるやかさ」もあったことが朝鮮人労働者自身の証言で明らかになりましたが、それを大きく報道させたことは、松代の人たちなどに好感をもって迎えられ、結果的に建立運動へのアレルギーの解消にも役立ったようです。

松代大本営を「史跡保存」させていくためには、保守色の強い地元をどう前向きにさせていくが一つの鍵であることを、建立運動の中から学びました。

- 慰安所

なおこの慰安所は一杯飲むこともできて、奥に部屋があった

(7) 已知 α 和 β 是

一九四一年八月二十四日、奈良県吉野郡宇迫川村立里の金屋淵銅山（正式名称は株式会社金屋淵鉱業所立里鉱山―住友系列）で一人の朝鮮人男性が落盤事故死している。日本名でしか判明しないが、花村甚一という男性である。

彼はどのようなルートで吉野の山奥にある金屋淵銅山に就労するようになったかはわからないが、事故から半年後、東京で開かれた産業報国会中央本部主催の殉職産業人慰霊祭で奈良県での犠牲者四人の一人として慰霊された記録が残っている（「大阪朝日新聞」奈良県版四三年四月一日）。このとき「花村」の妻が参加している。

奈良県で刻まれた朝鮮人強制連行の歴史に関連する作業現場で、新聞報道として犠牲者が記録されている唯一の例がこの金屋淵銅山である。ただし、日本名花村が三九年九月一日から始まった朝鮮人強制連行での「募集」形式で連行された人であるのか、それとも日本に以前から居住していて、たまたま金屋淵銅山に就労するようになったかは、いまだにわかっていない。

ただし産業報国会関係の資料を今後調べることで歴史がもっと明確になると思えるが、筆者自身が調べた資料分（文献資料）から類推解釈することは可能だ。

その文献とは、内務省警保局保安課の「特高月報」で、一九四〇年二月に四一〇人の募集許可が記録されている。

その四一〇人に金屋淵銅山に就労していた朝鮮人男性が含まれている可能性がある。なぜ殉職産業人慰霊祭で慰霊されたのか。強制連行が始まった一九三九年以降のことであるため何らかの関連があったとみる見方も当然できるのだ。

今回、「奈良・発掘する会」の調査では和歌山県橋本市と野迫川村で計八人（男子五人、女子三人一いづれも日本人）から証言をえた。強制連行された地は奈良県内の最南西端、吉野郡野迫川村で、鉱山があったのは同村立里の里。ここに住友系列の株式会社金屋洲鉱業所の並里鉱山があった。現在は過疎で人口は二十人を割っている。山ふとこに抱かれた林業を生業とするこの里は、かつては近畿で有数の銅山だったのだ。

連行された人のリスト (一ツツのツ)

(出典「戦時外国人強制連行関係史料集Ⅲ
『金屋測行 半島勤務員』より」)

朝鮮人2下、北海道開拓記念館所蔵資料

名前	生年月日	戸主関係
金井順経	1917・1・18	正玉長男
青山祥基	18・9・14	碩龍 4 男
江川錫熙	17・9・15	大馨長男
朴林錫	1925・9・16	完石長男
清原光錫	07・8・16	鵬教2男
金華炯春	23・5・25	仁孫

〔京幾道〕

本籍地

江華郡良道面亭里43

現住所

同左

216

246

250

河 面陽五里440

長井里553

〃

〃

〃

(4)

増谷

- ・分析関係の仕事。大阪工大の前身を卒業。
- ・44年4月～10月まで働く（橋本市居住） 利川大根さんを知っている。慰安所があった。強制労働のようかたちではなかったか。逃亡したのはあった。けがはない。勤務中では一件だけだった。
- ・親父は物品販売の係長をしていた。朝鮮人労働者を大事にしていた。
- ・監視所なんかはない。道が限られており、逃げられなかった。
- ・仕事は朝8時で3交代労働であった。
- ・労務担当者の夫妻は朝鮮語がペラペラであった。手塚という人だった。
- ・慰安所は一杯飲むことができて、土間にテーブルが二つほどあり、奥が部屋になっていた。
- ・45年12月に復員したが、宿舎はあったが、人はいなかった。

北海

尾崎

- ・技術屋の仕事。土木建築の測量、設計の仕事
- ・大塔村宇井から歩くか、高野山からくるかで、五条に事務所があり、そこに到着したと言っていた。どちらかできた。
- ・一番下に朝鮮人労働者の宿舎があった。
- ・全体で五百人ほどいた。
- ・青山正一（日本名）という人を知っているが、妻帯者でもっと前からいた人だ。昭和16年に兵隊に行く時期にいた人だ。兵隊から帰ってからもいた。以前から朝鮮人労働者がいた。
- ・昭和12年から掘りだしたが、軌道が通っていた。採鉱した鉱石を立里から金屋淵まで送って、五条までさく道で送っていた。軌道工事には朝鮮人労働者が働きにきていた。
- ・全部宇井に歩いて帰った。五条が集結地で、荷物は索道で送った。寮長がいて、労務の人が寝泊まりしていた。その人たちと五条に歩いて帰った。
- ・炭鉱も金屋淵鉱業はやってた。新宮の方だ。
- ・韓国の人はいかなかった。職員関係の人がいった。十人はいった。昭和23年2月ころ再開になり、戻ってきた。千原に移った。三井関係の会社でした。
- ・五条の二見温泉のへんにあった。妙じゅう寺（^{にちれん}正宗）のあるところにあった。
- ・月に一度映画会をやっていた。尾崎さん宅上の地でやっていた。素人芝居もやっていた。
- ・トラブルは一切なかった。
- ・女子挺身隊で勤労奉仕をした。
- ・落盤事故があった。菩提寺は真言宗で熊谷池。
- ・3キロほど掘っていた。
- ・弁当をもって仕事に行った。宿舎には賄い婦がいた。
- ・かるかや堂の手前にある熊谷寺
- ・別子銅山からも働きにきた。

佐藤 （経理）

- ・昭和16年から20年まで経理をやっていた。
- ・現場の係員が2人いて、軍籍のある人が管理していた。将校の階級をもつ人がいた。一人は少尉で、もう1人は将校の手前の人。労務担当の人だった。一人は軍人といいながら、兵隊嫌いの人であった。人をいじめたりしんなんだ。もう一人はいじめる。ひどい。朝剣道やると、はめ板にぶつけるといいうひどいことをした。その人はどこからきたかわからない。住友鉱山から発令された人だ。常時ではないが、軍刀をさげていた
- ・索道事務所が五条にあった。
- ・慰安所は知らない。
- ・配給所があった。物品販売所もあった。
- ・診療所もあった。医者、看護婦がいた。

(5)

中田ひろふみ （坑内夫）明治44年生。

- ・たてりで働いた。慰安所があった。日本人が3、4人いた。毎晩、忙しそうに交代していた。五条が橋本方面の人や。
- ・日本人がいかしてくれなかった。券をもらっていった。それないといけない。日本人はもらえない。金の残す人は日本人に売る。1月に一回か二回もらう。
- ・4坑口であった。一人死ぬ。
- ・家族づれはいなかった。一人もいらん。
- ・北海道は一人もおらん。
- ・逃亡する人は3、4、8人もいた。みな捕まった。 宇井方面に逃げる。
- ・朝鮮人が2回ほどきた。
- ・50ひと連れてきて、時期が過ぎればまた連れてきた。独身もんだ。
- ・朝鮮からきた。2回目も朝鮮からきた。
- ・坑内夫の仕事を朝鮮の人といっしょにやった。
- ・朝鮮の寮といっていた。
- ・私は京都の鉱山に移った。

(6)

連行された五〇人のリストは以下に示したが、~~朝鮮~~九二年二月三〇日に韓国で聞き取り調査を実施したことを報告しておきたい。リストにある韓国京畿道江華郡吉祥面温水里を尋ねた。「京畿道江華郡」とは、一八七五年に日本が李氏朝鮮（朝鮮王朝）に武力で開国を迫り砲撃外交で攻撃を受けた江華島内の郡である。ソウルから車で一時間半、漢江（ハンガン）を仁川（インチョン）に向けて走り、途中右に折れて、漢江を渡って検問所をこえて江華島に入った。そこで何人かの該当者である劉殷俊さんが本籍地どおりにいまも居住している事実をつきとめたが、すでに三か月前に亡くなられておられた。さらに聞き取り調査を行いたかったが、時間の関係でできずに引き上げざるをえなかったのは誠に残念だった。今後、江華郡への集中的な聞き取りを実施して史実をはっきりとつかむ努力を積み重ねることが必要だろう。

* 南王村は何度も足を運ぶ
* 基地の存在を知っていた
* 慰安所に存在する南王村
エピソード

まぼろしの大本営

太平洋戦争の遺跡

松代象山地下壕



■ 松代象山地下壕の現況 ■

長野市

長野市教育委員会

松代象山地下壕とは

松代象山地下壕は、第2次世界大戦の末期、軍部が本土決戦最後の拠点として極秘のうちに、大本営、政府各省等を松代に移すという計画のもとに構築したものです。着工は昭和19年11月11日午前11時。翌20年8月15日の終戦の日まで、約9カ月の間に当時の金で約2億円の巨費とおよそ延300万人の住民及び朝鮮人の人々が労働者として強制的に動員され一日三交替徹夜で工事が進められました。食糧事情が悪く、工法も旧式な人海作戦を強いられ、多くの犠牲者を出したと言われています。

松代地下壕は、舞鶴山（現気象庁地震観測所）を中心に皆神山、



象山地下壕の入口（西条・恵明寺口）

象山の3カ所に基盤の目のように掘り抜かれ、その延長は10km余に及んでいます。全工程の75%の時点で終戦となり工事は中止されました。

戦後40年余り、訪れる人も少なく忘れ去られようとしていましたが、太平洋戦争の遺跡として多くの人々にこの存在を知っていただくため見学できるように整備したものです。

防衛庁に当時の設計図が保存
防衛庁・防衛研究所戦史部に保存
されている松代倉庫（象山地下壕）
新設工事設計図。
地下壕の断面は、底長四角頂高二・七、二十センチ間隔に掘削されており、五十センチに横の連絡坑がある。
壕は倉庫と呼び、イ号（象山）口号（舞鶴山）八号（皆神山）の三カ所で掘削された。

※見学できるのは
西条口から500mの区間
午前9時～午後4時まで
（ただし 火曜日と12/29～1/3は休み）

入壕料 = 無料

見学できるのは、西条口（恵明寺口）から500mの区間です。見学者の安全のため照明や柵、落石防止の支保工などが施されています。壕は素掘りのままです。

※長年の風化によって壕内はもろくなっています。ヘルメットを用意してありますのでご利用ください。
※壕内では飲食、喫煙、落書き、集会等一般見学者に迷惑になるような行為は一切お断わりします。
※壕内でのつまづき、スリッパには十分注意すると共に結露による水滴にも注意してください。
※ゴミの持ち帰り運動にご協力ください。
※駐車場がないので公共交通機関をご利用ください。

見学者は次のことを守って入壕してください

松代倉庫新設工事設計図
岡田敏雄表紙 美奈玲執筆 東部軍管区経理部

壕内の安全対策



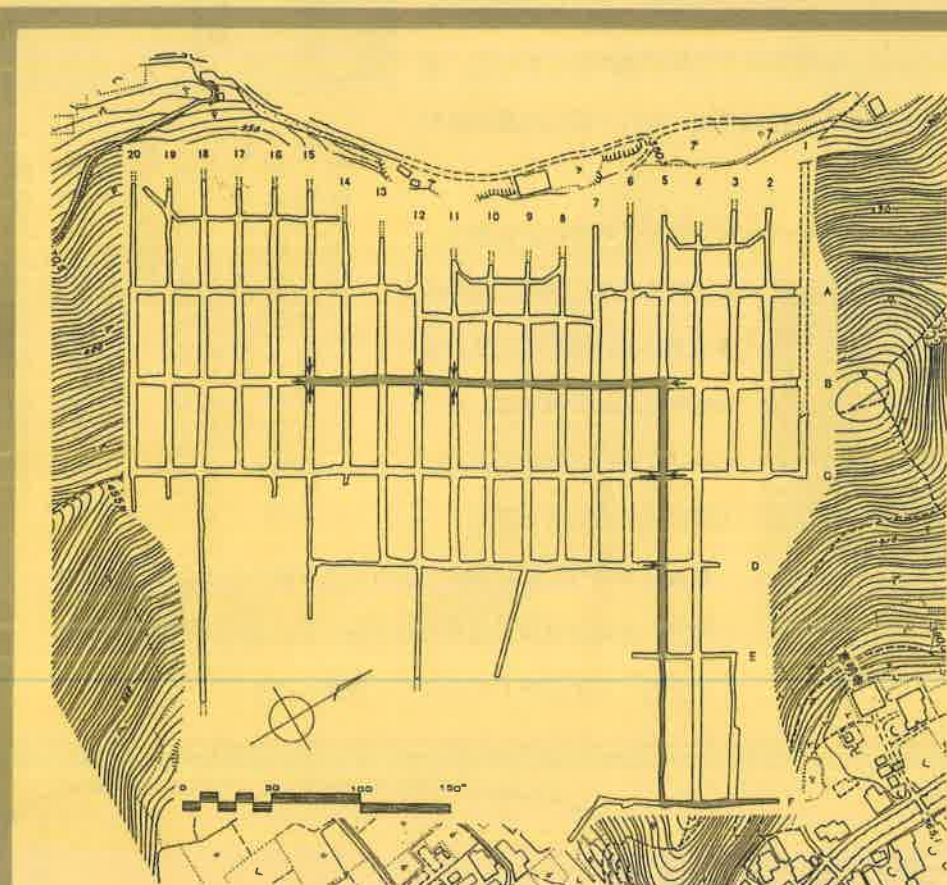
▲壕内に照明—通路のほか壕の全体像が想像できるように配慮



▲支保工—落盤防止の安全対策



▲柵—壕は墓盤の目のように掘られている、安全管理のための柵



■ 松代象山地下壕の現況 ■

(総延長 5853.6m)
(概算掘削土量 59635 m³)
(床面積 23404 m²)

見学できるコース
(延長 500mの区間)

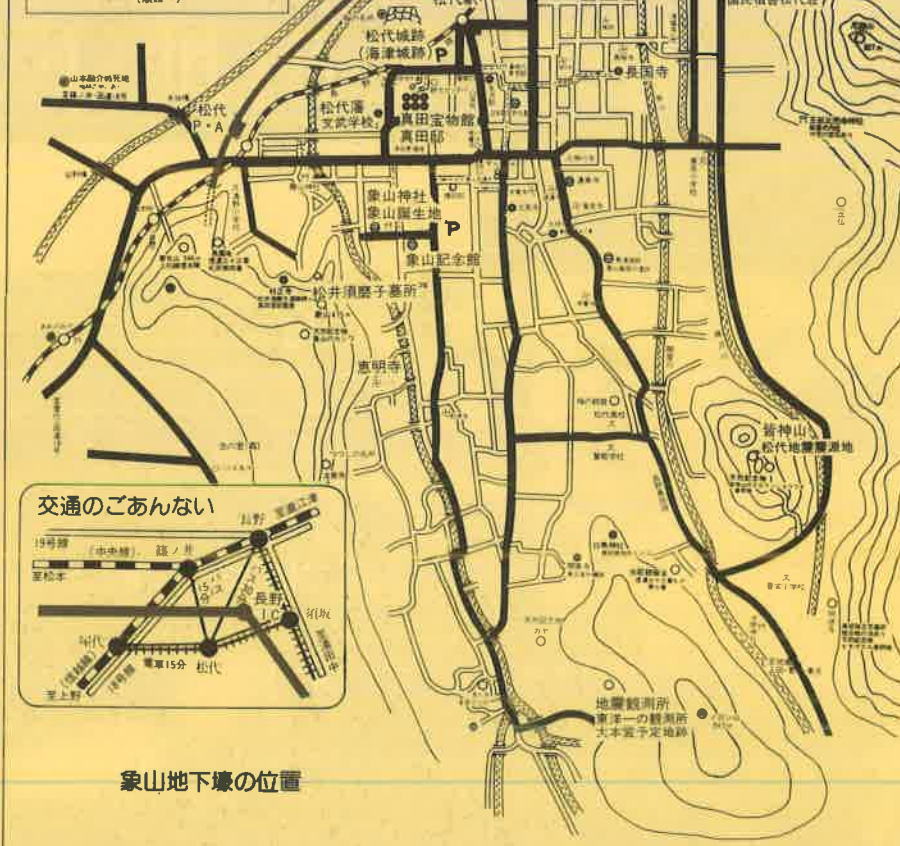
➡ 投光器

■ 松代地下壕の位置



史跡の町 松代ガイドマップ

- 凡例
- 真田家関係
 - 佐久間象山先生関係
 - 川中島合戦関係
 - その他の観光と史跡
 - 大型バス通行可能道路 (但し交通規制の所あり)
 - 松代史跡遊歩道 (緑線一)



象山地下壕の位置

▼ 壕内の生物 キクガシラコウモリ



壕内の主な遺物



▲qりを運んだトロツコの枕木跡



▲岩につきささったままの削岩用ロツク(約七十センチメートル)



▲岩に残る削岩用ロツク跡



▲壕の東西、水平を測った測点—壕の天井にある

ご照会は

■ 長野市商工部観光課
〒380 長野市緑町1613 TEL.0262-26-4911

「アジア交流センター」（仮称）設置構想の白紙撤回と被害者個人への「謝罪と補償」を求める声明（案）

各地で強制連行や旧日本軍「慰安婦」問題の調査・掘り起こし、戦後補償問題に取り組む市民たちが一堂に会した第5回「朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会」が7月30・31日の2日間、長野県長野市で開かれました。集会には〇〇〇人が参加し、活発な議論が行われましたが、その中で、政府が構想している「アジア交流センター」（仮称）計画に対する疑問と怒りの声がわき上がりました。

新聞報道によれば、政府は旧日本軍の「慰安婦」問題に対して、補償に代わり「おわびと反省の気持ち」を表す方法として、アジア・太平洋諸国を対象にした青少年・留学生交流、過去の歴史の共同研究などを行う「アジア交流センター」（仮称）の設置を構想しているといえます。しかし、徹底した真相究明と被害者個人への誠実な謝罪と補償を抜きにして、青少年交流のためのセンターを設置することが、なぜ「慰安婦」にされた女性たちに対する「おわびと反省の気持ち」を表すことになるのか、私たちにはまったく理解ができません。戦後補償と青少年の交流とは明らかに別次元の問題です。

「皇軍」と称した旧日本軍が、朝鮮半島をはじめとするアジア各国の女性たちを強制的に、あるいは甘言を弄して引きずり出し、各地の慰安所で日夜「強姦」し続けたことは、歴史的に明白な事実です。性の奴隷にされた女性たちは、負わされた深い心と体の傷ゆえに、戦後も戦争中に劣らぬ悲惨で屈辱的な生活をしいられてきました。昨年、日本政府は当事者たちの悲痛な告発におされて、ようやく事実を認めましたが、想像を絶する苦痛を与えた女性たち一人一人に対する謝罪すら行っておらず、国際的にも日本の不誠実な態度に批判の声が高まっています。

「慰安婦」問題に限らず、日本の植民地支配と戦争責任に対する根本的な謝罪と反省の欠如は、アジア各国の人々から厳しい批判を浴びてきました。こうした経過を踏まえ、真に日本とアジアの人々との「未来」を考えようとするならば、日本政府は、何よりも過去に対する徹底した真相究明と元「慰安婦」など日本の侵略の被害者に対する誠実な補償を行うべきです。そうした責任をないがしろにし、おざなりな幕切れを図ろうとする「交流センター」構想は、「未来志向の関係」作りに寄与するどころか、アジアの人々にさらに大きな不信感を植えつけることでしょう。このような計画を、私たちはとうてい容認できません。

戦後50年を前に、立法府として以下の措置を取られるよう強く要請します。

1. 日本政府に対し、「アジア交流センター」構想の白紙撤回を要求すること。
2. 日本政府に対し、強制的に「慰安婦」にされた女性一人一人に対して誠実な謝罪と補償を行うことを求め、立法府としても独自に調査、謝罪等を行うこと。
3. 「慰安婦」問題の徹底した真相究明のため、日本政府が調査のための専門機関を設置するよう要望すること。
4. 戦後補償立法を制定すること。

第5回「朝鮮人・中国人 強制連行・強制労働を考える全国交流集会」参加者一同